



連続フォーラム「**チョゴリときもの**」
～ 十回目の話 ～

財団法人京都市国際交流協会

はじめに

二〇〇三年で十周年をむかえたフォーラム「チヨゴリときもの」はその節目にふさわしく、過去にこのフォーラムに登場していただいた方々のうちから「そののちの在日」を語っていただくことができた。またいままでになかった試みとして、韓国・朝鮮の伝統行事を披露していただいた。いずれも意義ぶかい内容だった。十周年をむかえたことの意義はこの冊子の巻末部分でふれたのでそちらをご参照されたい。

今回の記録の中で私は「帰化」という用語にすべてカギカッコをつけていただくようにした。なぜならばこれから3世、4世の時代になると否応なく「帰化」が趨勢となることは避けがたいだろう。しかしここにひとつの問題がある。というのは「帰化」とは古代日本国家が周辺の他民族や異域に住んでいた異文化をもった人々を支配、服属させたときに意図的に用いた用語であるからだ。本来ならば近現代の国籍法にとりいれてはならない用語である。単なる生後国籍取得にあえてその用語を使用した側の政治的意図と蔑視感覚がよみとれる。これからの国籍、民族、多文化共生を考えるとときに一考を要する課題なのであえて問題提起をしておきたい。

目次

「チヨゴリとききもの」〜十回目のお話〜

第一回 ふりかえりフォーラム 『若者―その後』……………5

第二回 ふりかえりフォーラム 『生活―その後』……………51

第三回 実演 『祭祀―故人をとむらう心』……………87

第四回 実演 『トルチャンチ―一歳を迎えた祝宴』……………115

第一回 ふりかえりフォーラム 『若者―その後』

パネリスト

呉^オ

夏枝^{ハジ}氏

李^イ

史良^{シヤン}氏

コーディネーター

仲尾

宏氏

(京都造形芸術大学客員教授)

二〇〇三年二月七日実施

●ふりかえりフォーラム「若者―その後」

司会 大変お待たせいたしました。ただ今より、連続フォーラム「チョゴリときもの」の十回目の話を開催いたします。この連続フォーラム「チョゴリときもの」は皆さまのお手元の資料にもありますように、今年で十周年を迎えることができました。第一回目を開催したときは「在日韓国・朝鮮人は今―その生活と意見」という題でした。企画したきっかけは、国際交流事業をこちらの国際交流協会で進めていく上で国際交流の原点というものは何であるだろうかという考えから始めまして、皆さまの近くに住んでおられる在日韓国・朝鮮人のことを取り上げたらどうかかなということがそのきっかけであります。始めましたところは、この連続フォーラムがまさか今日のように十周年を迎えるとは思いませんでした。しかし、一回目の連続フォーラムを開催してみたところ、一般の方々には意外と在日韓国・朝鮮人の方についての理解があまりにも薄いということに気づきまして、その次の年もまたその次の年もということになって、今年十周年を迎えたわけでございます。一回目から十年間続けてコーディネートとして仲尾宏先生にお願いしてまいりました。今まで様々な問題を取り上げながら、出会ってきた「在日」の方々そして日本人関係者の方には、大変お世話になりました。この「チョゴリときもの」を通じて、在日韓国・朝鮮人のことについての理解が少しずつ深まっていくことを願いながら、十周年目のフォーラムを本日から開催いたします。本日のパネリストの方をご紹介します。まず呉夏枝（オ・ハジ）さんです。呉（オ）さんは、皆さまのお手元の資料の第八回連続フォーラムの「在日」の青年として岡村夏枝というお名前でご出演いただきました。今日は本名の呉夏枝（オ・ハジ）というお名前前で出演されております。そしてもう一人が李史良（イ・サリヤン）さんです。お手元の資料の第六回連続フォー

ーラムの高校生の思いとしてご出演いただきました。本日は十周年ということで、「ふりかえりフォーラム」を考えております。第八回目そして第六回目に出演いただいたときの思いであるとか、そのときのお話を元にしまして、今日までの身の回りの変化なども含めて、そのお話を聞いていただければと思います。それでは仲尾先生よろしく申し上げます。

第1回 連続フォーラム

在日韓国・朝鮮人はいま—その生活と意見

1993年10月～1994年2月

開催日	テーマ	パネリスト	国籍	肩書き(当時)	
10/15	歴史 ～ふるさとを離れて	王 利 鎬 (ワン・イホ) バク・キジョン	韓国 韓国	在日1世 在日1世	会社役員 会社経営
11/19	文化 ～わが家の韓国・朝鮮文化	張 今 珠 (チャン・クムジュ) 李 京 毅 (イ・キョンエ) 崔 澄 子 (チュ・ジンジャ)	韓国 韓国 日本	在日1世 在日2世	団体顧問 元学校教員 学校教員
12/10	教育～在日の心を育てる	松下 佳弘 (マツタ ヨシヒロ) 皇甫 任 (ファンボ・イム) 金 必 善 (キム・ビルソン)	日本 韓国 朝鮮	在日1世 在日2世	学校教員 運送会社勤務 民族学級講師
1/14	仕事・生活	林 仁 詰 (イム・イン Chol) 金 有 作 (キム・ユジャク)	韓国 韓国	在日2世 在日2世	会社経営 会社経営
2/14	若者と将来	金 仁 吉 (キム・インギル) 李 山 美 (イ・ユミ)	韓国 韓国	在日2世 在日3世	学校教師 在日韓国人 問題研究家
	懇談会	出演：アリラン舞踊研究所 (特別会議室)			

第2回 連続フォーラム

～新しい時代に向かう日本人、韓国・朝鮮人～

1994年12月～1995年3月

開催日	テーマ	パネリスト	国籍	肩書き(当時)	
12/24	在日韓国・朝鮮人の教育観	趙 順 南 (チョウ・スンナム) ユン・マルジャ	韓国 韓国	在日2世 在日3世	主婦 主婦
1/21	若者たちの祖国観と日本観	金 修 堅 (キム・スギョン) 池 栄 二 (チ・ヨンイ)	朝鮮 韓国	在日3世 在日3世	団体職員 団体職員
2/17	朝鮮文化とともに生きる	金 巴 望 (キム・ハマン) ベ・ヒョジャ	韓国 朝鮮	在日2世 在日2世	(財)高麗美術館事務局長 舞踊研究所アリラン 代表理事
3/18	国際社会、日本の中での 在日韓国・朝鮮人	リングホーフ・マンフレッド 藤井幸之助 (フジイ・コウノスケ) チョウ・クムジュ	オーストリア 日本 韓国	 在日3世	大阪産業大学助教授 『季刊 Sai』編集人・ 阪南大学教員 学生

第3回 連続フォーラム

～在日韓国・朝鮮人の誇りと将来～

1995年11月～1996年3月

開催日	テーマ	パネリスト	国籍	肩書き(当時)
11/24	国際結婚と民族文化	高 英 夫 (コ・ヨンフ) 時田 直子 (マキタ・ナオコ)	韓国 在日2世 日本	会社役員 国際結婚を考える会・京都
12/8	民族教育から生まれた 在日の心	白 吉 雲 (ベク・ギルウン) 河 佳 良 (ハ・カリヤン)	朝鮮 在日2世 韓国 在日3世	司法書士 会社員
1/19	在日の将来	金 宝 熊 (キム・ボヒ) 柴 松 枝 (シ・ソンジ) 朴 実 (パク・シル)	韓国 在日2世 朝鮮 在日2世 日本	団体役員 元民族学校教員 音楽家
2/16	国際化の中で共に生きる	金 明 姫 (キム・ミヨンヒ) 鄭 智 子 (チョン・チジャ)	韓国 韓国 在日3世	画家 団体職員

第4回 連続フォーラム

～日本に生きる在日韓国・朝鮮人～

1996年12月～1997年3月

開催日	テーマ	パネリスト	国籍	肩書き(当時)
12/20	民族意識と日本の学校	呉 成 元 (オ・ソンウォン) 上佐 雅一 (ドサ・マサカズ)	朝鮮 在日2世 日本	京都朝鮮第三初・中級 学校校長 京都市立松尾小学校教諭
1/31	日本で働く	尹 栄 騎 (ユン・ヨンギ) チョウ・テクシン	韓国 在日3世 韓国 在日3世	公務員 京都新聞社勤務
2/14	国籍が持つ意味と結婚	惣脇 春雄 (ソウワキ・ハルオ) 金 光 敏 (キム・クァンミン)	日本 韓国 在日3世	弁護士 希望の家カトリック 保育園保母
3/7	在日の老人福祉	柳 球 采 (リュウ・クチュエ) 叶 信治 (カノウ シンジ)	朝鮮 在日2世 日本	在日本朝鮮社会科学者 協会京都支部会長 京都市東九条在宅介護支援 センター・ソーシャルワーカー

第5回 連続フォーラム

～在日韓国・朝鮮人、その世代と意識～

1997年12月～1998年3月

開催日	テーマ	パネリスト	国籍	肩書き(当時)
12/19	教育で生まれる意識	林 煥 順 (リム・クスン) 犬 泰 典 (ア・テジョン)	朝鮮 在日2世 韓国 在日3世	団体職員 学生
2/6	名前への思い	宋 基 泰 (ソン・キテ) 巖本 明夫 (ゲンモト・アキオ)	韓国 在日2世 韓国 在日2世	グリーンショップ経営 建設業
2/20	生きる一老後	皇 甫 任 (ファンボ・イム) 朴 順 徳 (パク・スンドク)	韓国 在日1世 朝鮮 在日1世	運送会社勤務
3/20	1部 チョゴリファッションショー			
	2部 パネルディスカッション 「在日の現状と未来」	張 今 珠 (チャン・クムジュ) 金 巴 望 (キム・ハマン) 金 東 鶴 (キム・ドンハク)	韓国 在日1世 韓国 在日2世 朝鮮 在日3世	団体顧問 (財)高麗美術館事務局長・ 研究室長 団体職員
	3部 懇談会			

第6回 連続フォーラム

～子育てと学校教育～

1999年2月～3月

開催日	テーマ	パネリスト	国籍	肩書き(当時)
2/12	幼児と就学前の子を持つ 保護者	金 幸 代 (キム・ヘンデ) 金 慶 子 (キム・キョンジャ)	朝鮮 在日2世 朝鮮 在日3世	主婦 主婦
2/26	小・中学校に通う子を持つ 保護者、その1	許 福 美 (ホ・ボンミ) 朴 姝 姫 (パク・ジュヒ) 金 禮 秀 (キム・イエス)	朝鮮 在日3世 韓国 在日2世 韓国 在日2世	主婦 主婦 主婦
3/12	小・中学校に通う子を持つ 保護者、その2	白 吉 雲 (ベク・キルウン) 金 明 石 (キム・ミョンソク)	朝鮮 在日2世 韓国 在日3世	司法書士 団体役員
3/26	高校生の思い	李 大 佑 (リ・テウ) 新井 宏受 (アライ ヒロツグ) 李 史 良 (イ・サリヤン)	韓国 在日3世 韓国 在日3世 韓国 在日3世	高校生 高校生 高校生

第7回 連続フォーラム

～豊かな共生時代に向けて～

2000年2月～3月

開催日	テーマ	パネリスト	国籍	肩書(当時)
2/25	進学について(高校生)	嚴 光 男 (オム・クァンナム) 金 榮 吾 (キム・ヨンオ)	韓国 在日3世 韓国 在日3世	高校生 高校生
3/10	就職について(大学生)	朴 豊 子 (パク・ブンチャ) 金 智 恵 (キム・チヘ)	韓国 在日3世 韓国 在日3世	大学生 大学生
3/17	仕事について(社会人)	徐 正 吉 (ソ・ジョンギル) 李 倫 宣 (イ・ユンソン)	韓国 在日2世 韓国 在日1世	公務員 会社員
3/24	在日高齢者の福祉について(高齢者)	金 鳳 永 (キム・ボンヨン) 鄭 縉 淳 (チョン・ヒスン)	朝鮮 在日2世 朝鮮 在日2世	

第8回 連続フォーラム

～統一と和解を目指す祖国—在日はいま～

2001年2月～3月

開催日	テーマ	パネリスト	国籍	肩書(当時)
2/16	「在日の青年として」	岡村 夏枝 (オカムラ・ナツエ) 洪 昌 明 (ホン・チャンミョン)	韓国 在日3世 韓国 在日3世	大学生 団体職員
3/2	演劇「在日を生きては」	演劇：在日韓国学生同盟 パネルディスカッション： 金 愛 純 (キム・エスン) 金 光 志 (キム・クワンジ)	韓国 在日3世 韓国 在日3世	大学生 大学生
3/16	「子どもに教えること」	李 明 (イ・ミョン) 全 京 愛 (チョン・キョンエ) 土岐 文行 (トキ・フミユキ) 安藤 るりこ (アンドウ ルリコ)	韓国 在日2世 朝鮮 在日2世 日本 日本	学校教員 学校教員 教諭 教諭
3/23	「祖国を思う」	皇甫 任 (ファン・ボイム) 呉 鳴 夢 (オ・ミョンモン)	朝鮮 在日1世 朝鮮 在日2世	

第9回 連続フォーラム

～日本に生きる—国籍と民族～

2002年2月～3月

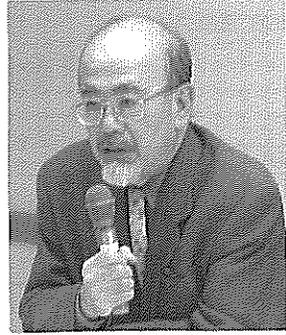
開催日	テーマ	パネリスト	国籍	肩書(当時)
2/22	「在日の介護の現場で —共に生きる」	鄭 緒 淳 (チョン・ヒスン) 金 斗 林 (キム・トゥリム)	朝鮮 在日2世 朝鮮 在日2世	京都コリアン生活センター エルファ事務局長 京都コリアン生活センター エルファ
3/1	「半世紀ぶりの故郷」	林 春 基 (リム・チュンギ) 琴 基 都 (クム・キド)	朝鮮 在日1世 朝鮮 在日2世	団体職員
3/8	演劇 「在日コリアンと日本社会 ～真の共生社会を目指して」	演劇：在日韓国学生同盟		
		パネルディスカッション： 李 太 現 (リ・テヒョン) 丁 香 織 (チョン・ヒヤンジャ)	韓国 在日3世	大学生 大学生
3/15	公演「民族芸能と共に」	京都造形芸術大学和太鼓チーム リファダンススクール・ アリラン		

第10回 連続フォーラム

～10回目の話～

2003年2月～3月

開催日	テーマ	パネリスト	国籍	肩書(当時)
2/7	ふりかえフォーラム 「若者—その後」	呉 夏 枝 (オ・ハジ) 李 史 良 (イ・サリヤン)	韓国 在日3世 韓国 在日3世	造形作家 大学生
2/14	ふりかえフォーラム 「生活—その後」	金 禮 秀 (キム・イェス) 朴 姝 姫 (パク・ジュヒ) 金 明 石 (キム・ミョンソク)	韓国 在日2世 韓国 在日2世 韓国 在日3世	主婦 主婦 学習塾経営
2/22	実演「祭祀—故人を とむらう心」	説明： 趙 享 植 (チョウ・ヒョンシク)	韓国 在日2世	
3/8	実演「トルチャンチ —1歳を迎えた祝宴」			



仲尾 宏氏

仲尾 皆さんこんにちは。今、主催者の鄭(チョン)さんから話
しがありましたように、このフォーラムは十回目・十周年を迎えまし
た。たまたま第一回目のときからコーディネーターを仰せつかりまし
て、私自身もこれほど長くこの仕事を続けさせていただくとは思いま
せんでした。でも考えてみれば、この京都市が国際化にどのような対
応するかということを実験に考えようということでこの企画が始めら
れたわけですが、現在、京都市の外国籍市民の中で在日韓国・朝鮮人
の方が約八〇%を占めております。それ以外に、日本籍を取られた方、あるいはダブルの子供さん方を
含めますと、人数はもっと大きくなるわけですが、韓国籍あるいは朝鮮籍として登録されてる方が約三
万三千人、今のような方々を加えますとおそらく四万数千人になると思います。そういう方々が京都市
の市民として、住民としておられる。その方々の思いを率直に語っていただくことで、日本籍の市民で
ある私たちがどのような思いを共につなげるかということがわかるだろうということ、もうここには
「在日」の方での有名無名ということに関わらず、お隣に住んでいらっしゃる「在日」の方々に登場し
ていただこうということで、この企画を続けております。続けてみますと、実にいろんな問題があり、
いろんな多彩な仕事をなさってる。喜びもあれば、苦しかったこと、皆率直に語っていただきました。
中にはかなりご年輩の一世の方もおられたんですけれども、その方々も幸いこの十年間ずっとお元気で
まだいらつしやいます。今日は、このようにお元気なことはお元気なんです、若い方にまず来ていた
だいで、かつて、何年前前にここに登場してきたときと今とかなり環境、お仕事などが変わつてる方を
まず登場していただいて、その移り変わりの中で自分が日本あるいは韓国・朝鮮についての思いがどの
ように変わつていったかというように今日はお話をさせていただこうということになりました。今

も紹介がありましたけども、李史良（イ・サリヤン）さんは一九九九年に第六回目のお話をいただきましたが、そのときは京都府立城陽高校の一年生でした。今は桃山学院大学法学部に進学されており、それからもう一人の二〇〇一年に登場していただきました岡村夏枝さんという日本名だったんですが、今は呉夏枝（オ・ハジ）さんという本名で仕事をなさってます。仕事といっても、かつては岡村さんは京都市立芸大の大学院一回生で染織を専攻されておりましたが、今は韓国（「大韓民国」以下韓国という。）へ留学されておりまして、たまたまこの時期に休暇で京都へ帰って来ておられる、そういう大変ラッキーなことがあります、今日ここに来ていただきました。それではお二人からそれぞれ約二十分ずつお話を聞きまして、皆さま方のお手元に質問票があると思いますが、それに質問などがありましたら休憩時間中に書いていただいて、それをもとにして後半のセッションに移る仕組みであります。それでは李史良（イ・サリヤン）さんからお願ひします。



李 史良氏

李史良（イ・サリヤン） ただ今ご紹介にあずかりました李史良（イ・サリヤン）と申します。現在、桃山学院大学法学部の一回生です。前回出演させていただいたときは、先ほど仲尾先生が言ってくださったとおり京都府立城陽高校の一年生でした。前回どのような話をさせていただいたかといいますと、自分の今までの体験などを中心に話をさせていただきました。今回は変化ということなんですけれど、変化としては高校生から今大学生に変わったということが一番大きな変化の中での変化ではないかなというふうに思います。現在、法学部で勉強しているわけなんですけれど、また前回の話に戻りますが、前回どういふことを話させていただいたかなと思ひまして、自分が

話したことをアジアの風文庫で先週ぐらいに見てみたんですけど、僕は前回の話の中で、歴史を学びたいということと、弁護士になりたいなことを話していました。弁護士という意味では現在、法学部を選んだことは当たり前前の選択といえそうなんですけれども、歴史学という面でいえば、法学とはまた違うこととなります。ではなぜ自分が歴史学でなく法律を選んだのかといいますと、非常に今でも自分の中で歴史学を学びたいという意欲はありますが。法律という科目において、やはり「在日」という視点から見ますと、法的地位であったりだとか「在日」を取り巻く環境というのは法律に沿って考えてみても、やはり地位が低いなということが言えると思うんです。それを考えてみたときにやはりこれから自分がどう「在日」問題と関わっていくかという点で、自分は法律を学び法律を活かした職業で「在日」問題に取り組んでいきたいなということが自分の中で大きくなったので法律学を学ぶ、そして、法学部に進学しようということになりました。大学生になって、今年一年間法律を学んできたわけなんですけれども、自分に合っている科目、あまり合わないなという科目もあるんですが、自分の中で憲法を中心にして学びたいと思うようになりました。なぜかといいますと、日本の憲法は平和憲法と言われています、しかし、皆の人權が守られてるかというのと、「在日」において人權が守られてるかという、果たしてそうではないなということが言えると思います。参政権の問題にしろ、裁判所で違憲ではないという判決が出ています。現在、地方参政権については「在日」にとって参政権は得られていません。在日外国人においてもそうです。今そういうようなことを憲法を中心として勉強していきたいなと思っています。そして前回出演させていただいたときから自分の中で一番もう一つ大きな変化といえば、自分が最近自分自身を説明するとき「在日朝鮮人」という言い方に変えたことです。前回出演させていただいたとき自分は「在日韓国人」だというような言い方をしたと思うんです。そして以前からの変化の過程というのは昨年ワールドカップがありました、そのときに運良くチケットが手に入って

韓国に行くことができました。韓国対ポーランドという第一戦を釜山で見ることができました。一泊二日でその競技場にいた時間が実質二十四時間ぐらいでかなり焦ったものなんですけど、非常に貴重な体験ができたと言えます。その貴重な体験というのは競技場に入ったときに、皆さんご存じかと思いますが、真っ赤なユニフォームを着て観衆が「デハンミングク（大韓民国）」とか「アリラン（朝鮮半島の民謡）」を叫び、歌っているんです。そんな中で試合が始まって、日本の友達と一緒に رفتたんですけど、その中で日本の友達が「おまえの国すごいな」と言ってくれたんです。多分この言葉を友達はずごく純粋な気持ちで言ってくれたと思うんですけども、その言葉を言われたとき僕は、時が止まったような感じがしたんです。今まで自分はなにげなく在日韓国人と言ってきたけれど、日本の植民地支配の結果、日本に居住せざるをえなくなり、そして紆余曲折を経て今は「韓国籍」をもっているけれどもその自分の国籍だけをもって「韓国人」といえるのかと思うようになりました。そして今現在に至るのが「在日朝鮮人」という言い方です。これについてはやはり自分のルーツがハラボジつまり祖父であったり、ハルモニー自分の祖母が朝鮮という国から来た。そして、日本の植民地支配の所産である自分を考えると、やはり「在日朝鮮人」というほうがいいのであって、僕は別に韓国から来て単に来て住んでいるわけではありませんし、そこで自分自身を説明するとき「在日朝鮮人」ではないのかなというふうに思っている、最近「在日朝鮮人」という言い方をしています。その変化が自分の中で一番大きく変わった変化じゃないのかなというふうに思います。そしてその変化というものはやはり人との出会いで生まれたと思います。桃山学院大学には「在日」の先生が何人かいらっしやるんですけど、一人の「在日」の先生と出会って、すごく僕に対していろいろ気を使ってくれるのです。例えば、留学生の人と話す機会を設けてくれたり、そういうようなことをしてくださるので非常によい先生とめぐり会えたな、いい出会いができたなと思っています。留学生の人と話すなかで思うのは、僕はやはり「韓国人」ではないなと

認識させられます。「韓国語」つまりウリマルはほとんど話すことができませんし、そういう中で自分が在日「韓国人」であるという意識はだんだんだんだん「在日韓国人」でなく「在日朝鮮人」じゃないのかなというふうに思うようになりました。今、韓学同（在日韓国学生同盟）というものに入っているんですけど、韓学同というのは大学の枠を越えて在日の学生が集まってくるんですけど、その中での出会いというのがやはり同じ「在日」ですけれどそれぞれ境遇が違う、それまでの生きてきた過程が違う人間がそれぞれ「在日」ということを共通にしてその場が集まる、そういうような特殊な空間で学び、いろんなことを考えさせられるという点で、韓学同に行つたというのいろいろな人の出会いができたという面ですごく自分は恵まれているな、その場にいられたことがすごくありがたいなというふうに思っています。今現在日本に生きていて、「在日」というものは地位も低いこともあります。一番今怖いと思うのは日本が右傾化していつてることです。やはり拉致問題にしても、「在日」として見たときに共和国（北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国））以下、共和国という。）の態度は自分は許せないんですけど、日本の今の状況というのが非常に「在日」として生きにくい社会になっているなというふうに感じます。例えば電車の中に乗っていて、「北朝鮮怖い国やな」ということをよく聞きます。電車に乗っていて、自分が「在日」としてそこにいて、朝鮮人としてそこにいて、同じ民族のことをそういうふうに言われている。もちろん共和国がいい国だとは思いませんけれども、そういうことを言われる。非常にだんだんだんだん怖いというふうになりなりました。実際問題、朝鮮学校に対する嫌がらせというものも出てきていますし、そういうことを考えてみても、本当にこれが多文化社会だつたりだとか国際社会だと言えるのかなと思います。もちろん共和国がやったことは国家犯罪であることは間違いないんですが、なぜそのようなことがおこつたのか、なぜそのようなことがおこなわれたのかということに目を向ける必要があると思います。また「在日」という存在がいるということももう一度考えてほしいと思います。

国家よりも人間があつて国家があるものですから、人間としてそこにいると「在日」を認識してほしいなと思います。現在、僕は去年の十一月三日で二十歳を迎えることになりました。二十歳を迎えて思うのはやはり参政権の問題です。参政権がないというのは自分が投票、意思を明確にするという機会が得られないという点ですごく悲しいなと思います。参政権を願っているんですが、やはり得られない。これはなくて気付くものじゃないのかな、あつて気付くんじゃなくて、ないからこそそのように思うんじゃないかなというふうに思います。現在「在日」というものもだんだんだん多様化していつてる中でダブルであつたりだとか、日本籍の朝鮮人であつたりだとか、今のように韓国籍の人だつたりだとか、朝鮮籍であつたりだとか、そういう人たちが様々いますが、「在日」というものがどんどんどん多様化していくなかで果たして「在日」がこれから先どのようにして残っていくのかなというのが今非常に僕が関心を寄せているところです。これから先の「在日」のことを考えてみたときに、果たしてこのまま「在日」が意識面において十年後二十年後残っていくのかなというのが危機感としてあります。それは例えば「帰化」していく人の人数であつたりだとか、「在日」が「在日」としてある故のアイデンティティー（自分らしさ）を持つ機会がなく、そのまま失われたまま生きていくという人が増えていくという点で、これから先本当に「在日」が「在日」として生きていく、どれだけの方が日本籍であるとかという点に限らず「在日」として生きていくんだろうというふうに思います。「在日」というのが減っていくというのは悲しいことなんですけど、減っていく人もいるけれども、なんらかの形で自分のアイデンティティーを持つという人が必ずいるはずなんです。そういう人たちに僕は非常に希望を持っていて、そういう機会を得られる場所、例えばこういう場であつたりとだか、そういうことで多くの機会が得られるような努力をこれから先僕は続けていきたいなと思います。そういうことに関係した職業だつたりとか、そういうことに常に関わっていられる職業でありたいなというふうに思います。現在僕は大学の一

年生なんですが、あと二年、三年、四年とあります。この先のことを考えてみたときに、自分が果たして、さつき言いましたように「在日」の問題に関わっていきたい職業と言いましたが、昔言っていたのは弁護士なんですけど、弁護士以外にもすることはいろいろあるんじゃないかな、法律を学んだところで他のこともできるんじゃないかなと思っっています。現在はあまりしばることなく、幅広い視点で物事を見ていきたいなと思っっています。その中には自分が今どうありたくて、どうなりたいのかということ、常に自分に対して問いつ返す作業が重要なんじゃないかなと思っっています。そして自分が「在日朝鮮人」として生きていく中で、一つ自分の中で得たものがあります。それは客観的な視野を持つてたということだと思います。客観的視野というのは日本人でもなく韓国人でもなく共和国の人間でもない。そういったときに「在日朝鮮人」としてどこにも帰属してないという点である意味危険をはらんでるのかも知れませんが、客観的視野を持つことで国家であつたりとか、人であつたりだとかということを見ることに客観的な判断だつたりを持てることのできたというふうに思っています。これからさき生きていく思うようになりました。これは生かさないう手はないなというふうに思っています。これからさき生きていく中で「在日朝鮮人」である利点というものを生かしていきたいなと思っっています。現在すごく社会が右傾化していつてゐるんですが、そしてまたナショナリズムが高揚して、アメリカが戦争を起こそうとしてゐる。こういう状態は好ましくありませんし、もう二度と「在日」のような人たちが出てきてほしくないです。こういうような状態にある人たちがこれから先の未来増えてほしくないですし、そのようなことが起る原因となる戦争というものをもう二度とどこの国もしてほしくないなというふうに思っっています。そのためには相手をまず自分と一緒にするのではなく、違ふんだという認識。例えば日本人と「在日」というものはもちろん違ふものであつて、まず違ふということを認識することが大事だと思っっています。認識して、その違いを楽しめれば一番いいんですけども、それより何よりも相手の違いというものをまず認

識する。そのためには「在日」というものがこの日本に五十万人いるということを多くの人に知ってほしいと思います。それが第一の作業じゃないかなと思います。「在日」に対する差別であったり、国籍条項の問題だったりとか参政権の問題であったりだとかというのは、まだ全然解決されていませんが、そのためにはまず「在日」というものを多くの人に知ってもらうことが第一の作業じゃないかなというふうに思います。どんな場合でも相手の立場になって考えるというのが重要で、戦争をされる側が戦争によって攻められる側がもし自分が戦争をされて、戦争が起こって、自分が攻撃される身になったらという立場になって考えてみたときに、戦争をすることが本当に利点になるのか、自分の利権だけで戦争するのがいいのかということになります。それは人間関係も一緒だと思います。もしこれを言ったら自分も言うことによつて相手はどういうふうになるのか、これが異文化であったりとか、異国間であったりにも応用できるんじゃないかなと思います。「在日」の場合でも相手の立場になって考える。相手だったらどう思うだろうということを考えていただければ、やはり解決というのは近づくんではないのかなと思います。現在の「在日」の状況は決していいとは思いません。しかし、過去から今日まで考えてみたときに、前回僕がしゃべったときよりも、例えば日朝交渉が今暗礁に乗り上げていますが、日朝交渉が行われたという、すごく進展したと思います。韓国と共和国でもトップ会談というものが行われましたし、今、時代というものはものすごい速度で動いていると思います。そして国家というものすらもこれからさき続いていくのか、という考えが出てきています。これだけお金と物と人が動き出せば、国境とかそういうものが完全にボーダー（国境やさかい目）となり、またグローバル化（地球規模化）していくという状況の中で、どれだけ国籍というものが重要さをはらんでいるのかなというふうに思います。ともかくやはり日朝間だったり日韓であったりというものは、過去の清算が行われてこそ本当の関係が築けるものだと思います。その関係に「在日」がどれだけ関わられるのかは僕ら次第じゃないかなと思

います。くだらない話だったとは思いますが長々と話させていただきました。本当にご静聴ありがとうございました。うございました。

仲尾 それでは続いて呉夏枝（オ・ハジ）さんお願いします。



呉 夏枝氏

呉夏枝（オ・ハジ） こんにちは。呉夏枝（オ・ハジ）と申します。

よろしく願います。二〇〇一年に私が大学院一回生のときにこちらでお話をさせていただいたんですが、今、私は先程も紹介いただいたように、韓国に去年の八月の終わりから留学に行ってます。いろんな思いがあつて留学を決めたわけなんですが、一つの目的としては韓国語を習得すること。あとは私は染織を専攻して民族衣装などに大変興味を持つてるんですが、そういう向こうのチマチョゴリの縫製やそういうことを勉強したいということ、やはり自分が「在日」として日本で生まれて、韓国という国と自分との関係というものを生活をしながら少し感じてみたい、考えてみたいという思いがあつて韓国に留学することに決めました。今日お話をさせていただく内容はその留学のお話で、どういったことを向こうで感じてゐるのか、どういう経験をしているのかということをお話しできればいいかと思つてゐるんですが、まずその前に名前についてお話をさせていただきたいと思つています。前回紹介いただいたときはそうなんですが、前は岡村夏枝という日本名で出させていただきました。今回は呉夏枝（オ・ハジ）という私の韓国名で出させていただきました。私はこの二つの名前のことを通名と本名というふうに自分では分けておりませんので、韓国名と日本名というふうに自分の中では分けてゐるんですけど、前回出

たときはまだ自分が「在日」として考えることが混沌としていたので悩んでいる間は自分が今まで使ってきた名前前でしようということで岡村夏枝という名前前で出させていたんですが。その後二年経つた中、李史良（サリヤン）君が今在席している韓学同（在日韓国学生同盟）というグループに所属して、自分たちが負ってきた歴史や日本での自分の位置なんかを勉強したり、そこで出会った「在日」の仲間たちと話をしたり、大学で一緒に勉強している友達と話す中で自分の中でこういつた名前のことに關して自分の立場を明確にしていきたいという思いができましたので「呉夏枝（オ・ハジ）」という名前も使うことにしました。実際この名前を使うときはどういうふうに使分けられているのかといいますと、自分の意識の中ではこういつた公の場で皆さんの前で思いを発表させていただく機会や、私は作品を制作してるんですが、作品を制作していく上で自分の作品を出すときにはこちらの名前を使うようにしています。ふだん生活しているときなんかは「岡村夏枝」で、お友達からは「なつえ」とか「なつちゃん」とかいろんな風と呼ばれてるんですけど、そういうふうに使っています。作家としてと自分の「岡村夏枝」としてというのとはもちろん分けられるわけじゃないので、そういうところはミックスしながら使っています。それが自分であるかなというふうに思っているんで、別に混乱することもなく。ただ周りの人のほうが混乱することが多いようですが、それはそれで私はおもしろいことじゃないかなと思ってまして。名前が一つであることというのが普通だというのは誰が決めたんだって思っていますので、それを感じてもらいながら、そこで疑問を持った方にはいろいろ話を聞いていただけるといふことで、「なんで二つなん？」と聞かれたときには、これ幸いと思って「それがねー」という話をしながら、そういうきっかけにもなるので名前を二つ使うことにしました。やはり作家としてというのは、自分が芸術活動をしていく中で芸術活動というものが個人と社会とをつなげる媒介であってほしいという思いで作家活動をしているので、そういった意味では自分が前に出るとき発表するときなんかにはこの名前を使うのがいいの

じゃないかということ。自分が与えられた社会の中での立場というものに対して、自分がどう応えるのかということが私のこの名前を使うという、それに対しての表現の一つとしてこの名前を使うようにしました。二年の間にそういうことを考えながら、留学のことも下準備しながら練ってきたわけなんです。名前については大体このような感じで自分で考えています。留学して感じたことなんですが、今はソウルに留学しています。ソウルに八月の終わりに行って、九月、十月、十一月と語学学校に通ったんですが、その語学学校というのが韓国のいわゆる在外同胞のための教育施設、教育機関でして、つまり韓国以外に住んでいる韓国にゆかりのある人たちが集まって言葉や文化や歴史を学ぶ学校なんです。です。在日、在中、在ブラジル、在ドイツ、在アメリカ、いろんな国から韓国を共通項に学生であったり若い三十歳ぐらいまでの人が集まって一緒に勉強しています。その中で面白い経験だったというのが、世界をつなげて自分と同じような立場の人と出会う。環境が違って、その国それぞれの考え方の違いもそこで感じられたのがすごく面白い経験でした。私は全く韓国語ができなくて向こうへ行ったので、初級クラスから入りました。それこそ「ア・ヤ・オ・ヨ」「私は何々です」から始まったんですけど。そのときに私のクラスにいたのが在中の友達と在ウズベキスタン、在ロシア、在ドイツの友達と「在日」の友達が一緒だったんですけど。そのときに感じたことというのが、例えば授業で初級クラスなんです。生たちが「こういうフレーズを言ってみましょう。私は何々です。私の名前は何々です」から始まるんですけど、「私の名前は何々です。私はどこの国から来ました。私は何々人です」。そういうことを自分に当てはめて練習して行くんですけど、そのときに「皆順番に言っていて」と先生が言っていくんですけど、大体中国とか他の日本以外の国から来た人は「中国から来ました。私は中国人です。私は何歳です」ということを言ってるんですけども、在日の学生になると「私は日本から来ました。私は韓国人です」というふうになるんです。そういうふうに答えてるのを聞くと、自分でもどっちを答えようかなと

思ったりもしたんですが、「韓国人です」と言いながら答えてたんですけど。おかしいなと思ったんです。隣の中国人の友達も私たちが「韓国人です」と言ってるのをおかしく見て、「えっ、なんで？」みたいな顔してるんです。でも学校の先生たちは「在日」の立場をわかっているから、それを普通に受け入れてるんです。そういうことを経験すると、「在日」というものが世界でも特殊な存在なんだということを感じました。執拗に国籍にこだわらされているというか、国籍に強い思いを持った人間たちで、結局それは日本が持つてゐる国籍に対する意識がそこに表されているのではないかなと思つてゐるんですけど。そういうことを感じながら、それが現状なのじゃないかなというふうに留学をして他の国の友達と会つて、そういうことを感じました。やはり他の国から来た友達というのは国籍というものをただの箱のようなものを感じてゐるように思へたんです。それはただの箱という軽い意味ではなくて、純粹にそういうふう感じられるということが私にとっては少しうらやましく思いました。そういう感覚で「在日」も感じられるようになるのが私はいいのじゃないかなと、そのとき思つたんですけど。今の日本の現状や、先程李史良（イ・サリヤン）君が話してくれた法的地位だとかそういうことを考えると、なかなかそういうわけにもいかないなというふう思うので。そういうことが改善されながら、「ただの箱である」という感覚でお互いが受け入れられて生活できるようになればいいなと私は思つてゐます。「在日」として向こうに行つてまず感じたことはそういうことです。向こうで勉強してるのが、他にはもう学校へ行つてないんですけど、向こうの東大門（トンデムン）市場というところがあるんですけど、そこでアルバイトをしながらチョコリを作つてゐるお店で少しづつ習いながら勉強してゐるんです。それは全然私の趣味の範囲なのでとても楽しくやらせてもらつてゐるんです。そういう経験も踏まえてなんですけど、教えてもらつてゐる先生はすごく、チョコリとか向こうの民族衣装のことを総称して「韓服」というんですけど、「韓

服」を愛されている方で、そういった方から教わると、私もすごく「韓服」のいいところや面白いところを発見できて、向こうの言葉で「イエブダ」という言葉があるんですけど、それは美しい・きれいな意味なんですけど。先生がチョゴリを見ながら、「ここがイエブダ。こういうのがイエブダ。ハジ、わかる？」みたいなことを言いながら、私は言葉があまりよくわかってないんですけど、そういう感覚でつながっていきける。自分もそういうものが好きで、そういうところで感性がつながっていきけるという経験はすごく面白い。国籍とかそういう違ったもので違いはあるんだけど、人間の感性としてそういうところであつなかりを感じられた経験というのはすごく面白いです。あとは東大門市場でアルバイトをしているので、まさに生活の中に入っているといった感じで、ムカツクことももちろんありますけど、やっぱり楽しいです。私が出会う人がそうなのか、他にそんな嫌な思いをしたことはあまりないです。日本人に対してとか日本から来るものに対して、そんなに市場の人間だからかわからないですけど、あまり生活をしていて偏見を感じることはないです。ただやはり韓国人がどう思っているかという報道を日本で見られると思うんですけども、そういうものというのには報道機関が作っているか、政治が作っているというか、そういうものではないのかというふうには思っています。そういうものには自分で惑わされないようにしっかりと考えていければいいかなと思います。そういうことを留学をして感じてるんですけど、自分でこの間出させてもらって二年経っているいろいろ考えたことというのは、私が「在日」というのは社会から与えられた役割のようなものに最近感じています。もちろん不当なことがあるので、それに対してはハッキリと「いやだ」と言えるようになっていたんですけども、そのことで先程李史良（イ・サリヤン）君の意見とも合うんですけど、世の中がやっぱり見えてきたなど、一人の人間として、多分それは国籍は関係ないと思うんです。日本籍の方もそうだと思うし、韓国籍の方もそうだと思うし、やはり何かによって操られているような操られそうになっている

ということをどれだけ自分が気付いて、どれだけ反応できるかということが大事なんじゃないかなというふうに思っています。最近は何人が所属している国家とか国というものの思いがバラバラになってきてると思うんです。それが顕著に現れているのが三年前のテロの事件だと思ってるんですけど、そういったものが行われてる中で、やはり報道であったりとか情報がたくさん入ってくる中で、判断するのは難しいとは思いますが、自分が今まで培ってきたものや、公正な目をどれだけ持って進んで行けるかということが、大事ななというふうに最近思っていて、それを意識してこれからも行こうと思います。話はこれだけなんですけど、向こうで私が習っているものも持って来たので、どういったものがあるのかというのをちよっとお見せしたいなと思っと思って来ました。チマチヨゴリは持って来れなかったの小さいものを持って来ました。これが向こうの風呂敷で、まだ小さいサイズなんですけど、韓国語でボジャギといいます。いろんな色の布をつなぎ合わせて作っているんですけど、このボジャギを四年ぐらい前に初めて韓国に行ったときに「あつ、すごい。日本にないものや」と思って感動して、そこから韓国のそういうものに惹かれていったんです。チマチヨゴリを作った切れ端を縫い合わせて作り始めたというふうに言われてるんですけど、こういうものを今習っています。こういうもので自分で作品も作っているの、日本の人にいろいろ紹介しながらもいろいろやっていけたらいいなと思っています。以上です。

仲尾 ありがとうございます。最初のこの会に来ていただいたときからそれぞれ四年目、二年目ですが、非常にそれぞれに自分らしくなられたと思います。またいろいろ皆さん方からの感想・質問をお受けしたいんですが、今の二人のお話の中で出てきたことで、少し整理の意味で私が説明をさせていただこうと思います。一つは韓国の韓、あるいは朝鮮の言い方。これはどこに起源があるかといいますと、

まだ朝鮮半島に国家ができるかできないかという時代に歴史学上では古朝鮮という言い方があります。朝鮮というのは日本列島でいいますと弥生時代の頃です。その頃から朝鮮という名前がありました。同じく韓国の韓、韓国・朝鮮語でハンですね。これもやはりその頃からありました。韓族という民族がいたというようにもいわれています。朝鮮というのは「朝の鮮やかな国」という大変美しい意味合いです。韓国の「韓」というのは「偉大」な、「大きな」という意味です。いずれも非常にいい意味です。それがずっといろんな形で使われてきましたが、特に近世、日本でいうと室町時代と江戸時代は朝鮮半島では朝鮮国という王朝が成立しておりました。日本ではかつていわゆる李朝という言い方があったんですが、国名としては朝鮮国でした。ですから日本では朝鮮半島・朝鮮人という言い方はごく普通に言われてきたわけです。韓国の韓はその後、近代になってから、大韓帝国というように国称を変えたことがありますが、日本の韓国併合の直前です。そのように歴史時代にそれぞれの間で両方が互いに使われてきたので、どちらもいい意味でもあり、妥当性のある言葉であります。それに人を付けて朝鮮人、韓国人という言い方がありました。次に「在日」の方についての、それが国籍と関わってくるのは一九一〇年の韓国併合で一斉に朝鮮半島の人々は大日本帝国臣民とされました。戦後、一九四七年五月二日に外国人登録令という勅令が出まして、そこで朝鮮半島出身者は全員朝鮮として登録せよという命令が日本政府から出たんです。それが外国人登録、のちに法になります。登録上は全部朝鮮人でありました。まだ今の北と南の二つの国家が成立する前です。一九五二年に日本がサンフランシスコ条約に調印して、その条約が発効したときに日本の当時の法務府は旧植民地出身者は日本国籍を失ったものとするという民事局長通達を出しました。一方的に日本政府の意思で日本国籍がなくなつたというわけです。もう一つ最後の節目は一九六五年の日韓条約です。日韓基本条約に付属して「在日」の地位の協定をめぐる協定ができました。そこで大韓民国の国籍を取得したものは二十五年間の日本在留を認めるといふ協定ができました。

た。今、日本に来てゐる「在日」の多くの方は朝鮮半島南部の出身者ですから、故郷への往来なども考へると、じゃあ韓国籍という形で登録をしようということでも外国人登録法上も国籍上も韓国に替えられた方が次第に増えてきたという経過があります。けれども朝鮮のままでもいいじゃないか、とか別に替へる必要もないと言われる方も今日本におられるわけですから、その方々は朝鮮人というように名乗っておられますが、これは先程の李史良（イ・サリヤン）君の話にもありましたように、どちらを名乗ろうがそれは国籍法や外国人登録法上の問題とは別に自分で選んでそのように名乗っておられるわけです。最近ではどちらでもない、どちらかを名乗るのは何か分断の一方に荷担するようで嫌だから「在日コリアン」でいこうと。そういうコリアンというふうにな乗っておられる方もおられます。そういうわけで国籍の問題と何々人という言い方が、そういった戦後の日本の政策によって替えられてきたという面が一つあります。呉夏枝（オ・ハジ）さんのお話の中で出てきたことで韓国に行つてみると、中国から来てる人は中国人だと言うところがあるけれども朝鮮族の方おられるんですね。朝鮮半島の北の方において日本の植民地政策で生活できなくなつて中国の東北地方、旧満州へ逃れた人が今二百万人以上おられます。その方々は国籍は中華人民共和国、民族としては朝鮮族です。そういうことがはっきりアイデンティティーとしてもあるいは中国の国籍法としても確立しているわけです。だから民族としては朝鮮族です。けれども何人と言われたら、自分は中国人だと思つて。そのように言つてる人が非常に多いです。私の大学にも最近朝鮮族の留學生の人が何人か来てますけど、彼らは「私は朝鮮族だけど中国人です」と言つてます。そういうことをお感じになつたんだと思ひますが、これに関しては皆さんいろいろ質問などあると思ひますので、ご質問に應じて答えていきますけど、大づかみにいって、そういうことをまず少し頭の中で整理しながら、いろいろご質問やご感想をいただければと思ひます。

司会 ありがとうございます。先程の国の名前の話なんですけど、日本でいう「李氏朝鮮」という言葉、名称は私みたいに韓国から来た者としてはちょっと違和感を感じる言い方に聞こえます。朝鮮という朝鮮半島において非常に長い歴史を持つて一つの国を日本で李氏一個人の国としての言い方をするのは、韓国に住んでいる人、私みたいに韓国から来た人にとっては違和感を感じたりする場合があります。

仲尾 それについて言いますと、日本の江戸時代、室町時代は「李氏朝鮮」というような言い方は全くなかったんです。「李氏朝鮮」という言い方が出てきたのは結局のところ近代になってから。日本の韓国・朝鮮への植民地政策が始まってから、そういう言い方が出てきました。ですから今の韓国や朝鮮の方々がいい感じがしないというのは、おそらくそういうことでの記憶と重なっていると思います。ちなみに李氏というのは李成桂（イ・ソンゲ）という人で、朝鮮国の初代王朝を建てた人の名前ですから、日本でいうと徳川氏日本とか足利氏日本とか、そういう言い方でしかないのです、そういう用法からしてもおかしいです。しかし焼き物なんかで、李朝白磁とかそういう言い方で日本では戦前に定着してしまっているので、今でも年輩の方はそういう言い方をされます。まさしくその起源はそういうところにあるので、今鄭（チョン）さんの言われたことは私は歴史的起源からして当然のことだと思えます。

司会 今皆さまのお手元に質問・意見用紙があると思いますが、そちらに一部でお話いただきました内容についてご意見とかご質問などありましたら、お書きになってこちらに出してください。こちらの箱を机の上に置いておきます。ただ今より約十五分ぐらい休憩に入ります。遅くとも三時ぐらいまで用紙を出していただければ、三時五分ぐらいには二部の質疑応答が始められると思います。この箱も

ボロボロになって汚くなっておりませんが、十年前から使っております。あえて今日、出しておきました。よろしく願います。

(休憩)

司会 貴重なご意見とご質問ありがとうございます。皆さまからいただきました内容にもとづきまして、ただ今より質疑応答に移りたいと思います。よろしく願います。

仲尾 八人の方からご質問・ご感想をいただきました。多少重なっていることもあるかと思いますが、一通り全部お二人に答えていただくと思います。まず一番目の方、「呉夏枝(オ・ハジ)さんへの質問。留学を終えて日本に戻ったときに韓国で得た価値観や自分の立場性と照らし合わせてどのような生き方をしたいですか。李史良(イ・サリヤン)君への質問。現在接している同世代の在日朝鮮人学生にどのような影響を受けていますか」。この質問です。呉夏枝(オ・ハジ)さんからお願います。

呉夏枝(オ・ハジ) 留学を終えてということなのですが、まだ終えてないので変わる可能性は往々にしてあるんですけど。今の時点ではやはり世界に自分が今暮らしている日本から出ると日本のこともなんとなく見えてきてということなので、自分の価値観とか考え方が広がったように思います。そうやっていろんな国の友達もできて、いろんな考え方を知ること、本で読んでいろんな考え方を考えたりはしたんですけど。やはり友達になってお互い生活をする中で自分の考え方も当たり前のことなんですけど、ごく一部、他の考え方もごく一部、それがだんだんつながって行って、自分の価値観が許容範

團が広がるというか、考え方が広がったような気がします。やはり自分が「在日」であるということはこれからも変わりのないことですので、帰って来てからもこのような機会があれば自分の考えをお話することであるとか、そういったことをしたいと思ってるのですけど。ちよつとずつできればいいかなと思ってます、自分のライフワークといいますか。作品は作り続けていくんですけど、それと同時に少しずつ機会のあるごとに自分の考えをお話していったり、そのために自分もいろいろ考えたりというようなことをしながら、あとは基本的に布が好きなので染織の仕事をぜひともしたいなと思ってるのでそういうことを続けながら、芸術活動とそういったこともつなげながらやっていけたらいいなと思つてます。

仲尾 李史良（イ・サリヤン）君お願いします。

李史良（イ・サリヤン） 現在接しているといえば、今僕が所属してる「韓学同」であつたりとか、前回話させていただいたときに僕が韓国学園で民族教育を受けたんですが、そこで出来た友達という程度なんですけれど。在日朝鮮人の学生といいますと、今所属している韓学同のメンバーが一番多いと思います。その中では影響という点で、そこまでに至るそれぞれ背景も違いますし、民族名でできたかという点においても違うというところがありますけれど、一人一人それぞれが違った背景を持っているというのを、学習会というものが行われるんですけど、その学習会の場においたり、ふだん話す中でそれを聞けるといのが非常に僕にとつてプラスになっているとは思いますが。あとは先輩であつたりだとか委員長であつたりだとか、そういう人たちの影響を少なからず、いやかなり受けてると思います。以上です。

仲尾 ありがとうございます。次の方はご意見です。「在日外国人という理由で参政権がないのはおかしい。現在の日本の投票率は三十から五十%ぐらいで、投票率を上げるために投票所を午後八時までに繰り下げたが効果はあまりなかったと思う。日本で生活している二十歳以上に参政権を開放すれば投票率は上がると考えられます」。こういうご意見です。二十歳以上というのはもちろん外国人、外国籍の方を含むという意味でお考えになってるんだと思います。ちなみにこの件について申し上げますと、戦前大日本帝国の臣民とされていた時代に「在日」の人は日本本土に住んでる人については選挙権がありました。被選挙権もあり、議員に当選した人もおります。ただし植民地の朝鮮半島と台湾にはそういった議会がありませんでしたし選挙権もありませんでした。戦後一九四六年に日本政府は旧植民地出身者は日本本土に戸籍がなかったんです。戸籍法の適用を受けない者には参政権は当分の間停止する。こういう法律じゃなくて見解を出しまして、それが現在も適用されています。もちろん公職選挙法には「日本国籍がある」ということが明記されているので、その二つが歴史上あるいは法理論上選挙権がないということの根拠になっております。ですから参政権については今国会で継続審議中ですが、いつそれが審議が再開されるのか少し目途が付かないような状況です。それからもう一つ皆さんにここでお知らせというか考えておいていただきたいのは住民投票ということです。従来から原発問題、産廃問題といった巨大迷惑施設に関して、当該自治体で住民投票をやるということでも実施されてきました。それにも外国籍の方は同じ住民であるにも関わらず排除されてきておりました。神戸空港建設問題で市民団体が住民投票をやるうと言ったときの内容には、永住外国人については投票権を認めるということがあったんですが、神戸市議会ですそれを否決してしまったのでまだ実現はしませんでした。ところが昨年、滋賀県米原町で町の合併問題について住民投票をする。そのときには満十八歳以上、永住外国人については投票権を認めるということにしまして実施されました。それから後、北は秋田県から、岐阜県、愛知県

の市町村などで確か十ヶ所ぐらいの地方自治体で永住外国人について、すなわち「在日」の方々や永住権を取ったその他の外国籍の方については認めようという条例が制定されてきているところがあります。これは議会制民主主義という間接民主主義を補完する、もう一つの直接民主主義の方法ですね。そういう中で永住している外国籍の方については住民として当然なんだから投票権があるべきだという意見がかなり今強まってきております。大変希望のあることですので、まだ京都府・京都市についてはそういう動きはありませんけれど、住民投票を条例化するという段階ではぜひとも実現してほしいと私は思っております。その次に入ります。李史良（イ・サリヤン）さん、大変貴重なお話をありがとうございます。法学部を選んだ理由、韓国での体験非常に興味深く聞かせていただきましたが、それは自らを朝鮮人とした。質問ですが、「在日」としての利点、具体的・客観的とおっしゃいましたが、それは自らを朝鮮人と名乗り、民族的アイデンティティーを構築していく際、利点として弱まってくるように感じます。「在日」としての利点を生かしつつ朝鮮民族であることの理想の姿はどのようなものだとお考えですか。ちよつと抽象的な言い方でもあると思うんですが、李史良（イ・サリヤン）さん答えてください。

李史良（イ・サリヤン） 僕は在日朝鮮人と名乗り、今生きているわけなんです。利点という言い方をしましたが、「在日」において利点と言えるのは客観的な視点だと思えます。これが果たして民族的アイデンティティーを構築、アイデンティティーというものが果たして変わってくるものなのか薄れるものなのか。アイデンティティーというのは私は変わらないものだと思います。アイデンティティーはどこによるか。国家に国籍によるのか、自分の文化によるのか、そういうことは様々だと思います。僕が持つアイデンティティーは利点を生かしたところで自分が客観的な視野を持ったところで揺るがないものなんです。僕は薄まっていけないと思います。朝鮮民族であることの理想像というのは

共和国に住もうと韓国に住もうと日本に住もうと、これは人間の理想像なのかもしれませんが、住む場所で人間相応のらしく生きられる、さつき言われたように参政権の問題であったりだとか人権の問題であったりだとかというものが認められて、しっかり人間としてそれ相応の態度がとれるところが求める僕の理想像であります。以上です。

仲尾 ありがとうございます。この方は呉夏枝（オ・ハジ）さんについても質問があります。「名前についてのお話、名乗り方としてその理由として大変オリジナル리티のあるお話でも面白かったです。ガクドウのOP、OPというのはオールド・パーソンのことなのですが、OPとしてまたお話する機会があれば、またお願いします。現時点の韓国における「在日」として共和国に対する思いを教えてください。いわゆる韓国人が、つまり韓国に住んでおられる韓国人という意味だったと思います。共和国に対して抱いている思いを教えてください。できれば呉（オ）さんの近い友人の方など身近な方のお話をしていただければ幸いです」ということです。

呉夏枝（オ・ハジ） 「在日」として共和国に対する思いというか、「在日」として考えたことがないので、「在日」としてどう考えればいいんですかと聞きたいぐらいなんですけど。そういう意識で考えてないです。ただ自分が今韓国について共和国に対して思うことというのは、さきほども少し話したんですけど、何が本当か何が嘘かというのはわからないんですが、何が私に情報が情報を手に入れられるのはインターネットかニュースか知り合いから聞くという範囲なんですけど、そのニュースも今はまだそんなに理解できるほど語学ができてるわけじゃないので、向こうにいる友達に話を聞いたりして考えるぐらいなんですけど、イメージは作られるなーという感じがします。本当にそうなのかなーという

ことを疑いながら話を聞いてますし、これはこの話につながるかどうかわかりませんが、この間韓国で観た映画で、今ちょっと問題になってるらしいのですが、「007」がありまして共和国に対するかなり片寄ったイメージだと思ってるんですけど、それを映画で描いて、世界中の人が観てる。怖いなーというふうに思いました。映画の持つてる力、世界で上映するという力でそういうった何も知らない人が観たときに、そういう共和国に対するイメージはどうかなのかなというふうに思いました。ただ個人的にはまだ共和国がやってることであるとか、そういうことに対してはまだ思いを述べられるほど考えてはいないので、ここでは話を控えさせていたのですが、韓国人が共和国に対して抱いている思いを教えてください。理解していただけると思うんですけど、日常の生活の中でこういう話をする機会はほとんどないです。日本と同じです。何かつつこんだ話をしたときには聞けるんですけど、私の友達が言っていたのは、「一緒に線もなくなつて一緒に生活できたらいいな」というようなことを言っていました。が、「ただそれは難しいな」というふうにさらっとその友達は言っていましたけど、そういう感じで、質問に対してちゃんと答えられるだけのことを向こうでしてきてないのが大変申し訳ないんですが、その程度で。

仲尾 ありがとうございます。私は一九九三年ですか、いわゆるテポドンが発射されたときがありましたね。あのときたまたまソウルにいたんです。新聞にもテレビにもそのことは報道されておりましたけれど、人々も報道の姿勢も非常に冷静でした。たまたま私のソウルにいた日本人の友人がインターネットで日本のマスコミの取り上げ方を集めてきて私に見せて、「なんや、日本はめちゃくちゃ大騒ぎしてるな」と言っていました。それぐらい受け取り方は違うんです。というよりは、報道機関・マスコミの姿勢というものが非常に大きいと思います。そういうことも含めて今おっしゃったんだと思います。で

すからそういう点で日本のマスコミ、韓国のマスコミそれぞれ違いますけれど、特に日本のマスコミの共和国問題に関する取り上げ方というのは非常に特別なものがあるというように私も実感いたしました。それでは少し話題が変わります。次の方のご質問は生活面でのことです。「ふだん暮らしていて、例えば家の中で韓国・朝鮮的なものを感じさせるものとしてどんなものがありますか。韓国・朝鮮の伝統文化・生活習慣といったものを自分の子にも伝えていきたいという思いは強いですか」。後の方の質問はまだお二人が実感があるかないかわかりませんが、とりあえずお二人それぞれこの二つのことについて自由にお話してください。

李史良(イ・サリヤン) 一つ目の質問についてですが、ふだん暮らしていて家の中で韓国・朝鮮的なものを感じさせるものとしては、自分の父親であったり母親を「アボジ」であったり「オモニ」というのはふだん「お父さん」「お母さん」という言い方をしませんから、そういう面で少し違うかなというふうに思います。あとは一番毎日していることは食事の中でよくあるパターンですが、キムチが出てくるというのがよくあるパターンですね。それ以外をとってみても、一時期、先祖を敬う「チエサ」というものをしてたんですけど、現在やってみても、非常にこれは「在日」の問題にとつてもすごく難しい問題だと思っています。どれだけ文化的なものを残していくかということなんですけど、僕の家では「お父さん」「お母さん」を「アボジ」「オモニ」と呼んだり、少しの韓国語もしくはウリマルが単語として出てくる程度です。あとは食事ぐらいです。

吳夏枝(オ・ハジ) うちでもふだん感じるものというのは「チエサ」ぐらいかなという気がします。あとは食べ物ですね。それとチマチヨゴリを着た姿を写真に撮って残してあるものがあるんですけど、

そういうものを見ると「ああやつぱりそうなのかなー」という感じですね。ふだん生活してて感じるのは。言葉とかそういうったものはほとんど日本語でやっているの、韓国語の単語を使うこともほとんどないので特にないです。韓国朝鮮の伝統・文化・生活習慣を自分の子にも伝えていくのかということですが、自分でいいと思ったものは伝えていきたいなというふうに思っていますし、韓国だけに限らずいろんな国の面白いものというか、自分がいいと感じるものは子どもに限らずいろんな人に伝えていきたいなというふうに思っていますが。チェサをやるかどうかという問題になると、多分私はやらないなというふうに思っています。

仲尾 今の呉（オ）さんは、チェサは私はやらないなと思うとおっしゃったけども、そのチェサがどういうものかについては幸い今回の「チヨゴリときもの」の中で二月二十二日土曜日ですが、ここで実際の行事をやっていたら、デモンストレーションをやっていたことになりました。私もチェサはまだ参加したことも見たこともないんです。これはめったにそういう機会がありません。大変貴重な機会ですから、皆さんぜひ二月二十二日デモンストレーションは参加なさってください。そしたら彼女がなんでやりたくないなと思ったのかという理由もわかると思います。それでは次へ進みましょう。まず李史良（イ・サリヤン）さんに四つほど問題点を整理しておられます。「個人の上に国家が成り立っている」という発想。「在日」がなくなっていくのではないかとという危機感。参政権の問題を通して持たないからこそ、その問題性に気付く。「在日韓国人」ではなく「在日朝鮮人」と名乗るようにした等々、大変重要で印象に残った。韓国人ではなく朝鮮人にこだわる理由をもう少し聞きたい」ということですが、もう少し李史良（イ・サリヤン）さん話してくれませんか。

李史良（イ・サリヤン） 先程話させていただいたのに補足すると、僕がワールドカップのときに韓国に行った経験というのが一番大きいと思うんですが。あそこに行った方々というのはほとんど韓国人で、その中で自分が果たしてその人たちと同様に韓国人であるかというふうに問われると、やはり自分は韓国人ではない。じゃあ、何なんだと言われたら、「在日韓国人」でもない。そういうふうに考えると、自分の祖先つまりは近くのおじいさんおばあさんという人たちが朝鮮という国から渡ってきた。それはまだ日本の支配下において、一つの国が二つの国に分かれる前にどこに住んでいたかに限らず、朝鮮という国から来た。そこから考えてみると、やはり自分の起源は朝鮮から来ているのだから、自分は「在日朝鮮人」という使い方のほうが好ましいのではないかということ。韓国と共和国という、民族が分断されているのが非常に悲しいことだと思っていて、ドイツが西と東に分かれていたように問題は様々ありますが、やはり経済の問題にしるありますが、一つの民族が一つの国にいる、民族がその国だけにいるというのも危険性をはらんでいます。とりあえずはあまり往来のできない状態というのは非常に悲しいなと思います。そういう意味も含めて、どちらに帰属するのではなく、僕としてはどこの国に帰属している意識というのはなくて、在日朝鮮人という名称を使っていますが、来日朝鮮民族であるというふうに認識しています。その使い方が「在日朝鮮人」という言い方になっています。以上です。

仲尾 この方は呉（オ）さんにも質問があります。「名前が二つあっても悪くないという発想は面白いと思った。個人の感性は人間として通じ合う国籍に関係なくとの観点は大変重要だと思った」。ご質問はそのことは少しずれますが、「チョゴリについて教えてほしい」と。今日、呉（オ）さんはチョゴリではないんですけど、こういうものだとということを少しお話しください。

吳夏枝(オ・ハジ) チョゴリというのは正式名称はチマチョゴリと呼ぶんです。「チョゴリ」というのは民族衣装の上の着ること、「チマ」というのがスカートのことを表しているんですけど。「チヨゴリ」というのは大体女性も男性もそうですが、上の丈が短くて胸の下ぐらいまであるもので。そこから「チマ」というのはその下からスカートのようにフワツと広がった、多分見たことはあるかと思うんですが、そういったものなんです、それが女性の着るものです。男性が着るものは「バジチヨゴリ」といまして、「バジ」というのがズボンということなんですけど、ズボンの上にそういった上着を着るのが基本的なスタイルです。チマチョゴリに関して言いますと、スカートがフワツと。きもんですと体にくっついた感じですわるときにもそのままなんです、スカートがすごく広がりがあるものなので、中で足を組んでその上にスカートをフワツとかおせるような感じですよ。最近ですと、きものと同じで嗜れ着のような感覚で向こうもなってますので、ちよつと豪華にちよつと布も多いんちゃうかなというぐらい豪華な感じになってます。昔のものはもうちよつとタイトで生活しやすい程度のスカートになってました。そのスカートも韓国はオンドルなんですけど、スカートを上にかおせると床からオンドルの温かさも体に伝わって、そういった意味ではすごくいい防寒着じゃないかなと思いますし、チヨゴリというのはそんな感じのものでいいですか。他に何か？

仲尾 チマチョゴリについては次回以降のパネラーの方が着て来られるかもしれませんが、そのときにまたもう一度聞いて、そこはどうなってますかというようなことも含めて聞いていただいてもいいかと思えます。その次へまいります。「岡村さんに質問ですが、岡村というのを「オ」というのを使うのはわかりませんが、「なつえ」を「ハジ」として使うのは日本名、通名を朝鮮語の読み方で読んだだけなのではないですか。姓ではなく、名前の部分についてはどう考えていますか」というおたずねです。

吳夏枝（オ・ハジ） 質問の意味がよくわからないんですけど、岡村という名前は創氏改名で与えられた名前、そのままうちのおじいちゃん、お父さんも使って、そのまま受け継いでいつてるんですけど。「吳（オ）」という名前もそうです。なつえという名前も特別、韓国の名前と日本で使ってる名前が別の方もいらっしゃるということですか。

仲尾 そういうことではないと思いますけどね。

吳夏枝（オ・ハジ） そのまま私に与えられた名前というのが「夏枝」という名前、それを日本で読むときには「なつえ」と読んで、韓国読みすると「ハジ」と読むんですけど。そのままのことなんですけども。

仲尾 在日の方が自分の子どもさん方に、日本で暮らしているということもあって、日本風の名前を付けられる方が少なからずありますね。例えばミツコさんと呼ばれた、これはカンジャというふうに通ずる。本名読みだったらカンジャだと。そういう意味で「なつえ」さんだから「ハジ」さんということなんです。

吳夏枝（オ・ハジ） はいそうです。

仲尾 ということなので、朝鮮語の読み方でよんだだけではないのですか、ということでもないですね。本名というならば、朝鮮語読みでよみたいということ、あなたが「なつえ」ではなくて「ハジ」

と名乗るとされたんですね。

吳夏枝（オ・ハジ） はいそうですね。そういうことですね。

仲尾 今ちよつとお話に出てきました創氏改名のことについて申し上げますと、朝鮮人の方が日本風の名前を名乗ることになったきっかけは一九四〇年です。第二次世界大戦の直前、中国侵略が本格化した後ですね。その頃日本の若者が多く戦場に行きました。労働力が足りなくなってくる。兵士も足りない。朝鮮総督府はいずれは朝鮮人にも徴兵をさせようという意図があつたんです。それはちゃんと記録に残っています。そうなつてくると日本の軍隊の中にパクさんやキムさんやイーさんがそのまま本名でいるということでは軍隊としての一体性がない。ひよつとしたら裏切るかもしれん。そういうことも含めて、日本式の名前を名乗らせようと、そういうことを考えつきました。そして朝鮮民事令という法令を改正して新たに氏を作る。朝鮮では古来から姓はあつても氏はないんです。新たに氏を作る。氏というのは男性、お父さんを家長として日本的な家族制度を作り上げた制度。これは日本の明治維新から後の制度ですけれども、それと同じものを朝鮮にも作るということ、創氏、氏を作りなさい。名は日本風に改めなさいというわけで創氏と改名が一緒になつて創氏改名というものができました。これは強制ではありませんでしたけれど、しかしながら結果として八割以上の人が創氏改名をしました。そして創氏改名をしないと、子どもが学校の先生からいじめられるとか配給が当たらないとか様々な無形の強制が働いて、結果的には八割以上の人が替えました。しかもそれには一人当たり五十銭だったか五十円だったか忘れまじけども手数料まで取られたわけです。それはそう半端な金額じゃなかつた。今でいうと一人一万円ぐらいの手数料を取られたというわけです。そういうことが創氏改名で

す。ですから朝鮮半島に住もうと、日本に渡って来た人であろうと、一斉にそのようにされた。日本に来ていた人なんかはまだ故郷に残っていた親戚が、このように決めたからこうなったという人もありません。おかしいのは天皇や天皇に関わるような名前を文字を使っちゃいけない。だから「○○明治」とかそんな名前を付けちゃいけないことがあった。「藤原」と付けた人がいる。その人は自分の家に藤の木があつて、もう面倒だから「藤原」は日本式でいいだろうと思つて付けた。ところが「藤原」というのは日本の貴族の代表的なものでしょう。だからアカンと言われたとか、実に笑えるような話まで含めていろいろ創氏改名が強制をされました。結局のところ、日本本土で戦後も生活を続けることになつた「在日」の方々にとつては、それは通称名・通名として戦前から使つてきていたし、使わざるを得ないということでも今でも八割ぐらいの方が通称名です。ただし使い分けておられる方もおられます。それが名前のことに関わつての「在日」の方の現状ということになります。その次にまいりましょう。呉夏枝（オ・ハジ）さんへの質問です。「中国、朝鮮族の方やウズベキスタンの高麗人の方とは日本の植民地支配の記憶や南北統一に寄せる思い、ディアスポラ・コリアン・ネットワークなどについてどのようなお話をなされているのでしょうか。興味ありますのでよろしくお願いします」ということです。先程中国の朝鮮族の方のことについてはどうしてそうなったのかということをお話し上げました。ウズベキスタンの高麗人というのは、なぜウズベキスタンという中央アジア地方にたくさん朝鮮族の方がおられるのかということですが、これはご存じの方もあるかと思いますが、第二次世界大戦が始まった時点で今のロシア、旧ソ連の沿海州、ウラジオストクやナホトカ辺りに朝鮮人が住んでおられたわけです。つまり朝鮮半島の北部にいた人が大部分は中国領であつた中国東北部の延辺へ行かれたわけですが、一部の約三十万人が旧ソ連の沿海州と呼ばれる所に移住されました。スターリン治下の時代です。スターリンが朝鮮人は大日本帝国臣民でもあつたから、ひよつとして日本のためにスパイを働くかもしれない。そ

ういうことから沿海州から強制移住させて中央アジアのカザフスタンやウズベキスタンに移住させたわけです。そういう方々がずっと世代を重ねて、今も二十万から三十万おられるんです。ロシア語では彼らのことを「カレイスキー」というふうに呼んでるようですが、高麗人というようにこの人たちは自己規定してウズベキスタンやカザフスタンに今も住んでおられる。旧ソ連が崩壊してから、一部の方は沿海州の方へ戻られたようですが、それはごく一部で、生活の基盤があちらにありますから、あちらでロシアの中の少数民族・マイノリティーとして高麗人としておられる。この方々は朝鮮人も韓国人とも名乗らないで、ロシア語で「カレイスキー」というのができたせいもあるでしょうけれど、高麗人というふうに名乗っておられまして、自分たちの言葉は高麗語であるというようにおっしゃってます。それではその辺のところをもう少し詳しくお願ひします。

吳夏枝（オ・ハジ） 私のクラスにもいたんですけども、女性なので彼女と呼ばせていただきます。彼女は自分のことは「カレイスキー」とは名乗っていませんでした。「私はウズベキスタン人だ」というふうに言っていました。他のロシアから来た友達も「自分はロシア人だ」というふうに名乗っていました。歴史のことに關してはお互い立場がわかっていない状態で、私も彼女たちの立場というのを全然知らなかったし、「在日」のことにしても彼女たちは知らなかったから、私たちが韓国人だということに対しても疑問を持ってましたし。お互いそういう状態でお互いの細かいことはわかっていないというのと、韓国に住んでる方も知らない、「在日」の状況について知らないし、カレイスキーについても知らないし。そういった状況ですね。南北統一に寄せる思いというのは先程もちよつと話させていたのにつながらるんですけど、個人個人本当にいろいろ違って、代表的な例は話がしづらいなという気はするんですけど。ディアスポラ・コリアン・ネットワークに關しては、私も全然知らないのどのような話を

したかも何もしてないのでわからないです。そんな程度なんですけど。本当にまだお互いただどしい韓国語で話しているので、詳しい話というのが韓国で話してるのでできなくて、そういう話が聞けてないのがまだ現状ですね。

仲尾 ありがとうございます。最後の方のご感想と質問です。「李史良（イ・サリヤン）さん、貴重な講演ありがとうございます。講演の中でいずれ「在日」がいなくなるのではという意見がありました。確かにそうかもしれません。僕のいう、いなくなるというのはルーツとしては残るが、それについて無関心・無知という意味で。とにかく僕が思うのは、「在日」が自分たちのルーツについて学んでいくためにも何よりも民族教育を保障してほしいと思います。民族教育を保障することで「在日」も消えないと思いますし、また日本人自身も異文化に対して更なる理解が広がると思いました。このご感想の前半のことについて少し申し上げますと、確かに国籍で表す人口は減っております。これは一世の方がほとんどお亡くなりになってる状況が一つ。それから日本社会全体の少子化のことも「在日」の場合も同じように影響を受けてらっしゃって子どもさんが少ないということがあります。それから日本国籍を取得する、いわゆる「帰化」です。それをされてる方が一九五二年以降、法務省は公表しておりませんが、当初は数千人だったのが今おそらく年間一人ぐらいというように考えられます。日本国籍を得たけれども民族としては朝鮮人・韓国人である方がもう三十万人以上おられるわけです。それからダブルの子どもたちですね。ダブルの子どもたちは日本の国籍法では「父または母が日本国籍であれば日本国籍を取得するものとする」ということになってまして日本国籍であります。満二十歳から二十二歳までの間にどちらかの国籍を放棄して、どちらかを選択することがあります。そういうわけですから現日本籍を捨てて韓国籍・朝鮮籍に戻られる方は非常に少ないと推定されます。そういうわけですから現

在韓国・朝鮮籍でいわゆる「在日」・特別永住者である方は約五十万人です。これは今から十年前からくらべると十数万人減少しております。国籍としてはそうですけど、今私が申し上げたように、民族として考えるならば日本国籍を取っても朝鮮民族であるという方、あるいはダブルやクウォーターの方のようにルーツとしての民族性を保持される方を加えれば、そんなに減つてはいないわけです。そういう面からもなくなるという問題についていろんな多様な考え方を「在日」の方もされるでしょうし、日本人もそういうことも含めていろいろ考えていかなきゃいけない。その上でこの方がおっしゃるように民族教育が大切だとおっしゃることはもつともですね。日本の学校にいて日本の大学を卒業するだけであれば、「在日」としての民族性のルーツは消えてしまいます。中国の朝鮮族の方あるいはウズベキスタンやカザフスタンの朝鮮族の方は民族教育が保障されてるんです。ちゃんと学校で朝鮮語の教育、他の教科も朝鮮語でやるという学校がありますので、朝鮮語は忘れようにも忘れられないということになっております。ところが日本の公教育では外国語としての韓国語をやる高校は少しありますけど、それはごくごくまだ一部です。大学でも韓国語、朝鮮語、コリア語いろんな名前でも外国語の一つとして取り入れられるようになったのはここ五年ぐらいのことじゃないでしょうか。それまでは本当にごくわずかの外国語大学でしかやっておりませんでした。まして小学校、中学校で民族教育の大切な核である言葉の教育を全くしておりませんし、クラブ活動としてやってるところは非常に少ないと思います。そういうことも含めて民族教育の保障ということをおっしゃっているのは、むしろ少数民族という言い方がいいかどうかわかりませんが、「在日」の存在というものを認めてこなかった日本社会のあり方がそこに反映しているというように見てもいいんじゃないかと思えます。この方は夏枝（ハジ）さんに質問があります。「本国の韓国人は「在日」に対して偏見を持っている人もいます。例えばウリマル（韓国・朝鮮語）を話せないことについてなど。すべての人がそうではありません。では中国の朝鮮族の

人は僕たち「在日」をどのように見ているのでしょうか。なにしろ会ったことがないので教えてください。聞き逃していたらすみません」。先程とちよつと重なりますけど、もう一度お願いします。

呉夏枝(オ・ハジ) 確かに韓国人は「在日」に対して偏見というか、知らない。本当に何も知らない。タクシーに乗ってもそうですし、いろんな人と会ってもそうですけど、「なぜ話せないの? おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さんも韓国人でしょう。どうして?」みたいな感じで、全く「在日」についての知識を知らないというのが普通ですね。なので、「生活で使っていないんですよ」とかそういう話をしながら、「あー、そうだったの」みたいな感じで、そのとき初めて知るといふ人が私が経験した中では多かったです。知ってる人というのは日本に留学した経験のある学生であるとか、そういった学生は「在日」について知っている人が多いのでそういったことはないんですけど。「なぜ話せないの?」と言われることは今でも多いですね。中国・朝鮮族の人は僕たち「在日」をどのように見ているのでしょうかということなんですが、やはり私が経験した中で言いますと、学校の中で韓国語を話せないのは「在日」ぐらいでした。「在日」でも中学・高校でそういった学校に行つて教育を受けてきた人たちは向こうでもペラペラとしゃべってましたけど、普通に日本の公立の中学校行つて高校行つてという私のような人間はほとんど話せなくて。他の国から来た「在中」であったり、在ドイツ、在ブラジルの友達なんかはほとんど生活でも使っているし、学校でも習うので、使える人が多くて。少しわからない話せない人もいるんですけど、そうした人でも少しは聞き取りはできるくらいとか。書くのができないから初級クラスから習いますといった感じの人がほとんどでしたね。どのように思っているのかというのは、そういった状況に対して不思議に感じていました。「お父さんもお母さんもそうなんでしょう。なぜ?」みたいな感じで、「在日」の置かれている状況に対してすごく不思議がっていました。

仲尾 ありがとうございます。私の関わっております京都造形芸術大学では中国からの留学生が今五十人ぐらいおります。その中朝鮮族の留学生の人が現在三人おります。彼らに聞いてみたんですけど、全く「在日」のことは知りませんでした、日本に来るまで知りませんでした。韓国から来ている留学生は「在日」が日本で暮らしているということは知ってましたけれども、両方とも具体的なありようは全く知りません。そういう点では共通です。つまり日本社会の中で戦後辿ってきた「在日」の方々の歴史、日本人の故なき差別や偏見、そういう意味、日本の法制度のもとでかつては住宅入居も健康保険も年金も入れなかった。そういうひどい状況があったとか。今もまだ戦後補償が解決してないとか。あるいはそれ以外の外国人登録や何かについてのいろんな差別的な法制、そういうことについても全く知識はありません。そういう点で日本人自身もそういうことを知らなかった。今もご存じない方もいらっしゃると思いますけど。知らないまま、「在日」が日本社会におかれてきた。そういうことの反映なんですよ。ですから一部の研究者を除いては、諸外国でも日本の「在日」がどういう状況に今置かれているのか、かつてはどんなだったのか、どこに問題があるのかということはありません。最近いろんな研究者の間で研究会が持たれ、国際的な研究会も日本国内でも韓国でも中国でも行われるようになりまして、少しずつ日本の「在日」社会の歴史と有り様が知られてきている。こういうところじゃないでしょうか。大変大まかですけれども、この方々や先程の方のご質問にある、「在日」が他の韓国人、朝鮮族の人からどう見られているのか、あるいは世界からどう見られているのかということについては今の呉（オ）さんの話プラス私の経験とわずかの知識ですが、大体そのような状況とお考えただいて間違いないのではないかと思います。そういう意味でもこのフォーラムがこうして多くの「在日」の方や日本の市民の方々に参加していただいて、少しでもまっとうな知識、あるいは「在日」の人びとと知り合うという機会になっていることを大変私も嬉しく思います。それではいただいた質問ならびに

ご感想は以上です。どうもありがとうございます。ぜひとも次回からも続けてお越しく下さい。

司会 ありがとうございます。先程のお話で朝鮮に対する言葉であるとか、共和国に対する思いであるとか、「在日」について本国の韓国の人がどう思っているかということについての話ですけど。朝鮮という言葉は韓国ではブランドでしか使っていないです。ホテルの名前であるとか、新聞社の名前であるとか、レストランの名前であるとか、そういったブランドでしか使ってなくて、それが国の名前であるとか民族と関わる民族性に関わる問題であるとしたら、韓国では少なくとも朝鮮という言葉を使っても見られるという状況です。共和国に対する思い、どういう思いを抱いているかということになりますと、大きなニュースとかが出ますと、日本よりは冷静になっていくというのは、同じ民族だからまさか韓国には悪いことはいらないだろうという思いがあつて、大きなニュースがあつてもそれぐらい冷静にいられるんだらうと思います。それが日本に来てやつとわかりました。同じ民族だから悪いことはいないだらうというふうな思いで、僕らは大きなニュースを見てもそんなに驚かずに冷静にいられるんだらう、と思います。「在日」について韓国の人はどう思っているかという話ですけど、実際に私も日本に来る前は本当に知らなくて、日本に来てから不思議に思った。一番最初に不思議に思ったのは、本名と通名を持つてること。留学したときに同じ学校のクラスに「在日」の人がいまして、日本の名前を持つてたことに非常に不思議な思いを持つてたことがあります。それぐらい韓国にいる人は「在日」の人についての理解は少ない、ほとんど薄いのだと思います。これをもちまして本年第一回目の連続フォーラム「チョゴリときもの」を終わらせていただきます。また来週十四日金曜日になりますけど、同じ時間でまた同じ場所、こちらで「生活—その後」というものを開催します。またお越しいただければと思います。

す。よろしくお願ひします。ありがとうございました。

第二回 ふりかえりフォーラム 『生活—その後』

パネリスト

金^{キム}

禮秀^{レイシュ}氏

朴^{パク}

姝^{シュ}姫^{ヒメ}氏

金^{キム}

明^{ミン}石^{シク}氏

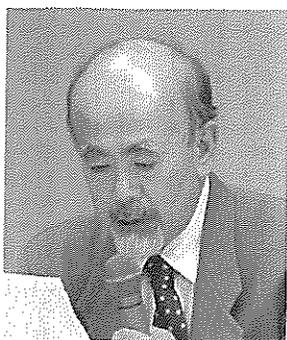
コーディネーター 仲尾

宏^{ヒロ}氏 (京都造形芸術大学客員教授)

二〇〇三年二月十四日実施

●ふりかえりフォーラム「生活―その後」

司会 お待たせいたしました。ただ今より、二回目の「チョゴリときもの」を開催いたします。本日のパネリストの方ご紹介いたします。まずこちらの方が金禮秀（キム・イエス）様です。こちらの方が朴姝姫（パク・ジユヒ）様です。こちらの方が金明石（きむ・みよんそく）様です。皆さまのお手元に十回までの歩みが書いてあると思いますけれども、金禮秀（キム・イエス）様と朴姝姫（パク・ジユヒ）様は第六回目の連続フォーラムの二月二十六日「小・中学に通う子を持つ保護者その一」でご出演されております。こちらの金明石（きむ・みよんそく）様がその下の三月十二日「小・中学校に通う子を持つ保護者その二」でご出演されております。本日は第六回目で出演されたときのお話を含めて、それ以降の話をいただきたいと思えます。コーディネーターはいつもの仲尾先生にお願いしております。では先生よろしくお願いします。



仲尾 宏氏

仲尾 皆さん、こんにちは。今司会の鄭（チョン）さんからおっしゃいましたように、今年は十回目の「チョゴリときもの」ですので、それぞれ前の回に出場、出演していただいた方がその後ご自分のお仕事あるいはご家庭での動き、あるいは子育てが終わったことであるとかいろんな変化があったと思われると思います。今回の三人の方は一九九九年ですから四年前に登場していた方です。その方々がどのような思いを持って、その後も生き続けておられるだろうかということの中

心に今日はお話をお聞きするということになります。お三人のお話の前に私が今日少し用意しました。在日外国人の統計資料という表がありますが、それを少しご紹介したいと思います。毎年年末の十二月三十一日付けで法務省は外国人登録数というのをまとめて公表しております。まだ昨年末のものは出てないんですが、二〇〇一年度末で在日外国人総数、登録者は百七十七万八千人。前年からくらべると九万二千人増えてることになります。そのうち特別永住者が二〇〇一年度で五十万人。うち韓国・朝鮮籍者が四十九万五千九百八十六人。九十九%を占めております。この特別永住者という方がいわゆる在日の方です。特別永住者という在日資格は一九九一年、元の盧泰愚（ノテウ）大統領が訪日しましたときに日本と韓国の間で在日韓国人、朝鮮人の地位をどうするか、その地位をあらためて協議し直して、特別永住者、子々孫々に渡って日本での在留を認めるということが合意できました。その方々がこれに当たります。韓国・朝鮮籍者が九十九%を占めているということは、逆に残りの約四千人余りの人が台湾出身者であるということになります。例えばダイエーの王貞治監督がその一人ですが非常に少なくなってきました。それに対して韓国・朝鮮籍者が現在でも圧倒的に多いということになります。韓国籍、朝鮮籍ということですが、これもご存じの方もあるかと思いますが、元々第二次大戦後の日本政府は外国人登録令を一九四七年五月二日に出したときには、全員旧植民地出身者で朝鮮半島出身者は朝鮮として登録せよと、このように命令を出しました。その後一九六五年の日韓基本条約の調印後、韓国籍に替えるという人が出てきました。これには今日本にいらっしやる「在日」の方の多くが今の韓国の領域のご出身であるということが一番大きいと思います。そういう形で韓国籍に替えられた方が増えてきております。朝鮮籍の方はそのままにしておくという方が大部分であるということになります。特別永住者は年平均で約一万ずつ減少していると書いてあります。この原因はそこにも書いてありますように、一つは「帰化」による日本国籍の取得。もう一つは国際結婚の増加によるものと考えられると書いてます。

「帰化」というのは、日本の国籍法によりまして大変難しい条件もあるんですけども、一定の条件があつて、その帰化申請を法務大臣が許可したら「帰化」することができることになっていきます。一九五二年に日本がサンフランシスコ条約の発効によつて、独立を回復してから後少しづつ帰化者が増えまじた。現在推定では二十数万人に上つていふやうに言われております。法務省は公式にはその数字は出しておりませんが、毎年最近では年間に一万人以上が日本国籍を取つておられます。それから国際結婚の増加、これはお父さんまたはお母さんのいづれかが日本人であつた場合、生まれた子どもは日本国籍を取ることになつております。満二十歳から二十二歳の間にとちらかの国籍を放棄し、どちらかの国籍を取得するという宣言をすることによつて、もう一度帰属が確定することになります。その背景などについてはまたお三人からご説明もあるかと思いますが、ともかくそういう形で特別永住者が毎年一万人ずつ減つてるといふことになります。それに加えて、「在日」一世の方がもうかなりのご年輩になつておられて、お亡くなりになつてゐる方も非常に多いといふこと。それから少子化といふことも含めて、特別永住者の韓国・朝鮮籍者が減少してゐるといふことになります。真ん中のところに都道府県別の出身地の国籍による割合を表示した表がありますが、その説明にもありますように、大阪について京都そして兵庫はいずれも韓国・朝鮮籍者が外国人の登録者の中で圧倒的多数を占める。七割を超えてゐるといふことになります。そういう意味でこの京都は大阪、兵庫とともに「在日」の住地域である。従つて京都における外国籍市民の問題といふのは「在日」の問題を抜きにしては考えられないといふことがこの表からもおわかりいただけると思ひます。下の表は一九九七年から二〇〇一年までの推移であります。今の特別永住者、在日の方の韓国・朝鮮籍者とは下から三行目、一九九七年五十三万八千でありましたが、二〇〇一年では四十九万五千人、その構成比は外国人登録の総人口の中の二八・九%。対前年比増減についてはマイナス二・二といふことになつております。このやうに五



石明氏 金

十万を特別在住者は切ってるわけですけども、しかしながら先程申しました日本国籍を取得したけれども、ルーツは韓国・朝鮮であると自覚している人、あるいはお父さんお母さんのどちらかが日本人であると、お父さんお母さんのどちらかが「在日」であるということと自覚している子どもたちを入れれば、おそらく百万近い数だと思われます。ですからそういう意味で特別永住者の登録数が減ってるということだけで「在日」は消滅するんじゃないかというように考えるのもまた一つ問題があるかと思われます。そんなことも含めて今日はお三人の方に自由に思いを語っていただくかと考えております。それではこの順番から逆になりますが、最初に金明石（きむ・みよんそく）さんからお話をいただくことにします。金明石（きむ・みよんそく）さんは在日三世ですが、先程お聞きしてますとハラボジ（おじいさん）、ハルモニ（おばあさん）が日本に来られたのは一九一九年、朝鮮半島全域で日本からの独立運動が盛り上がった年に日本に来られた。非常に古い世代のおじいさんおばあさんですから、金明石（きむ・みよんそく）さんが三世である。三世の中でも非常に年輩の方であろうかと思われます。それでは金明石（きむ・みよんそく）さん、よろしくお願ひします。

金明石（きむ・みよんそく） アンニョンハシムニカ。連続フオー

ラム「チヨゴリときもの」の十周年おめでとうございませす。私は「在日」韓国人三世、今お話がありましたけど、一九五一年生まれの今年五十一歳ですけれども。今大阪の豊中の方で、教師四人だけの小さい学習塾をやっております。その学習塾がちよと明日、創立二十周年なんです。すごいもので二十年もやってますと、教え子の子どもが二人今年入塾いたしました。「君のお父ちゃん教えたよ」という感じなん

ですけど、本当に嬉しいことだったんですけど。家族は大阪の勤労青少年会館で働いております連れ合いと、子どもが一番上が今朝六時までバレンタインのチョコレットを作っていました高校二年生の長女がおります。中学三年生でちょうど十日後に高校入試を公立高校の入試を控えております次女がおります。それからあと大阪の民族系の建国中学というのがありますけど、そこに入学が決まった長男、この三人子どもがおります。前回こちらでお話させていただいたときには、その子どもたちに本名だけを付けて、日本の公立の小学校、中学校に行かせた親の思いであるとか、家庭での民族教育、二年に一度韓国に家族で旅行するというのがあります。それ以外にあまり民族教育らしいものはやってないんですけど、それでも助けになるんじゃないかなという感じで、そういうお話もさせていただいたんですけど。今回はちょうど九九九年、四年前の九月から私は韓国に留学させていただきまして、六ヶ月間語学留学をいたしました、九九九年の九月の終わりから二〇〇〇年の三月まで行かせていただいています。そのときのお話を少しさせていただくということ。そのときにもすごく感じました「在日」のアイデンティティー、自分は一体何者かというようなことについて、今からお話させていただけたらと思っております。韓国留学なんですけど、私は日頃教えている側の人間が急にパツと向こうに行きまして、ソウルの延世（ヨONSE）大学というところの語学堂、韓国語学堂というところがあるんです。語学の研修でよく行かれるんですけど、いろんな人たちが。そこに三級から入りました。学生時代にも韓国語を勉強しております。それから、普通は一級から六級までということ、一級は初歩の初歩からですけど、それが三級から入らせていただくと、そのクラスが皆ほとんど二級からの持ち上がりじゃなくて、三級から初めて入ったという人たちでした。一クラス十人くらいなんですけれども、在米僑胞の方々が四人、英語で日頃しゃべってられて、二世の方ですから親から韓国語で育てられますから、聞くことは十分に聞けたり、自分で多少しゃべれるんですが書いてたり読んだりが苦手な方、こういう方が四人来られてまして。その

他にはアメリカの軍人、諜報活動をやってられる、それで韓国語が必要だという方が一人と。デンマークから国費奨学金をもらいまして来られてる人、それと日本人の方が二人。そういう感じで一緒に勉強させてもらいました。本当に教える側から教えられる側になってすごく貴重な体験ができました。特にアメリカから来られた人たちというのはすごく授業をリラックスして受けられるんですね。朝はコーヒーを飲みながらですし、「先生、今日朝ご飯食べなかつたから、今からこの羊羹食べてもいい？」と言いながら、食べながら授業を受けてますし。あーこんなに生徒と先生の間というのがホンワカホンワカしたような形で心の交流みたいなのがありながら授業ができるのは本当に素晴らしいなというふうに思っています、帰ってから塾の授業にかなり参考になりました。授業は本当に若い人たちが皆さん二十代、三十代の前半ぐらいまでですか。先生方もほとんど女性で二十代の方が多かつたんですけど。私なんかよく冷やかされましたけど。「あんたが韓国語しゃべってるの聞いたら、ほとんど女言葉ばかりだよ」と、延世（ヨンセ）大学の先生方がみんな女の先生ですから、そういうふうな感じで楽しかつたわけですけども。下宿生活が素晴らしかつたんです。一ヶ月三十九万ウォン、三万九千円で朝晩食事付きです。下宿のアジユモニ（おばさん）が料理自慢の方で一ヶ月間同じメニューが出てこない。素晴らしい。普通のとこだつたら一ヶ月に一回ぐらいしか肉の顔を見ることがないというふうな友達がたくさんいたんですけど、そこはそんなんじゃないかなつたですね。その中で生活しております、カギがないんです、部屋に。カギを作ってくれないんです。もう出入り自由ですね、どこも。アジユモニは部屋の中に勝手に入って掃除してますし、そういうような盗難事故が起きたり全くしないような感じで生活させていただきました。ちょうどアジユモニが私と同じ年でウサギ年なんですけど話も合います、本当にいい雰囲気の中でやってました。特に私が好きだったのは、アジユモニが生栗、前日山で取って来たという栗をテレビの前で剥いてるんです。ナイフで剥くの大変なんですけど、生のままです。それを切つて、「食べ」

と食べさせてくれるんですけど、それがもうすごく新鮮な感じでおいしかったですね、コリコリコリコリして。「これは昨日、仁川（インチョン）の海で獲れた、三百円で買ってきたワタリガニ」これを醤油漬けにしてくださいました。カンジャンケジャンというんですが、もうなかなか生の新鮮なワタリガニのちっちゃいやつで、あまり商品価値はないんですけど、それを三百円で山盛り買ってきまして、それを自分で漬けてる。それを食べさせてくださいたら本当においしい。韓国で一番おいしかったのはそれじゃないかと思うくらいおいしかったんですけど。そういうような幸せな生活をさせてくださいたいんですけど。でもそのアジユモニが私に対して、「イルボン・アジョシ」（日本のおじさん）と言うんです。イルボンというのは日本、アジョシはおじさんです。「日本のおじさん」と言うんです。私はいぶ以前だったら、それを聞いたときにすごく傷ついたと思うんです。というのは、「在日」というのはちよつと肩肘張つてるところがありまして、日本の中で自分は日本人じゃない、韓国人であると。国籍を守つたりして肩肘張つて生きているというのがあるわけですけど、それを国の人たちは簡単に「イルボン・アジョシ」「日本から来たおじさん」というような意味合いもあるんですけど。基本的には外国人というようなイメージを持つて見てられるんだというのが端的にわかるような感じですよ。同じような体験をちよつと三十年前私が初めて韓国に、学生時代ですけど在日韓国民団の夏季学校というのを利用して行ったことがあるんですけど、その帰りの飛行機の中で体験したんですけど。パーサーの人が私の横に來まして、「あなたの故郷はどこですか」と聞いたんです。故郷というのはコヒャンと韓国語で言うんですけど、私は習いたての韓国語で「ネ・コヒャン・ウン・チエジュドムニダ」（私の故郷は済州島です）というふうに答えました。そしたらそのパーサーは何と言ったかといいますが、「いいえ、それはあなたのお父さんの故郷でしょう。あなたは日本のどこで生まれましたか。それがあなたの故郷です」とはつきりとそう言いました。私はそれを聞いて、ガンとなりました。日本で外国人登録のときに指紋

押捺をいたしましたけれども、そのときの思いというのがあるわけで、そういういろんなことから自分はやっぱり日本人じゃないんだなというようなことをずっと思っていましたから、そのときには本当に「そしたら日本人でもないし、韓国人とも認められなかったら、一体自分は何なんだ」という、これがアイデンティティーの危機ですね。一体自分は何なのだというような問い返しをせざるを得なかった。日本に帰ってきてから、必死になって韓国語を勉強しました。大学の勉強そっちのけで勉強しましたけれども、ところがなかなか難しくくて。日本で勉強するというのは難しく、留学をしたいなとそのときに思ったんです。時あたかも朴正熙（パクチョンヒ）政権の時代で留学生が非常によく捕まった時代ですから、私の友達、知り合いもたくさん捕まりました。断念せざるを得なかったわけですけど。そういうような経緯もありまして、三年半前に昔、青春時代の宿題みたいなのをやり残したことをやろうというような形で韓国に行つてまいりました。本当に楽し過ぎるというんですか、夢の中の生活というか、させてもらいます。うちの下宿が特別だと思ふんですけど、二階は私以外全員女性なんです。梨花女子大学というのをご存じですよ。韓国で一番有名な女子大学ですけど、その学生とかモデルさんとかスチュウワースさんとかと一緒に、エクステンジといまして言葉を勉強するのに日本語を教える代わりに韓国語を教えてもらうというような形で学校以外の所で話するんですけど。学生さんを紹介していただきまして、もうデート気分で喫茶店でお話をさせていただく。それだけでもすごく嬉しいなというように楽しかったですけど。それよりも何よりも、いろんな所ですごく温かくされたというのがあると思いますね。屋台にお酒を飲みに行きますと、「アジヨシ、こっちにおいで」と、一人でポツンとしてるのを見るのが嫌なんですよ。ね。「一緒にお酒飲みましょうよ」と全然見ず知らずの人がそういうことで声をかけてくれますし、タクシーに乗って運転手さんと話しても、「あつ、日本から来たんか。

僕の知り合いも日本に行ってる、親戚も行ってるんだ。あ、懐かしいな。今度の日曜日、僕仕事か休みだから、家に遊びに来て一緒に焼酎飲もうよ」と、そんな感覚なんですね。子どもが遊びに来たんです、留学中に。子どもと一緒に銭湯に行きましたら、ちょうど延世大学の神学科の教授なんですけれど、お風呂に来てまして、私たちの会話を聞いて、「そうか、日本から来たんか。わしは今娘と妻がイギリスに留学していて淋しいんや」と。韓国では語学の習得がすごく大事で、子どもを小さいときから留学させるんです。「一人つきりで淋しいから、うちの家に遊びに来い。えっ、時間がないのか、そしたら食事だけでも一緒にしよう」と。いろんな所でそういうような経験を受けてる間にすごく癒されました。実は韓国留学を思い立った中の一つは仕事のこともかなり行き詰まっております、自分はすごく教えることが好きなんですけども、教えるということに本当に行き詰まっております、どうしようもないということになってたんですけど、ちよつと対人恐怖症気味にもなっております。子どもと付き合うという中であったんですけど、帰って来てから、すごく授業が好きになりました、面白くなりました。これが癒し効果だなどという感じでやっておりまして、もちろん六ヶ月間空けましたから、優秀な先生を頼んだんですけど、それでもダメでほとんど傾きかけになったんですけど、なんとか持ち直しまして、なんとか生活ができて、そんな状態になっております。韓国での留学生活の話をしようと思つたら、いろんなもつと楽しい話があるんです。次に在日韓国人のアイデンティティーということでお話したいと思つています。最近痛ましくて腹立たしい事件としまして、北朝鮮の拉致問題、拉致被害者の蓮池さんご夫妻とか地村さんご夫妻のお話を聞いたときに、ご自分たちの子どもに自分たちが日本人であることを教えないといけないというのがあります、本当に痛ましく感じられたんですけど。実際に北朝鮮の反目的な雰囲気の中で、もし自分たちが日本人だとわかつたとしたら、かなりアイデンティティー的にダメージがあるだろうと思つています。大変なことだと思つたわけです。自分が憎んでいたものが自分だったということです。もちろん経

験上そういう自分をありのまま受け入れてくれる社会があつて、そこで温かく接せられると簡単に治ります。日本に来まして、日本でお子さんたちが皆さんに愛情をもつて接せられると簡単に治るだろうと私は思つてゐるんですけど。今北朝鮮にいる場合にはすぐ大変なことだと思ひます。もう一つ同じようなアイデンティティーのごとでご存じかもしませんが、今ちよつと話題の「裸の一五〇〇マイル」という映画がありました。これは映画解説風に言いますと、一九三二年アポリジニ、オーストラリアの原住民ですね、アポリジニの子どもたちが白人政府によつて収容所に入れられて英語やキリスト教を強制された。しかし三人の少女が故郷の母のもとへ戻ろうと収容所を脱出して、一五〇〇マイル、二千四百キロの道をずつと歩いて行つたという話なんです。その中で原作者もそうです。原作者のお母さんの実話にもとづいた映画なんです。その原作者自身も収容所に入れられておりまして、その中でアポリジニの文化を守るだけじゃなくて学校にも入れられたんです。親元を離されて、その中でアポリジニの文化を守る人たち、邪悪なものを守る人たちは悪魔の崇拝者だというような形での教育を受けるわけです。要するに自分を否定される、その中で育ちますと、自分がアポリジニだということを教えられない、そういう知らないで大きくなる。そういう憎しみとかそういうものを植え付けられて大きくなっていく。自分の父親も黒人、アポリジニですから。その人と会つても、その人を自分の父親だと認めるまでに十数年かかった。自分の妹は今でもそれを拒否してゐる。大変な問題だと思ひますから、関西の方に来たときには東京では二月一日封切りで、関西で見たいと思つてゐます。これが韓国にもありまして、あまり知られてないんですけど、韓国ではイビヤンアという問題、ちよつと違うんですけど。これは海外養子、海外里子、子どもを育てられない人が里子に出したい、養子に出したいというときに、韓国社会というのは血統をすごく重要視しますから、養子というのは血縁者じゃないといけません。自家の血筋を守るために親戚、弟の長男を本家筋が養子として迎える。自分の所には長男、男の子がいなるときには血

統が途切れますので、途切れないように親戚の所から同じキムだったらキムの子どもを養子に入れる。そういうことでないと認められないというところがありました。子どもを育てられなくなっても、韓国社会ではその里子を養子縁組する所がないんです。ですからそれがアメリカに行ったり、ヨーロッパなんかに里子として出す。これをかなり海外に子どもを輸出しているということでもかなり叩かれたこともあるんですけど。そういうような事情がありまして、その子どもたちが自分は一体何者かということでも帰って来て探しに来るんです。自分を。言葉は全然わからないですし、全部その土地土地の話になりまして、一緒に勉強していたデンマーク人の恋人もそうだったですし、別のクラスの友達はアメリカ国籍のイビヤンアでしたけど。アイデンティティーを探すというか、すごく大変なことだと思いました。実際に「在日」はそういうアイデンティティーを探すというのが難しい。親が子どもにも韓国人だと言わない、朝鮮人だと言わないで育った。十六歳の外国人登録のときに初めて知ったとか、帰化しているから自分はわからなかった。自分はクォーターでとかいろんなことがあって、それをまた探すというようなことを自分探しをやったり、またはひどいときには自殺。私も知り合いに多分それで自殺したんじゃないかというような方もいらっしやいます。そういうような中で私の長男が今年民族学校に入るということになりました。実は、私は民族学校にあまり入れたくなかったんです。公立ですぐ近くの学校で地域の中でという希望もあったんですけど、子どもたちサリョン、カリョン、キョンの一番下のキョンという子なんですけど、学校でもキム・キョンで行っています。公立の小学校に行ってるんですけど。あるとき彼が「僕友達らに自分が韓国人であることを隠してる」と言うんです。衝撃だったんです。意味わからなかったんです。キム・キョンだったら誰でもわかるだろうと。それで周りの人たちはキム・キョンⅡ在日韓国人であるというところで遇してくれるのと違うのかと。そうじゃなかったみたいです。そういうことに触れるのはタブーであるというような雰囲気学校教師にも生徒たちにも、韓国人とか

韓国というような話題を彼の前ではできるだけしないようにする。そういう配慮があるのかもしれないけれど。こちらはそういうものじゃなくて、ちゃんと認めてほしいということで本名で行かしてるんですけど、それがそうじゃなかった。日本の社会の中にはそういうところをタブーにする。張本勲という往年の野球選手がいます。チャン・フンといまして、まだ帰化はしてないんです。帰化をしていた金田正一と韓国では比較されて、チャン・フンは偉い偉いという形で言われている張本さんですけど。彼はテレビに出て来て解説をする場合にも「在日」の視点は全く出しません。例えば、プロボクサーの洪昌守（ホンチャンス）がチャンピオンになったときでも、そのことに関して「在日」としてどうのこうのというコメントは一切しません。周りの人たちも張本さんに「在日」としての意見を全く要求しないんです。そのことはタブーなんです。だいぶ前に木梨憲武さんの奥さんの安田成美さんについてテレビで解説者みたいな人が在日韓国人であるというようなことをいったときにも、かなり大問題になった。それは言ってはいけないことなんです。そういう雰囲気の中で私の子どもはなかなかさういうことに触れられずに、キム・キヨンでありながら韓国人として認めてもらえずにいました。一昨年ちょうどいい機会がありましたから、韓国にオリニジャンポリーということで子どもたちだけで参加できる機会がありました。そこに行かせますと割と気に入って子どもたちと遊ぶ。それだったら民族学校に入れるとちょっと伸び伸びできるんじゃないかということで、それで民族学校に入ることになりました。実際に日本の社会というのは、私は塾で教えていますけど、教えるのがすごく好きで小学校のときにも学校の教師になりたいと常々思っていました。実際には、公教育の場で教師にはなれないということが中学校ぐらいで、小学校六年生ぐらいでわかって頓挫したんですけど。今、標語で「しない、させない、就職差別」というのがありますけど。私自身、国家とか地方自治体の大規模な組織的な就職差別によって、そういう道を閉ざされたという部分があります。在日韓国人の民団という組織があるんですけど。大阪の小さ

な支部で支部長やつてますけれども、その支部のお年寄りの状況を見ますと、皆、就職、いい仕事に就いていない。子どもたちもいい仕事に就いていない。年金がない。年を取つてくると、生活保護を受けざるを得ない。または細々とした仕送りだけで生活している、そういう人たちを見ている。なかなかそういう形で日本の社会が「在日」に対して私が韓国で受けたような癒しみみたいな、温かいことがあるとすぐパツと治っちゃうんですけど、そうじゃないということが問題じゃないかと、特に私は参政権がないということがすごく大きい問題だと今でも思っています。結びとしまして、自分の名前には「きむ・みよんそく」という平仮名でルビをふるようにしています。いつも平仮名です。「チョゴリときもの」の題名もチョゴリはカタカナになってます、きものは平仮名です。私自身のアイデンティティーを言いますと、私はほとんど日本人だと思っています。在日韓国人ですけれども、日本人であるし韓国人でもある。両方持つてるダブルだというふうな意識を持っています。祖先が韓国から来たというのを大事にしたいと思つてますし、そういう自分のありのままの自分というのを受け入れたいという思いがあるわけです。ですから将来的に私は韓国系の日本人というような社会が認めてくれるような形になりましたら、韓国系日本人という形で生きていきたい。でもその前に参政権を持つて、自分たちの力、自分たちが顔・姿を表せるようにならないといけない。在日韓国人として姿が表せてから、自分たちのことを韓国系だと認めてくれるから、そういうような日本人という形でなつていきたいなというふうに思つております。私は光山金氏親族会、キムでもいろんな派があるんですけど、ミツヤマキムシというのがありまして、これは奈良の平群というところに二百基ぐらいの共同霊園があるんですけど、そこを親族会で管理しております。そこが来年五十周年なんです。親族会結成五十周年で、その結成の記念事業として韓国から日本へ渡つてからの系図・系譜を作成したいというふうな声があつておりまして、それを作つていこうと思つています。五十年を期に、次また百年経つたときには、きっと自分たちのルーツを探す

子孫たちがいるだろうと思います。そういう人たちのためにもそういうものを残して、自分たちが韓国から来たということをはっきりと残していきたいというふうに思っています。もう一つ八十四年前に私の父方の祖父母が韓国から来ましたけれど、二〇一九年にはちょうど百年になります。渡日の百年を記念して、親戚一同でお祝いをしたいと今から思っている今日この頃であります。そういうような「在日」もいるということをおわかっていただけたらと思います。どうもありがとうございました。

仲尾 ありがとうございます。留学、その他のご体験を通じて非常に思いをうまくまとめていただいたと思います。次は朴姝姫（パク・ジュヒ）さん。



朴 姝姫氏

朴姝姫（パク・ジュヒ） 「チョゴリときもの」十周年おめでとうございます。こんにちは。私は朴姝姫（パク・ジュヒ）と申します。ちょっと緊張しておりますが、楽しく話してくださいだったので少し気持ちが楽になりました。まず最初に一言。今日は、子どもたちと共に私がお話のようにして今まで暮らしてきたかということについてお話ししたいと思います。今日お話しすることは、私たち家族の在日韓国人としての私たち家族流の生き方として聞いていただければと思います。それは、私たちの生まれ育った環境によって大きく違うと思うからです。そして親の考えや生き方というのはそれぞれの子どもの人生にも大きく関わっていくということを含めて考えなくてはいけないと思っています。今日は、私たち家族が子育てを通して、今までどのように暮らし、また子どもたちがどの

ように社会に関わってきたかということについてお話ししようと思います。私たちはカネミツという通名で生活をしています。そして韓国人であることはオープンにしていまいりました。そのことに対して何のこだわりもなく自然な流れでした。そして一般にいう国籍に対する差別問題、このことについて子どもたちには何の教育もしませんでした。子どもたちは小さい頃から自分が韓国人であるということは知っておりましたので、特別、幼稚園に行ったり学校へ行くからといって、差別問題のことについては別に教育をしなくてもいいと思っておりましたので、問題はないと思っております。長女は小学校から私学に通っていましたが、長男と次男は地元の西院小学校に通っていましたが、西院学区という所には割とたくさん「在日」の方がいらっしゃったようです。それで子どもたちが学校に通うようになって一番最初に驚いたことは、入学して間もない頃に家庭訪問がありまして、担任の先生から「お母さん、お子さんは国籍のことをご存じですか」と聞かれました。それで私が「先生、どうしてですか」とお伺いしますと、「お家によっては子どもにも国籍のことを絶対言わないでくださいとおっしゃるお家があるので、カネミツさんのお家はどうか」というふうに聞かれました。そのことを先生からお聞きしたときに、学校の先生ってこんなことにも気を使わなくてはいけないんだなと思つて、いろんなことを含めて私自身がとても複雑な思いをしました。子どもは十六歳になりましたら外人登録の切り替えに行きます。そのときに国籍のことを隠しておいたことが、親にも子どもにも精神的にすごい大きな負担になると思います。そのことについては子どもたちにも話しておいたことが良かったなと思えました。そして今、子どもたちは外人登録証カードになつてゐるんですけど、学生証は忘れても外人登録はいつも携帯してるといふような形です。それがあつたことで自分の身分が必要なきときにはすぐ証明ができるからといつて一日も持つて行かないことはないといふふうに申しております。五年生頃になると、韓国と日本との歴史について学校で勉強します。そのときに担任の先生からお電話がありまして、「今日、子どもさ

んから学校から帰って、何かおつしやいませんでしたか」というような問い合わせのお電話でした。それでその日、学校で韓国と日本の歴史を習って、それで子どもがとても気にしてるんではないかという心配のようでした。先生はそのことをとても気にしてらっしゃったようで、子どもが帰ってまいりましたので、「先生からこんなお電話があったよ」と言いましたら、「先生は差別問題のことを気にしてはんなのかな。僕たちは歴史の勉強をしたんだから、先生はちよつと気にしすぎと違う。全然大丈夫なのに。今日はいろいろなことがわかつて、とてもいい日だった」というような受け止め方で、子ども自身は帰ってました。もしかしたら私たち大人の方が気を使い過ぎていて、子どもたちの方があまりこだわっていないというか、そういうふうにも受け止められました。それはそれぞれの子どもの受け止め方も随分違うと思いますので一概には言えないと思います。こうして少しずついろいろなことで知識を得ながら、いい形で子どもたちはお陰様で成長してきました。この先もいろいろな場面で成長したところが見られるようになると思います。中学二年生ぐらいのときに母が在日韓国人としてどのように生きてきたかということをして、西院中学校で講演することになりました。中学校の先生が「できればチマチヨゴリを着て講演してください」ということでしたので、お引き受けて講演をすることにになりました。でもそのときに母にすれば、いくら子どもたちが国籍のことがわかつていても、自分が表に出て話をするのでとても嫌な思いをするのではないかというので、引き受けたものとても複雑な思いがあったようです。でもその日学校から帰って来た子どもが「おばあちゃん、今日のご苦労さまでした。皆がカネミツのおばあちゃんすこいなと言ってたよ。いつまでも元気であるように言っておいてねって言ってたから。おばあちゃん、今日はありがとうございました」とそういうふうにお礼を言いました。そして母も私もその言葉にホッとしました。母なんか半分涙ぐんだような感じで、多分それだけ気にしてたんだと思うんですけども。ですからそんな子どもの姿がとても親としてはほほえましく

思えました。それからは外で子どもたちが出会うと母に挨拶をしてくれたりとか、いろんなふうにならばあちゃん元気ですか。お体大丈夫ですか」と声をかけてくれるようになりましたし、母もとても喜んでいて、私は「講演をして良かったね」というふうにも母自身もそう思ったようです。現在、高校二年生になりましたが、今も自然体で楽しい学生生活を過ごしています。先日この子が「お母さん、黒人っですごいな。いろいろな面で才能が豊かですごいわ。肌の色や国籍のことで人間を差別したり認めないような時代はもう終わってると思うの。いいことはいいと認めれば簡単なことだと思っけな」とそんなふうに言っております。自分の目で見たり聞いたりしながら、知らない間にいろいろと成長しているんだなと思えました。それで大学生の娘もおりまして、この子の場合も同じようなことが言えると思います。娘の場合は割と小さい頃から自分の意見をはっきり言う子どもでしたから、今でも驚かされるのがたくさんあります。小学校高学年の頃に友達に国籍のことで物の言い方がとても差別的な物の言い方だったと言ったんですね。「韓国って電気もついてないし、いろんなことが遅れてる国やろう」というような言われ方をしたらいいんです。そのときにも娘は二度ほど韓国に行っておりますので、自分の目で見て現状を大体知っておりますので、「あなた、いつの時代の話してんの。一度韓国へ行ったら、それに私が韓国人であなたに何か迷惑をかけたん。こんな国際的な時代に国籍のことで差別してたら、これからの時代に遅れるよ」とそういう言い方をしたらいいです。私はその娘の一言に「えっ、小学生でこんなこと言ったの」というふうにとても驚きました。それで私たち親は子どもに差別したらどういうふうに言いなさいとかいうふうなことは全然教えてなかったんですけれども、知らない間に自分で考えてそういうことをきちんと答えられるようになったということにすごく親として感動しました。こんなことがあってからは、小学校から大学まで一貫の学校なんですけど、高校までそこに行きましたので、その間にオリンピックがあったときなどは、娘はミキと申しますが、「ミキちゃん、日本と韓国ど

「うちを応援してんのん」というふうには、そういう会話が自然に何のこだわりもなくできるようになっていたようです。大学生になった今も、娘なりの小さな文化交流と申しますか、家にいるときなどはほとんど料理などしたことがなかったんですけど、一人暮らしをするようになってから料理も作るようになったようで、友達と一緒に韓国料理を作って食べたとか、作り方を教えてあげたりとかいうふうなことで、なかなか皆に好評なようです。今は友達と韓国旅行に行く話が決まっています、娘以外は皆日本の方なんですけれど、皆で今一生懸命アルバイトをしまして二十五日から行くことになってるんです。娘にしてみれば、少しでも韓国にいい印象を持ってほしいと思っっているようで、一生懸命中心になって計画を立てております。楽しい旅行ができればいいのになと思っただけです。そして今年成人式を迎えました。京都市から成人式の案内が来ましたので、友達とそれに参加することになりました、最初は着物を着るとか洋服を着るとかいろんな話が出てたんですけど、結局何を思ったのか本人が「お母さん、チマチヨゴリを着て行きたい」と言い出しまして、何も用意がありませんでしたのでどうしようと思っただんですけど、母にそのことを言いましたら、孫が大勢いても「チマチヨゴリを着たい」と言っただけの子が初めてなんです。それで母はとても喜んでくれました、たまたまそのときに韓国に行くことがありましたのでチマチヨゴリを作ってきてくれました。本人はとてもそれが気に入って、友達と一緒にその式典に着て参加しました。友達が皆、そういう衣装を着たことがないものですから、皆がとにかく着て写真を撮りたいということで順番に着て写真を撮るようになっていきます。式典の後でもいろんな方から写真を撮らせてほしいという希望があったようで、娘は「なんか今日はモデルになった気分だった」と言いながら、なかなか帰って来ないので「ミキちゃん、どうしてんの」と電話しましたら、「今、四条河原町でお茶飲んでる」と言うんです。「あんた、そのままの格好で行ってるの」と言ったら、「そう」と言っています、とてもいい記念になった成人式を過ごしたようでした。娘が申しま

すには、私は自分が韓国人であることをオープンにしていることでとても気持ち良く生活ができるとうんです。といって、娘にどこまで韓国人としての意識があるかという点、これはとても怪しい面があるんですけど。自分自身がついて、私はそれに韓国人であるという、そういう物の考え方のようです。知り合いの中には国籍のことにすごくこだわっていて、そういう人から見ると娘があっけらかんとそうしていることがすごくうらやましく思われているようで、いろんなことを話をしてみても二十年近くいろんな環境で育ってきた子といくら話をしてもなかなかお互いの言い分を主張するだけでなかなか歩み寄るのは難しいというのが娘の話でした。私は私流の生き方でこれからも行こうというふうに娘は申ししております。私たちは、私自身も韓国語は聞き取れる程度はできるんですけど、言葉はあまり上手にとりつか、ほとんどしゃべれないのに近いほうです。それで子どもたちに特別な民族教育というのはしてあげられない、日本で生まれて日本の教育を受けて、子どもたちが育っていますから、その中で民族教育といいますが日常の家庭生活の中から少しずつ培ってくれればいいな思っております。国籍のことにしても母と同居してありましたから、小さい頃から母は大韓婦人会の中央と京都の方の支部の方の仕事をずっとしてありましたから、おばあちゃんも婦人会のことで一生懸命や、という姿をずっと子どもたちが見て育ってきました。韓国人であるということとは自然に子どもたちは小さいときから受け入れておりましたので、子どもたちは自分たちに与えられた環境の中でいろいろなことを考えて、いろんなことを自分たちなりに身に付けて自分なりに少しのプライドを持ってたくましく育ってきてるように思います。これから先もいろいろな壁に当たりながら人生を送っていくことと思います。でもこれからは国籍に全く関係ないとは言えないと思いますけど、自分自身がどう生きていくかということがとても大切なことだと思います。就職もとても厳しい時代です。でも私の周りには韓国籍のまま大手の企業に就職している者もおります。それは企業の方の話によりますと、パスポートが取れば優

秀な人材が欲しいということで就職しております。特殊なケースでいえば、この子も元々勉強はよくできて、大学を卒業して日本の方と結婚して、今日本の中央官庁に勤めてエリートコースまっしぐらという子も中にはおります。私もそれを聞いたときには驚いたんですけど、いろいろなケースがあります。共通して言えることは、皆自分の人生のために努力していることと、とても前向きであるということはいえると思います。私たちは子どもから学ぶことがたくさんあります。なにより子どもたちは私たち大人よりも付き合ひ方がとても上手です。それぞれの良いところを素直に認め合っています。私たち家族は私たちが生活しているいろんな場面面で韓国のことを紹介してきました。例えば幼稚園のバザーであるとか、学校での授業の中で紹介できるものであるとか、韓国料理の作り方を教えてあげたりとか。それはPTA活動も通してということです。子育てを通して、PTA活動をする中で、それは子どもたちのためにより良い環境と地域活動では皆が住みやすい地域にするために、これは国籍に関わらず一人一人の人間として親として気持ちと同じだと思えます。私たちは私たちにできることで社会と関わってきました。それは私たちが韓国人である以前に、一人の人間として世の中にどう関わっていくかということがとても大事だと思っております。私たちの生活の中には日本の文化をたくさん取り入れて生活していますし、子どもたちは韓国のことよりも日本の中で生活していますから日本人のような感覚を持っていて、子どもたちは韓国のことよりも日本のはどんだん取り入れて、それを楽しみながら生活していきたいと思っています。私たちは日本という恵まれた国で生活していますし、時代の流れとともに周りの環境も少しずつ変わってきていると思います。選択肢もそれなりに広がって来ていますので、すべて自分自身にかかっているのではないかなと思うところもたくさんあります。これからは私たち家族は少しのプライドと自信を持って、私たちにできることで皆さまと関わって、私たちが族流に暮らしていきたいと思っております。どうもありがとうございます。



金 禮秀氏

金禮秀 (キム・イエス) こんにちは。金禮秀 (キム・イエス) と申します。先程もご紹介いただきましたように、お隣の朴(パク)さんと一緒に四年前にこの席でお話をさせていただきました。そのときにもう一人朝鮮学校の小学校に二人の男の子のお子さんを通わせていらしたホー・ポンミさんという私たちよりも少し若いお母さんと一緒にこの席に座らせていただいで。またこのようなチャンスにお目にかかることができばというふうに願っていたんですけれど、今朝鮮学校の子どもたちが拉致問題の影響で本当に苦しい立場に立たされて、私自身も母親としてテレビのニュースを見たりして、日々どんな思いで生活していらつしやるかと思うと、拉致家族の方にはもちろんですけど、「在日」の一人として胸のつまる思いです。私自身は一九五〇年に愛知県で生まれました。現在、夫と長男二十歳大学生、次男が十八歳高校三年生で受験生真っ最中です。三男は十六歳の高校一年生です。長男は小学校が日本の公立の小学校、中学校は京都の東山にあります韓国学園という民族教育の学校に行きました。高校は地元の公立高校、今現在大学生をしております。中学に上がりましたときに民族学校に行ったわけなんですけど、私どもは三人の息子が生まれたときから夫もそうで私もそうなんですけど、本名の一つだけで生活してまいりました。前回その三人の小学校・中学校での生活と私が母親として体験したこと、子どもたちを通して先生などとお話したり多くの日本人のお母様などに見聞きましたこともお話しさせていただきました。高校に長男が入りましたときに、お隣にいらつしやる仲尾先生が中心になって活動を進めてくださってる全朝教(ゼンチョウキョウ)という高校生の活動の場に参加させていただくことがあります、中学で三年間民族教育を受けたことと定期的に全朝教の場に集まって、この場合は韓国人の子どもたちだけじゃなくて中国人、ブラジルから来た人たちなどの日本に在住するマイ

ノリティー少数の人たちが集まってお互いに勉強し合い、活動する場のようにした。今現在は大学生になりまして、勉強とアルバイトと民族の勉強会で活動をしております。昨年の夏にはワールドカップで韓国に行くことがありまして、釜山（プサン）でサッカーを見せたいだいて、とても感激したいい夏だったと思います。次の次男は現在高校三年生なんですけど、小学校は公立の小学校、中学・高校は民族学校の、長男が行っておりました韓国学園で今現在高校三年生です。高校三年生で今受験生です。韓国学園の場合は文部省の認める一条校になっておりませんので、大学を受けるに当たってほとんどの私立の学校は受験資格を認めるんですけど、国公立の学校の受験資格がないために大検という大学検定を高校一年生から受けていきます。大学検定は高校一年で全部の教科が受かってしまった場合でもそのまますぐに大学を受けることはできなくて、十八歳の誕生日からそれが認められるということなんです。次の三男は現在は高校一年生です。これから文系の方に行かなければいけないのか理系なのか大変自分の中でも葛藤があつて、「どうするの？」という親の問いにはなかなか答えが出せずにいる状態だと思えます。この子が昨年冬に十六歳になりましたから、役所に行つて外人登録証の手続きを自分ですべてしてまいりました。高校一年生、去年の夏の夏休みの宿題で自分のおじいさん、おばあさん、ハラボジ、ハラモニというんですけど、その方の歴史、日本に來た過程を聞いて、それをレポートにして出しなさいという宿題がありました。本人はあまり気乗りがしなくて、きちつと宿題は多分提出できてないかと思つてんですけども、同じクラスの友達で「夏休みの宿題どうするの？」と聞いたら、その子のおじいさん、曾おじいさんが強制連行ではないそうなんですけど炭坑に働きに來られて、その話を僕は書こうと思つてると。そうしましたら息子曰く、「すごく失礼な言い方だけど、うつつけだよね」と言つたんです。私も「そうだね」と言つたんですけど、なんと重い言葉だろうと思ひました。その韓国学園で昨年末に、皆さんご存じの方もいらつしやるかもしれませんけど、オー・ドクス（吳徳洙）という映画監督

が何年か前に「在日五十年」という映画を作られたんです。五時間以上の映画で、膨大なフィルムと資料を集めて編集された「在日」の歴史を綴った映画です。その監督を招いて映画会を学校でいたしました。そのときに保護者も招いて、中学校の一年生から高校三年生までの子どもと保護者、おじいさん、おばあさんも同席していただいたんですけど、五時間のフィルムはなかなかいっぺんに観ることは難しいので、二時間ぐらいのとも見やすいフィルムになっていました。その場で人生そのもの、フィルムそのままを生きてこられたおじいさんやおばあさんがそこにいらして、中学校一年生から高校三年生の若い人たちと一緒にその場のフィルムを観ることができ、本当に胸がつかまる、胸が熱いという思いを経験させていただきました。今回この場にすわらせていただくので、お電話をいただきましたときに私にとっては半分子育てが終わってしまったような気がしておりますものですから、私は何を話すことがあるんだろうと思って、半分はお断りできたらいいなと思ってたんです。でもその「在日」の映画と一緒に観たことと、もう一つたまたま母親同士で話すチャンスがありました。そこも八十前後のおじいさんが同じ所帯で住んでらっしゃる家庭なんですけど、自分の子どもを民族学校に入れようとしたときに「差別をされるからやめておけ」と、そのおじいさんがおっしゃったそうなんです。それがたまたま一軒のお家じゃなくて、もう一人のお家も「うちも実はそうなのよ」と。そのご家庭というのは大変経済的にも社会的にも安定している家庭で、ご自分でも多分日本に來られて血のにじむような思いもあつたと思うんですけど、今の年齢を重ねてこられても自分たちが味わった差別や苦しさというのはせめて孫には経験してほしいくない。お嫁さんや私たちの世代が「今はそういう時代じゃない。自分たちから名乗って差別も撤回していかなくちゃいけないんだ」というふうに言っても、やはり自分の孫には苦労させたくないという強い思いがあるようです。私がお話を聞きました、本当にその人たちの人生と世代によって各家庭によっても思いというのが違うんですけど、自分の人生を受け止めることの難し

さ、そして日本の社会の中で「在日」として韓国人として肯定的に生きることのできない苦しさというものをまざまざと見せつけられたような気がいたします。今日は本当に自分の中でまともしてお伝えできなくて、とりとめのないお話しができません。歴史の認識の差、人間としての尊厳、「在日」の韓国人としてどの様に日本社会で生きていくことができるのか？私自身のテーマです。私は一母親ですし何の活動もしておりませんが、今本当に毎日毎日緊張感・恐怖感のある中で生活している毎日です。うまくお話ができなくてすみません。

仲尾 ありがとうございます。三人三様のご体験の中でいろんな思いを率直にお話しただけだと思います。それでは休憩に入りますが、鄭（チョン）さん後のことお願いします。

司会 三時半に二部の質疑応答に移りたいと思います。皆さま、お手元に質問・ご意見用紙がありますので、そちらに質問など書いていただきまして、この机の上に意見箱置いておきます。こちらにお入れください。時間があまりないので、二十五分までに用紙を入れていただければ、半ぐらいには二部を開催できると思います。よろしくお願いします。

（休憩）

仲尾 大変長らくお待たせいたしました。それでは皆さん方のご質問、感想を中心にして後半を進めたいと思います。あまり時間がないんですが、一通り全部読ませていただきます。お一人の方、三つ質問があるんですが、どなたにということを書いてなかったの、こちらで適当にお答えいただく方を選

ばせていただきました。まず「外人登録ではなく、外国人登録ではないでしょうか。外人は差別語です。揚げ足取りのようですがでしょうか」。これについては私から答えます。確かに正式の法律名は外人登録です。それを省略してそのようにおっしゃったんですが、一方この「外人」という言葉については私なりに感想を述べさせていただきます。かつて外人というのは欧米人を指していました。アジア人に対しては外人という言葉も適用しておりませんでした、そういう日本人の非常に東西を分ける、アジア人を蔑視する中から「外人」という言葉が生まれていたように思います。けれども今は例えばプロ野球にしても、その他のスポーツ界にしてもそういう用語は消えましたね。そういう点では外国人という呼び方がいいのであると。法律上もそのようになっていくことだと思います。次「日本が恵まれた国であることは認めますが、国籍を理由にして様々な排除・抑圧をくり返していることはどうお考えですか」。これはお二人のうち朴姝姫（パク・ジュヒ）さん、簡単にお答えください。

朴姝姫（パク・ジュヒ） 難しいと思うんです。それぞれ国レベルというよりは、私たちが私たちの生活をしている周りの中でどう受け止めるかということもあると思うんです。もちろん私の両親は本当に府内の田舎の方で生活を始めたから、当初はいろいろなことがあつて生きていくのも大変だったようです。そういうことも私たちは親から聞いております。私の親は早くに亡くなりました。でも私たち姉弟が四人でいつも話をするんですけど、両親はもちろんいろいろなことがあつて最初は苦労しましたけれど、その中で自分たちがいろいろと培っていく上で地元の方にもとても馴染んでいて、自分たちの生き方を認めてもらったということ、両親が亡くなった後も私たちはすごく地域の方に温かく見守られて、姉弟が育ったんです。だから難しい捉え方は私自身がそうできないんですけど、そういう意味では私たちは多分恵まれて育ったからあまり実態的にそれを感じるものがなかったのかもしれないと

いうふうには思っております。

仲尾 ありがとうございます。もう一つの質問がこの方からあります。「在日朝鮮人ではなく在日韓国人と呼ぶのは、国籍だけが理由でしょうか。他にも理由があるのでしょうか」。これについては、今日のお三方はそれぞれも在日韓国人というふうにおっしゃいました。前回のときは「在日朝鮮人であるということをおっしゃりたい」というふうにおっしゃってた若い方もおられました。それぞれの思いが皆さんにあるようなので、それを一つ一つ言つてると、例えば会場に五十人おられたら五十人通りいろいろ違ふと思うんですが。今日はこの三人の中のお一人である金禮秀（キム・イエス）さんのお考えをちよつとお聞かせ願いたいと思います。

金禮秀（キム・イエス） 私が今日在日韓国人と言つたのは、国籍以外の理由はないと思います。今日はたまたま口に出して韓国人と呼びましたけども、私自身の意識の中では在日朝鮮人、朝鮮人だといふふうにお思っております。こういう質問をいただきまして、自分自身で改めて驚いてるんですけども、今の状況が大変緊張しているので朝鮮という言葉を自分の口から出すということが自然に出てこなかったんだというのを改めて自分の中で驚いて発見しているような状態です。

仲尾 ありがとうございます。私は日本人の立場として「在日」の方をどう呼ぶかということについても非常に迷いがはっきり私自身の側にもあります。民族として朝鮮民族である、あるいは韓民族であるということそれぞれ自称されて、在日朝鮮人、在日韓国人であるとおっしゃってるわけで、それは本質的には同じ民族を指し、同じ「在日」を指してるわけですから殊更違いがあるというふうには考

えられない。けれども祖国の分断ということの中で二通りの名前が一定の意味合いを持って使われてきている。それが政治的な場合もあるし、個人的な思いのこともあるだろうし、いろんなように思われます。最近では私はそういった分断を反映するようななどちらにもくみしたくないという思いから、在日コリアンというふうにおっしゃってる方も少なくありません。これについてはそれぞれの思いを込めて、それぞれ自由に呼ばれたらいいのではないかと、第三者としては多少無責任のように聞こえるかもしれませんが、それしか答えようがないような気がいたします。次の方の質問です。これは具体的に選挙権の問題を金明石（きむ・みよんそく）さんがおっしゃったので、金明石（きむ・みよんそく）さんにお答えいただくことがいいかと思えます。「選挙権を得るということ、今まではどのような運動があり、今ほどのような所にあり、今後の運動方向はどう行けば良いのか教えてください」。これは全部含めて、金明石（きむ・みよんそく）さんお答えいただけますでしょうか。

金明石（きむ・みよんそく） 今まで裁判闘争というのがありましたね。最高裁で「在日」に選挙権を付託するのは違憲ではないというような判決も出てきました。それと前後して、各自治体に意見書を採択するような形で働きかけをするというような運動をやっておりましたけど、そういうのがありました。こういう形だけじゃなくて、実際にそこから盛り上がっていかないとなかなか参政権を得られるというのは難しいだろうと、私自身は思っております。例えば私がよく思いますのは、海外で飛行機が落ちます。落ちたときに「日本の方は乗ってません」という形でありますね。それは日本人に対しては責任があるわけです、日本の国というのは。そういうときにはちゃんと安全を守るという責任があります。「在日」に対してはないですね。そのときに「在日」にアナウンスされるといふことはいわゆる。翻ってみますと、日本というのは「在日」に対して全く責任を持たなくてもいいということ。日本

に住んでる「在日」に対して責任を持たない。例えば老人がいくら生活しにくくても、それに対しては目をつぶることができる。責任を持たないというような、恩恵としてはそういうことをしていただけるのがあります。特別給付金二万円という形でも大阪府では支給されておりますし、そういうような形でもなってるわけですけど。基本的には責任を持たなくてもいいという状態です。参政権がありますと、それは違った形になるだろうと私は思っております。社会の一員として認める、社会の一員として認めていくというそういうような形で「在日」が気がついたときに、参政権運動というのはかなり盛り上がるんじゃないかというふうに私は思っているんですけど、まだまだそういうわけにはいかない。もう一つ期待、希望がありますのは、今総連系の人たちが参政権を要求してない、いらぬという言い方をするわけで。これが困るんですね。世界に出たときに、世界の人たちが「在日」のことをよく知ってるか、そんなこと知らないんです。「在日」に参政権があるということも、ないということも知らないです。そういう人たちが私たちが要求した場合に、参政権を要求してない人たちもいるんじゃないかということになると、国際社会の中では訴える力が格段に弱くなるんです。一丸となって「在日」は参政権を要求してる。これはおかしんじゃないかと。三世、四世になってまで参政権がない、社会の一員として認めないのはおかしんじゃないかというふうな形で言えるような状況になりましたら、私は運動が必ず盛り上がるんじゃないかと思っております。総連系の人たちも参政権を要求する。「在日」の人たちも今までの国籍とかどうのこうのいろいろなことがありましたけれども、そこでちょっと違った形で参政権を要求していく。日本人になりたくないという方はたくさんいますし、日本が嫌いだという人もまだまだいらっしゃると思いますし、その人たちも含めた形で自分たちはそれが生きていく上で必要なんだということがわかってくれば盛り上がるだろうと思えます。

仲尾 ありがとうございます。次にお二方から少し重なった問題が出てきていますので、このお二人のご質問を合わせて、お三人の方々お一人ずつお聞きしたいと思えます。一つは「帰化」の問題です。「お三方は現在の「帰化」というものについてどうお考えになつておられるでしょうか。私の方としては批判的な考えを持っております」。もう一人の方は「現在帰化者の増加、国際結婚などによる、いわゆるダブルやクウォーターといった日本国籍保持者が増加しています。これらの増加傾向はこれからもますます進むと思うのですが、その中で何をもち「在日」とするのかという疑問が出てきます。それぞれの考えを聞かせてください」。こういうことなので、このお二人の質問は重なつておられるので、「帰化」並びに「在日」とは一体何なんだろうかということをお二人の方それぞれのお考えを簡単にお述べいただいたらいかがかと思えます。先程からトップバッターは朴姝姫（パク・ジュヒ）さんをお願いしていますので、よろしいでしょうか。

朴姝姫（パク・ジュヒ） 「帰化」についてですが、私の主人の姉弟は六人おりました、そのうち四家族は帰化をしております。私と姉が一人いる私の家族と姉の方が「帰化」しております。でもお正月とか集まると、一番上の兄がうちの子どもたちを見ても、とにかく「帰化」をしる、「帰化」をしるといつも勧めます。でも主人と私が思っているのは、主人も私も今のところ参政権の問題はもちろんあるんですけれども、それ以外のところでは今韓国籍であるということと私たちは何も困ったことがないんです。だから私たちはこのまま今のところでは韓国籍のままでもいいと思っております。子どもたちにそんな話をしましたら、上の大学に行つてる子どもはあまり皆が「帰化」しろ「帰化」しろと言うものですから、それに対する反発もあるのかもわかりませんが、生態環境で環境の専門の方に進みたいということと環境の勉強をしてるんですけど、韓国籍のまんまで就職できるように自分に力を付ける

と、先はどうなるかわかりませんが、今はそういう気持ちでいるようです。あまり「帰化」をすることに対して、子どもたち自身どうしてもしたいという気持ちはないようですし、これからどうしていくかということを見極めながら、それも考えていきたいとは思っております。

仲尾 それでは金禮秀（キム・イエス）さん、次お願いします。

金禮秀（キム・イエス） 「帰化」というのは私たちの家族に限っては今まで一度も考えたことがない問題です。親戚などには「帰化」した人がいるのですけれど、私自身の意見は何のために「帰化」をするのか。やはり日本人になりたい、国籍を持って日本人であるならば、民族であるとか自分たちが持ってきた伝統であるとか、「在日」の立場とかというのを自分の中でどういうふうに収めて、子どもに伝えていけるのかというのが私にとっては全く頭の中にあがらない問題です。親戚の中にも「帰化」をしても、韓国の物産だったりお料理屋さんをしている人もいるわけなんです。その人たちにとって「帰化」をしていくことが、日本の社会の中で生きていくことの折り合いの付け方というのはどの程度まで考えられて、自分の中でただ便宜上日本人に国籍をかえることがいいから安直に選んでいくのか。やはり帰化した方が一々説明していかなくていいから便利だと思われるのか、自分の中の収め方というのは私にはちょっと理解できないです。ですから先程も申しましたように、本名で生きることというのが説明をしなくても「在日」の韓国人であるということがわかっていただけるのでそのまま説明をしない自分でありたいと思っております。

仲尾 ありがとうございます。金明石（きむ・みよんそく）さんお願いします。

金明石(ぎむ・みよんそく) 何をもつて「在日」とするかというのは一言でいって自分が「在日」だと思ったら「在日」だというようなところではあるかと思えます。もちろんゆかりがあるということなんでしょうけれど、何か答えにくいところがありますね。「帰化」のことにつきましては、民団でも近かなり帰化者が増えております。年間一万人超えてずっと増えていってることがあります。これはもちろん差別があるからという部分も就職差別的なものとか将来の結婚ということも含めた形であるんですけど、ある意味ではアイデンティティーの問題が関係しているんじゃないかと思えます。民団で成人式をやります。成人式をやるときにはほとんど女の子たちはチマチョゴリを着てくるわけですけど、堂々と着物をきてくる「在日」が増えております。彼女たちは自分が日本人であるということに関してかなり自信を持つてるような、私にはそういうふうに見えます。韓国民団の成人式に来るわけですから、私からするとそれは非常識じゃないかというふうな感覚はあるんです。そこへ着物をきてくる。かなり自信を持ったところがあると思えます。これはそれだけ、どこに行っても韓国語もわからないしということ。在米僑胞は安定した形で、自分は韓国系のアメリカ人であるというようなアイデンティティーを持ちます。アメリカ人だ、韓国系のアメリカ人だとそういう気持ちを持ちます。「在日」だけがなかなかそれを持ってない。社会的に持てない状態があるというふうには私は思っています。まして、アイデンティティーとしてはほとんど日本人だということは三世、四世、五世という形になってくると当然のことだと思えます。ただ今「帰化」するということになりますと、結局いろんな差別状況を個人的に解消しようと、個人的にバラバラになっちゃいます。在日韓国人全体にあるそういう問題を個人的なレベルで解決しようとするという一つの方法だと見れないかなと思うんです。決してそれでは解決できないんじゃないかと私は思っております。それを解決していく、日本の社会の中で韓国系日本人というふうな朝鮮系日本人というふうなものがある程度の人数がそういう人たちが

る。できたら一%ぐらい、百二十万人ぐらいの人たちがそういうような日本の社会の中でのいると。そこで初めて韓国系日本人というのが認められるんじゃないかと、ところが「帰化」すると皆バラバラになっちゃって見えなくなっちゃいます。ある意味では偽の日本人になって、自分だけが我慢して犠牲者になれば、その下の世代は日本人と皆に認められるだろうと、でも自分は我慢して何も言わないというような形でやっていくとすれば、自分を大事にしないじゃないかというふうなことを私はかえって思います。

仲尾 ありがとうございます。この「帰化」の問題は選挙権の問題とも連動しております、いわゆる地方参政権の付与法案が政党政治の手垢にまみれて、継続審議でほったらかしの状態です。他方、「在日」に参政権を与えることはしたくない、したがって国籍取得を許可制じゃなくて届け出制で簡単に取得して、全部日本国籍になったら問題解消するじゃないかという意見が国会の中で出て議員立法化されようとしておりました。今もそれは消えていないようです。しかしこれは一九五二年に一方的に本人の意向を聞くことなく、日本国籍を当時の法務府民事局長通達で奪ってしまったということが原因と考えれば、本人の意見、当事者の意見をまず聞くべきじゃないかと「在日」の方々から大きく声が上がってまして、今のところそれは沙汰やみのような格好になっておりますが、また吹き出す怖れもあります。そういうことも含めて、日本社会全体の「在日」に対する考え方がどのように移り変わっていくかということの中に帰化の問題も選挙権の問題もあるような気がいたします。そういった政治問題とも絡みますので、皆さま方その辺りについてはいろいろ多面的にお考えいただき、あるいは動きを注視していただければと思います。ここからは感想をいくつかいただいておりますのでご紹介させていただきます。一つ目「私は日本人です。質問ではなく、単なる感想で恐縮です。韓国人からあなたは外国人（日

本人)だと言われ、ショックを受けたというお話がありました。国籍やアイデンティティーということについて最近考えるようになりましたが、私にはやはりピンと来ません。日本で生まれ、日本で育ちながら、外国籍、日本国籍でないためにいろいろ不便があると思います。その程度にしか想像力が働きません。でも私は人をもっと多様で良いと思います。自分とは何者なのかを考えることは意味あることなのかどうかわかりません。こういったことにこだわって生きるべきなのでしょう。か、それともこだわらずにいるほうが幸せなのでしょう。こだわらさせられる社会は問題だと思います。こういうご感想です。次の方。「三人の方々、とてもいい話を聞かせていただきました。ありがとうございます。国籍の問題がやがて私たちの努力で、例えば東北の出身、九州の出身、関西の出身との差のレベルになって、お互いがその文化を共に豊かに楽しめるようになればいいと思っています。現実には性、出身、国籍の差別はまだまだ残っています。自分の中にある差別から改めて一人一人が一個の人間としてありのままにつき合える社会を作りたいと思いました」というご感想です。この方は性、出身、国籍の差別はまだ残っているというふうにおっしゃっていますが、もう一つ私なりに感想を付け加えさせていただければ、民族による差別があるということをお考えいただけたいと思います。つまり「在日」の方々には法律や制度による国籍じゃなくて民族差別を受けてきたという歴史があるので、そのことを含めてどういった社会が必要かということをお考えいただけたいと、これが私の感想です。次の方は金明石(きむ・みよんそく)さんと朴妹姫(パク・ジユヒ)さんへのご感想です。「金明石(きむ・みよんそく)さん、「在日」のあなたから日本で生まれ、日本で育って、日本で永住する「在日」の人たちの故郷は日本であると話されたことに感動しました。そして韓国系日本人と言えるようになりたいと言われたことを嬉しく思います。朴妹姫(パク・ジユヒ)さん、国籍や民族に縛られずに自然な姿で日常生活を重複して暮らしていただけることに嬉しく思います。私も「在日」の方々を理解するために、そして自分に偽りがいかか検

証するために毎年お盆の時期に一泊二日で自宅を開放して、いろんなイベントを行っています。ただし小・中学生が相手です。「チョゴリときもの」に登場してくる人を通じて大きく変わっていく姿を見ます。これからも生活の中から日韓交流を続けていこうと思います。これからもよろしく」。この方は日本人です。次の方は記名はありません。「お三人三様の思いを聞かせていただいて、また新たに目から鱗の思いの感を深くいたしました。この十年全部ではないのですが、心に留めてこのフォーラムに通わせていただけたことを心からありがたく感謝いたします。私たちの中にまだまだ差別のぬぐえない思いがあることを本当に申し訳なく感じたりしております。少しでも人権が重んじられ、国籍とか血筋によらず人そのものが尊ばれる日の来るように、これからでもできることから力を尽くしたいと願っております。この十年このフォーラムに関わってくださいくださった皆さま、仲尾先生、事務方の方々に感謝いたします。どうかこれからも続けていただきますように切望いたします」。こういう激励の言葉もいただきました。以上が皆さん方のご質問並びにご感想であります。またこのご質問やご感想と合わせて、また皆様方でいろいろ思いを深めていただけたらと思います。それでは今日のフォーラムどうもありがとうございました。お三人の方々、どうもありがとうございました。

司会 次回のご案内いたします。フォーラム形式ではこれで終わりいたしましたして、二月二十二日の土曜日、そして三月八日の土曜日同じ時間、二時から四時まで韓国・朝鮮の伝統的な文化の紹介を上演という形で紹介いたします。こちらのチラシを受付の所に置いてありますので、ご参照いただいでから、お越しいただけますようお願いいたします。ありがとうございました。

第三回 実演 『祭祀—故人をとむらう心』

講 師

趙^{チヨウ}

亨植^{ヒョウシク}氏

コーディネーター 仲尾

宏氏 (京都造形芸術大学客員教授)

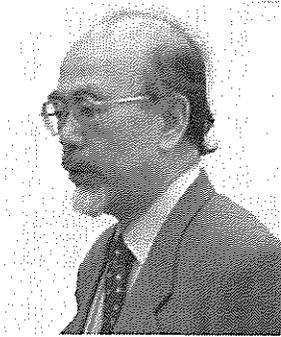
二〇〇三年二月二二日実施

●実演「祭祀―故人をとむらう心」

司会 皆さん、お待たせしました。それでは「チエサとチャンチク趙さんちに伝わる風習」の第一回目を始めさせていただきますと思います。私はチエサとチャンチクの企画を担当しております金と申します。この企画は在日韓国・朝鮮人の文化に触れてもらおうということで企画したわけなんです、在日韓国・朝鮮人の歴史というのももう五十年以上になります。その中で時が経つにつれて国籍に対する考えですか、民族についての思いですか、そういったものは個人それぞれが違うといってもいいくらい多様化しています。そういうふうな中で普段の生活をしていきますとなかなか見えにくいところがあると思うんですね。その中でわかりかし現在におきましても在日コリアンの文化としてまだ守られている、残っているものを紹介することで、見えにくいところに目を向けてもらおうというのがこの企画の趣旨でございます。このプログラムになるんですけど、これからコーディネーターを務めていただいております京都造形芸術大学の仲尾先生から、「儒教と宗教」ということでお話をいただきます。その後実演に入ります。今日はここで実演してもらうということなんです、趙さんのお家のことというのはなかなか見えないので、先日私がお家に行きましてビデオを撮ってきたものがあ



ります。それを少し見ていただいて、その後お楽しみを試食をしていただくというふうになっておりますので最後までお付き合ってください。あと看板ご覧いただきましたら、「連続フォーラム・チヨゴリときもの 共同開催」というふうになっております。「チヨゴリときもの」というのはこちらと京都市が共催ですとやっておりますので、今回で十回目を迎えております。「チヨゴリときもの」というのはずっと「在日」の問題を国籍ですとか教育の問題、結婚の問題、そういうふうないろんな視点から取り組んできておりまして、毎年パネリストとして「在日」の方あるいは「在日」のことに関わっていただいている日本の方、そういった関係の方々から直接お話を聞くというフォーラムです。今回趣旨を同じくしておりますので共同開催ということになっております。それではご紹介いたします。京都造形芸術大学の仲尾宏教授です。どうぞよろしく願います。



仲尾 宏氏

仲尾 皆さん、こんにちは。私は今おっしゃいました「チヨゴリときもの」を毎年やってきました、今年で十回目、十年目を迎えますが、そのコーディネーターを務めさせていただいております。今日は皆さんに「在日」の方がいつも「チヨゴリときもの」では主人公ではありませんが、もちろん今回もそうではありませんけれども、単にお話していただくのではなくて、お家に伝わる風習ということからなまの文化をそのまま味わっていたかどうかという大変素晴らしい企画が生まれました。それで私はそういった素晴らしい企画の中で何ができるかと考えました。少しでも日本での仏教あるいは儒教のあり方と、韓国・朝鮮でのあり方とかなり違うんです。

いずれも中国から伝わってきたものでありますが、日本の場合は仏教以外の仏教徒でない方ももちろんいらっしやるとしても、多くの方が仏教徒と考えてみますと、葬祭儀礼の中でお甲いの儀礼の中で仏教が生活の中に入り込んだ習俗になつてゐるんです。儒学、儒教の方は儒学という学問の体系として、これも秀吉の侵略戦争のときに連れて来られた姜沆という人が儒学の中の朱子学を伝えたものですけれど、江戸時代に儒学として非常に大きな発展を遂げました。ただし日本の儒教はそういった学問の体系としては発展したんですが、生活儀礼としては定着いたしませんでした。ところが朝鮮半島では、仏教も儒教も共に生活儀礼として入つた面がありますが、生活儀礼としては仏教よりもむしろ儒教が中心です。むしろ仏教の方は一つの修行、一人一人個人の修行の問題と、そのように現在ではなりつつあります。お手元にそれをざっと歴史の流れのようなものを書きましたけれども、ご存じのように古代の朝鮮半島三国の時代、高句麗・百濟・新羅、コグリョ・ペクチェ・シルラの三国時代に、中国から伝わりました。最初は三七二年に高句麗の小獣林王という王様のときに「太学」という大学を作つて儒教の教育が始まつた。そこで孔子、孟子をはじめとする四書五経が伝わつて、その教育が伝わりました。それとほぼ同じ頃に仏教が公伝してきた。公に伝わつてきたということが説かれております。ですからそういう点では朝鮮半島も中国のこういった最新鋭の新しいイデオロギーと新しい宗教観念が入り込んできたわけでありまして。道教はもう少し後から入りますけれども、いずれにしても仏教がまず非常に栄えました。この三国、高句麗・百濟・新羅はもちろんのこと、やがて新羅が朝鮮半島のほぼ三分の二を統一いたします。それで統一新羅といひます。前期新羅に対して、後期新羅という言い方もあります。今のピョンヤンから北の辺りは渤海、すなわちバルヘという国ができました。これは主に高句麗の領土内にいた人たちがつくつた国であります。そういった王朝。それからさらに時代が下りまして、高麗王朝。八世紀以降十四世紀に至る高麗王朝。ここでも仏教が積極的に保護されまして非常に盛んになつた。そうい

う点では古代から日本の中世の前半にかけて、朝鮮半島では仏教が日本と同じように盛んであった。一種の国家宗教になっていたということが言えます。その過程で日本にも伝来してまいりました。儒教の方は五一三年に五経博士が渡来してきたという説があります。五三八年にはいわゆる仏教公伝です。倭国の欽明と後によばれた天皇に百済の王様から仏像や仏典が贈り物として贈られた。これが公伝といわれるものであります。そういうわけで日本でもそれ以降、仏教が聖徳太子の時代を経て、一種の国家宗教のような形になって発展してまいりました。ところが朝鮮では高麗王朝が減んだ後、李成桂によって朝鮮王朝が建てられます。この朝鮮王朝の中では仏教を熱心に保護した王様、世祖（セジョ）という王様もいたことはいたんですが、この王様のときには仏教が保護されて大変盛んになりましたが、それ以外の王様は仏教よりも儒教を重んじるようになってまいりました。そうすると、もうお坊さんが邪魔になつてくる。そういうわけで、仏教のお坊さんたちは町から追放されて山の中に行つて修行する。身分も他の遊芸民であるとか、肉を解体する人と同じような賤民という扱いです。これはおよそ日本では考えられないことです。日本では仏教のお坊さんは非常に高い社会的地位を占める人が多かったわけですが、それと全く違うようなことになりました。このことは今もその形が残つておりまして、韓国、朝鮮に行かれた方はお気づきと思いますが、立派なお寺は山の中にもあります。そこへ行くと、いつでも四六時中木魚の音あるいは読経の音が朗々と響いてまいります。男女、僧尼がそれぞれ別々に住んで厳しい修行をしているわけです。町中には、例えば京都のような町だと京都に限らず東京でも大阪でもそうですが、大きな瓦屋根の建物、最近では鉄筋もありますが大抵お寺です。そういうものが全くありません。ソウルでも曹溪寺と呼ばれるお寺がありますが、大きなお寺はそこだけでほとんど他にお寺らしいものは見ることができない。仏教はそういう意味では弾圧されたという面もありますが、逆にそこから転じて仏教徒というのは修行のためである、そういう僧俗の分離が非常に徹底することになり

ました。従つて、お坊さんが奥さんをもらつてるといふようなことはない、妻帯は禁止されてる。韓国のお坊さんたち、韓国の仏教をよく知つてゐる人が日本に来ると、日本ではお坊さんが結婚してゐるじゃないか、しかも皆頭を剃つてないじゃないかと、非常に奇妙に思われるようであります。そういう点で仏教のあり方が違ふんです。仏教徒の方はしかしながらそういう立場に追いやられても誇りが非常に高うございます。そもそも韓国の仏教では護国仏教。つまり仏教というのは国を護る上で大変大きな力があるんだ。仏の加護によつて国家が護られるという考えがありました。ですからモンゴルが侵攻してきたときも、高麗大藏経というお経を八万大藏経といいますが、大きな版本に組んでそれを何通りか作り上げたわけです。そのうちの一つは海印寺の伽耶山にあります。世界文化遺産に登録されているようです。あるいは豊臣秀吉の侵略のあつたとき、義兵が立ち上がりました。義兵はいわばゲリラでありますけれど、その中でも特に勇猛を極めたのが僧兵であります。そこに書きましたけれど、松雲大師という人がいます。松雲大師という人はお坊さんです。お坊さんだけれども、国王の呼びかけに応じて僧侶を率いて軍隊を組織して、日本軍に対して非常に大きな打撃を与えた人です。この人は後に徳川家康と会見するために京都へやつて来まして、伏見城で家康と会見し、家康が再び侵略の意志はないということを言つた。そういう言質を取つた人です。外交僧としても大変有名な人ですけれど、韓国ではこの人を海の李舜臣（イスンシン）、陸の松雲大師というふうに並列して評価しています。教科書にも出ていますので、大抵の韓国の人はこのことを知つております。もう一つ韓国の仏教の特徴は、日本の場合はいろんなお経の勉強をする中で教義がいろいろ解釈され、教団がいくつもできました。何派、何宗、いろんな宗派がありますね。ところが韓国・朝鮮ではその辺りがかなり違ひましてかなりおおらかです。つまり禪宗も浄土宗も兼学する。両方一緒に勉強する。だからお寺に行きましても、主にメインの仏像は毘盧遮那仏、奈良の大仏と同じことであつて、すべてを統合した仏ということです。しかしその他に

も四天王もあれば、十二神将もあり、観音様もあれば、阿弥陀様もあるというわけで、日本のお寺の場合は、仏像を並べるならべ方が詳しく規定され、それが守られておりますけれど、そういうことも全くない。そういう点ではおおらかなといえますか、総合的な仏教であるということが言えます。儒教の方は学問として発展しただけではなくて、朝鮮王朝下で一つの世の中で人々が暮らしていくための道徳の基本というように考えられました。なぜそのようになっていったかといえますと、朝鮮王朝のもとでは行政官、官吏に登用されるためには科挙と呼ばれる大変難しい試験を受けねばなりません。日本の場合も科挙はあったんですが、大体菅原道真の頃辺りで後は廃絶してしまつてるんです。ところが朝鮮半島では朝鮮王朝のもとで逆にこれが大いに発展をしまして、これに通らないことには国家公務員になれない。一旦国家公務員になれば、それは大変大きな力と財産、そして地位と名譽を手に入れることができます。だから在地の豪族は全部息子を勉強させて受けさせる。そして行政マンとして地方に派遣されていくということなんです。これがいわゆる両班です。武官・文官の両班制度ですが、その中で儒教が大変大きな役割を占めておりました。その原理は四番の一に書きましたように修身。年輩の方は修身ということ、戦前の教育の中であまりいい思い出を持つてらっしゃらないと思いますが、身を修めること、自分自身を修める。人を治める、人というのは済民、治国、平天下、民衆を救い、国を治め、天下を平らかにする。これが人を治める道である。そのためには自分をまずコントロールしなきゃいけない。これが修身だというわけです。こういうことに通じて、自分もそういうふうな位置づけた人たちが両班階層、つまり貴族であります。それからもう一つ朝鮮王朝のもとでは身分制と家族制度が非常にはっきりしてまいりました。よくご存じの方もあると思いますが、族譜(チョッポ)というのもありまして、出身地を本貫と言いますが、本貫を同じくする男性の嫡出子、長男が先祖崇拜をしていくという制度が確立されていきました。これは古代や中世にはあまりはつきりしてなかつたです。だから族譜でもそれ以前のもの

のは後からつくったものが多くて、朝鮮王朝になってからこういうものはつきり確立されていくわけです。そして長男によって先祖の崇拜の儀礼が行われ、財産も相続されていく。そういう形で民間の方にはずっと流れていってるといふことです。そういった先祖崇拜の儀礼を通じて、儒教の徳目が両班階層だけではなくて、農民や常民と呼ばれた町人のところにも広がっていった。このようなことがおおよそ言えるかと思えます。その中で特に徳目とされたのは、親孝行する。これが第一の徳目である。それから悌、これは兄弟姉妹が仲良くする。信、信頼。忠、国に忠義を立てる。康、謙遜、自分を大きく見せない。恥、恥を知る。そういうことはいろんな徳目としてありますが、この中で最も大きく考えられたのは孝です。親孝行です。これをしないことには人の道にはずれるというわけです。従って、先祖の祀りをしてない者も人の道にはずれたことということから葬祭儀礼が非常に発達していくことになりました。日本の場合も孝ということとは徳川時代にも大きく言われましたけれど、同時に近代になってから特に忠という觀念が強く言われます。これは日本が帝国主義的な発展をする中で、儒教道徳の中で忠を取り上げる。忠君愛国。その忠君の忠は天皇であるという形で天皇制イデオロギーと結合していく、こんなことになっていったわけでありました。その点で朝鮮半島の場合は孝を大事にするところから、葬祭儀礼、先祖崇拜の祭祀が大変大きな役割を持ってまいりました。そのために伝統的な儒教的な考え方にしたがつた儀礼がそれぞれの家族単位で行われる。親族単位で行われるということになります。その詳しい儀式はそれぞれお家によって親族によって異なります。今日は趙さんのお宅でのものですから、趙さんではどのような考えでどのような儀式をなさっているか。これから詳しく説明していただくことになります。ただ一つ共通していることは、主催者は必ず嫡男子です。お父さんが兄弟の中の長男、息子が引き継ぐ場合も長男が引き継ぐ。絶対次男、三男はそれには関わらない。だから韓国・朝鮮から来られた「在日」の方でも長男の方、趙さんはご長男ですけど、次男、三男の方で「在日」の方がおられたり

すると、やり方はご存じないという方が多いようです。それは自分が取り仕切ってやっけないし、お父さんから聞いてないからです。次男、三男には言う必要がないから、お父さんは言わないわけです。そういうわけで、今日は在日の中でもご長男でその儀式をずっと取り仕切っていらっしやった趙さんのことをやっていただくことになります。ついでに全体としての葬祭儀礼がどんなものか、これは一般論でありまして、それぞれ家庭によつてあるいは時代によつて少しずつ変わってきておりますが、それをちょっとご紹介申し上げます。まず墓前祭とお家でお祀りする家祭とが分かれております。墓前祭は毎年一定の日に五世代以上前の祖霊、うんと前の祖霊に対して一族が子孫全員が集まつてお墓の前でお詣りします。お墓の前で香を焚いて礼拝をします。これも独特の礼拝方法があります。これは後で趙さんにやっていたできます。献酒をする。お酒を供える。祝詞のようなものをあげる。これをあげた後、その紙は焼いてしまう、残さないことになってます。一度このような儀式が日本でデモンストレーションされたことがあります。それは朝鮮通信使が江戸時代にやつて来るようになりました。三代将軍家光のときとお祖父さんの家康の廟が日光にできました。そこで家康のために儒教式の儀式をやつてほしいということをお願いして、朝鮮通信使がやつて来たときにそれを日光でやつてもらつたんです。そのときにいろんな音楽を奏するための楽器を持つて来た。それは今も日光に残っています。儀式を今のよう順序でやつたんです。今、私が最後に祝詞をあげたものは焼くと言いました。朝鮮通信使も家康のために日本から頼まれて詠みあげた。それが終わつてから焼こうとした。すると日本の側が「もつたない。こんな記念になるものを焼いてしまったら、後に残らないじゃないか。私たちが家康公のためにやつたことをぜひとも伝えたいから残してくれ」とお願いをしました。例外的にそれが今残っているんです。これは儒教の儀式からいうとルール違反でありまして、そんなことはしないということになっているようでもあります。そういうのが墓前祭。もう一つは家でお祀りする家祭。これは四世代前、自分から勘定する

と五世代前になりますが。お父さんお母さんの世代、おじいさんおばあさんの世代、曾祖父さん曾祖母さんの世代、その上を高祖父母と言いますが、その高祖父・高祖母の世代までのところのお祀りを家でやるということになります。ここでは父系の近親者、その高祖父に連なる子孫が全部集まってお祀りをするということになります。これがいわゆるチエサ（法事）であります。今日やっていただきます。それぞれの命日のときにキジュサと言いまして、それをやるということになります。それ以外に元旦と秋夕、チュソクというのはお盆です。旧暦ですから、日本でいうと九月の末頃です。その二回には茶礼（チャレ）と呼ばれる儀式を家の中でやるということになります。ですから高祖父までですから非常にご先祖が多いわけです。ですから私が知ってるある「在日」の方は、それは娘さんだったんですけど、「日曜だったらデートしたい。でも日曜ごとに親戚の法事があつてなかなかできない」と言ってるやいっていた人がいたのを思い出します。つまりウィークデーはなかなかしにくいから、どうしても日曜に変更してやってしまいます。仏教式もそういうことが多いわけですが。そんな訳で日曜となったら、どっかの法事を駆け回るといふようなことになる。あるいはその準備でお母さんや女性が大変だと、そんなお家もあるようです。趙さんの所はどうであるか、それはこれから趙さんにお話していただきますが。ざっとそういうところです。葬儀、これは一番最後のところに書きましたけれど、これは亡くなった人の靈魂を呼び寄せるために行われるものが葬儀でありまして、そもそも出棺は亡くなってから三日目、五日目、七日目のいずれかにする。そして埋葬する。こういうことになってるようです。それ以外に毎月一日と十五日、サクゴウテンというお祭りをやります。それがずっと続きます。そして一年目になると小祥（ソサン）、二年は大祥（テサン）、その三カ月に喪礼がおわり、三年喪と言って喪が明ける。金日成（キム・イルソン）さんが亡くなった後、結局今の金正日（キム・ジョンイル）さんが三年経って、やっと三年目に政界のトップになると自分で認めたというのも、どうもそのようなところとも関わりが

韓国・朝鮮の葬祭儀礼と儒教・仏教

1. 儒教・仏教の伝来—三国時代(高句麗・百濟・新羅)
 - ① 372年 高句麗の小獸林王のとき、太学をたてて儒教教育をはじめ。
『四書五經』の伝来と教育
 - ② 372年 仏教伝(『三国史記』)、375年 中国からの渡来僧のために2寺を建立。
 - ③ 7世紀 道教が中国より伝わる。
2. 仏教の隆盛—高句麗、百濟、新羅、統一(後期)新羅、渤海、高麗各王朝(5C~14C)
☆日本への伝来 513年 五經博士渡來說 538年 仏教公伝
3. 朝鮮王朝下での儒教国教化と仏教への迫害(15世紀末)
 - ① 僧侶は賤民とされ、仏寺は山中で修行のためだけに存続を許される。
 - ② 護国仏教 モンゴル侵攻下の高麗大蔵経、壬辰倭乱での松雲大師ら義僧兵の活躍。
 - ③ 僧俗分離の徹底—妻帯をみとめず。
 - ④ 総合仏教 禪・淨土兼学、道教の受容
4. 韓国・朝鮮の儒教倫理(朝鮮王朝下で発展)
 - ① その原理=おのれを修め(修身)、人を治める(済民治国平天下)
 - ② 主導者=兩班階層(在地地主が科挙試験により高級官僚となり、事実上世襲化)
 - ③ 身分制・家族制度(嫡男直系による財産相続と祖靈祭祀継続)と結合して普及する。
 - ④ その徳目
孝 悌 信 忠 廉 恥=礼法
5. 伝統的な葬祭儀礼(儒式)(主宰者は必ず嫡男子)
 - ① 墓前祭
毎年一定の日に5世代以上前の祖靈に対して一族(門中)子孫全員が墓前でおこなう。
焚香 礼拝 献酒 祝詞
 - ② 家祭 4世代前(高祖父)への祭祀のためチパン(父系近親者)によって祭事をする。
○忌祭祀(キジエサ) それぞれの命日
○茶礼(チャレ) 元旦 秋夕(チュソク=旧盆)にチパンの自家に集まり行う祭事。
 - ③ 葬儀 阜腹(靈魂再招致儀礼)
出棺(死後、3、5、7日目のいずれか)と埋葬=初喪
朔望奠(毎月1、15日)
1年忌 小祥 2年忌 大祥 =3年喪

あったようです。以上がそのような韓国・朝鮮での仏教と儒教の流れでありますから、「在日」の方でこ
ういうものを伝えて、今日私たちに紹介していただくというのはなかなか機会があるようでないんです。
今日はこういう場所ではありませんけれども、これから皆さんにそれを披露していただくというこ
似てるけれども違った異文化を私たちはここで直接体験することができます。どうもご静聴ありがとう
ございました。

司会 ありがとうございます。それでは実演に入ります前にスクリーンの方をご覧いただけますでしょうか。こちらの衣装なんですけれども、現在のチェサを行うときの衣装とうことになっております。名前がチェボク（祭服）です。お見せするために、いい写真がないか探したんですが、なかなか大きいのがなくて少し粗いですが、これが男の方の服装です。黒い帽子をかぶって、衣装は基本的に白っぽいですね。特徴的なのが胸の辺りに紐が一本見えると思います。こういうふうな衣装を伝統的には着ているということなんです。二枚目お願いします。今のチェサの形態というのは朝鮮王朝のときに確立されたというふうに言われております。二枚目ご覧いただきましたら、女の方もいらつしやいます。地方によりまして、女の方は一切チェサをしないという地方もございますし、こういうふうな女性の方も交えてされるという場合もあります。ありがとうございます。それでは実演に入りたいと思います。まず講師の方をご紹介する前に、この大変な御馳走を準備してくださった方々をご紹介申し上げたいと思います。今日の講師の奥さまでいらつしやいます崔（チェ）・潤琳（ユンニム）様です。崔潤琳（チェ・ユンニム）様のお嫁さんにあたります山中きよみさんと趙（チヨウ）・正子（マサコ）さんと講師の方の弟さんのご長男のお嫁さんにあたります山中有香子様です。ありがとうございます。それではご紹介いたします。本日の講師を務めていただきます、伏見区在住の趙（チヨウ）・亨植（ヒョンシク）さんです。趙さん、よろしく願います。

趙亨植（チヨウ・ヒョンシク） 皆さん、こんにちは。ご紹介に預かりました趙でございます。今、講師なんて言われました。私は講師じゃございませんので、普通講師でしたら講演なんて難しいこと言いますけど、こんなこと私はできる人間じゃございませんので、あくまでも口でいきますから。専門的なことはさておきまして、口演という形で行きます。仲尾先生から一部始終ご説明がりましたが、現



趙 亨植氏

在私どもが、前もって申しますが私も在日の二世、日本生まれでございますので、本国ではどのようにやってくるか経験ございませんので、あくまでも両親がやってたことを見て、両親がこうやるんだああやるんだと普通の家庭でもおそらく教えないんじゃないかと。何十年自然に見て、亡くなってからあれはどうなんだろう、これはどうなんだろうと。そんなときに初めて書物とか参考になるものを探し当てて、まがりなりにこういうことじゃないかという形でやっていますので、必ずしもこうせねばいかんというものでもなし。各地方によって違うと言われましたけど、家庭によっても違うわけです。基本は私は間は間違いないというのは料理の並べ方なんです、これは西向いてますね、この場所では。あくまでも床の間が北という認識で、これが北になるわけですね。赤が東、白が西と。「紅東白西」(ホンドンペクソ)と言っていますが。赤いものは東に置く。白いものは西に置く。「魚東肉西」(オドンユクソ)と言いまして、肉は西、魚は東に置くと。これはどこの家庭でも基本でございます。それからもう一つ「頭東尾西」(トウドンミソ)、頭は東、尻尾は当然西になるわけですが。これが基本です、料理の並べ方は。それともう一つがナツメ、栗、梨、柿と。韓国語読みでは、栗栗柿梨(チュユルシリ)となるんですが、栗(ナツメ)、栗、梨、柿は必ず置く。今日は残念ながら、季節によって各家庭でも苦労すると思うんですが、今シーズンオフなのでどうしても栗と柿が手に入らなかったもので、あるものと仮定して皆さん了解してください。どうしても手に入りませんので。探し歩いたんですがダメでした。大体基本はそのようになっておりますので。なぜナツメであるか、なぜ栗であるかといいますが、いわれとしてはナツメは種が一つだと、これは王を象徴すると一つしかないものだ。栗はイガグリを取ると必ず芽が三つ出てくると。私は記憶にないんですが、三つ出てくる。これは領議政総理大

臣と左大臣、右大臣左右議政の三つのいわれをする。柿は種が、私もあまりはつきり見たことない、六つある。これは官職が六つ昔あったらしいです（六曹といい、今でいう日本の各省にあたる）。梨は八つの種があると。これは韓国では昔八道（バルト）と言いました。今は十幾つ、北を寄せると十七、八あるんですかね、何々道（ドウ）、現在は17道、県ですね。今はもう慶尚南北道、昔は慶尚道、忠清道、全羅道全部一つずつでしたから、八道と言いました。八道と言いましたけど、今は十幾つあります。八つの種があるので、県知事、道知事それを意味すると。なぜそういうところにいわれするのか、先祖にできればそういう官職に就かせてくれと願うのか、あるいは先祖が「おまえ、このぐらいなれよ」と言うのか、これはわかりませんが。そういういわれがあるということは私は聞いております。これは必ず並べるものだといいことで、それが基本になっていることです。韓国・朝鮮では日本でいうところの位牌というものは、永久に家に置いておく位牌というものはないわけです。最近知りませんでした、本来はないものです。ですからその都度、写真があれば写真。昔の人は仲尾先生がおっしゃったように、両班（ヤンバン）、高貴な家庭は有名な画家を連れて来て、肖像画でも描かせて家族に残すというような形もあったと思うんですが。ほとんどの家庭が肖像画もない。私も現在韓国に祖父母の墓があるんですが、当然私も顔も知りません。生まれる前に亡くなっていますから。おそらく私の親族では祖父母の顔を知ってるぞというのは今おそろくないんじゃないかと。でも一応祖父母には間違いないということ、両親に案内されて墓参りして、それからずつと墓参りは行っております。法事は私は日本ですべてやっています、こういう形で。これは両親の位牌ということなんです。先程先生が言われたように、法事が済むと焚いた香炉で燃やしてしまうわけです。これも二説あるんですが、私は右に男性、左に女性を書いたんですが、人によっては亡くなった者は逆だから右に女性を書けという方もおられるし、書物でもそういうのが多いんですが、その通り書きますと（男性）「顯考学生府君戚安趙氏神位」（女性）

「顯妣孺人金海金氏神位」。これは韓国では紙榜（ジバン）と言います。いわゆる位牌です。日本語で読むと、「ケンコウガクセイフクン」「ハマンチヨウシ」というのは私の方の趙なんです。戚安（ハマン）というのはルーツのその出身であると、地名なんです。——余談になりますが、もし私が若い時分によそに行つて恋愛したと。その人がたまたま知つたら戚安趙氏だったと。絶対結婚はできません。韓国では何年前かに自殺した人もいます、結婚できないと。ルーツというものは韓国は非常に重んじますので、今現在では金とか李とか朴とか、私の趙というのは少ないんですが、金とか李とか朴とかたくさんおるわけなんです。同じ金でも本貫（ホングワン）、ルーツが違う人、例えば金海金氏とか慶州金氏とか分かれるわけです。こういう人は結婚してもいいと。昔はダメだったんですが。今は許されるという法律があるらしいですが。——韓国でいいますと、「顯考」（ヒョンゴ）、祖先に対する敬称なんです。これがおじいさんでありますと、ここに「祖」が入るし（顯祖考）、曾おじいさんですと「曾」が入りますし（顯曾祖考）、その上の人ですとこれに「高」が入るわけです（顯高曾祖考）。これ（顯）は父親に対する敬称であると。「学生」というのは生前に、韓国朝鮮では昔官職に就くということは並大抵のことではなかつた。一般の人はほとんどそういう職に就けない。そういう官職に就けなかつた人の尊称であると、敬称である。「府君」は男性ですから、夫に対する敬称だろうと。誰々のチヨウさんの位牌であるということなんです。女性の場合も女性に対する敬称です。「顯妣」（ヒョンビ）と呼びますが。官職に就けなかつた人の奥さんであると。金海金氏の、これはうちの母親なんですが位牌です。こういうふうに書くわけなんです。これは当日に書いて、こうやって貼つて、終わつたらここで焼いてお帰り願う。こういうのが一つの基本なんです。本来、先程先生がおっしゃつたように四代ぐらい前にさかのぼつて法事を行います。実際に私自身は、祖父母、両親で二代ですね。しかしうちの息子は三代やつてるわけでもし私が亡くなれば、うちの孫が一緒にやつてますから、結局四代になるんですね。どうしても韓国の

家庭では四代を引き継ぐという形になるので、私がかもし亡くなった場合は息子はおじいさんのはあけてもらって結構だと言います。普通の場合は両親の命日が二回、旧暦の正月と旧暦のお盆が二回、うちの場合は別にいわれがあつて旧暦の九月九日、日本という重陽の節句、菊の節句です。その日と、私の家自身では五回。それから本家に行きますと、私の祖父母、共通の祖父母ですから本家で、その二人。おじおばが亡くなつてますので二人、従兄弟の兄が亡くなつてますので一回。だから年に十回これをやるわけですね。実際にこれを作るの大変だなと思われる、本当に実際に大変なんです。お菓子はそのらの駄菓子屋で買つて来いと、スーパードに行つたらあるじゃないかという手もあるんですが、私の場合は家内が中央市場辺りへ走つて、新鮮なものによつて、魚にしても果物にしても仕入れてくるわけです。前日から、それで作るわけですが、今並べてるこういうのは全部ステンレスですが、昔は全部真鍮です。私の両親が生きてるときはまだ戦前もそうですが戦後、水道が通つてない、井戸水とかポンプの水で朝早くからワラで、磨き砂でみがくわけです。そういうことを法事の前にやつてる。しまうときも、真鍮というものは錆びてきますから、そのくり返しですね。いつも真鍮は大事にしていますから、おそらく戦前から戦後の真鍮は寄付しろと皆取り上げられてしまいました。今ないので皆ステンレスになつてますが、器は必ず銅製のを使つていたと。香炉なんかでも、これもそうなんです、ちゃんと煙がたえない。先程写真にもありましたが、家庭によつて皆違ふわけです。ろうそくを立てる家庭もあります。私の家の場合はろうそくを一切使いません。香木の代わりに線香でやる人もおります。私の場合は昔から香木を使います。日本で買つてたら、とても経済的に足りませんので韓国から仕入れてきて削るわけです、一本買つてきて、こういう形で香木を使うわけなんです、実際に香木を焚くといひ匂いがするんですが、これちよつと質が悪いのか、あまりいい香りがありません。お酒をついで、身内が多いと最低でも四親等が集まるわけですから、そうなると思ふに日本におれば東京におろうが、本家が京都であれば前日か

らでも大体集まつて来るんですね。人が多ければ多いほど時間がかかります。昔は十二時を過ぎて一番鶏の啼く間に法事をすますというのがいわれでした。ですからあくる日の十二時になるまで、じつと皆待つわけです。それから始めるわけです。ですから人が多いと、終わって皆会食するわけなんです。下手すると夜明けになってしまふ。現在では皆生活がかかっておりますから、そこまではとつてもできないので。夕飯時に人が集まればそれで済まそうじやないかとなりました。会食を済ましてでも、解散すると十時頃になります。ですからあくる日皆勤めがありますから、韓国でも最近では早めに済ますと聞いております。日本でも当然そうですが。そういう形で時間が相当早まった。こういう料理なんかでも、聞くところによると韓国辺りの方が最近では簡素化されて本当に簡単にやるらしく、かえつて「在日」の方が昔の伝統を引きずつて、そのままやつてるんじゃないか、経済的に豊かなんだという話も聞くんですが。私のところは毎度今度は簡素化しよう、今度は簡素化しようと言いなながらも、同じことをくり返してゐるわけです。うちの両親も「おまえらは私らが死んだら、こんなことせんでもええよ。朝晩ご飯だけ置いてくれたらいいんだ。そのぐらいですませよ」「うん、そうする。あんなことやつてられん」と言つてたんですが、亡くなつてみるとやつぱり同じことをくり返してゐるわけです。これがずつと一つの伝統になつてゐるので、「在日」の場合は本国より伝統を守るといふのか古いといふのか、そういう面があるわけです。うちの趙の場合は男性だけです。女性は下働きでいろいろ料理を工面したり、料理を作つたりするんですが、法事そのものにたずさわるのは男性だけです。女性は一切関わりません。先程写真にあつたのは、おそらく済州島辺りは聞くところによると女性も参加するというふうに聞いたんですが、見たことがないので私はわかりませんが。私らの場合はあくまでも男性だけです。ですから兄弟身内が多いと十七、八人集まると、同じことを十七、八回くり返すわけです。その間にご飯を供えたり、お汁を替えたりするのに時間がかかるんで、本当に一時間、二時間ずつとかかる場合があるわけです。です

から身内が少ないと簡単に済む、多いと時間がかかるというのも一つのいわれというか伝統という形になるわけです。早口でしゃべったんで、もし何か質問があれば、私がわかる範囲内で。わからんものはカンニングの虎の巻を持ってきてますのでまた紐解いてみますけど。なければ、実演をやってみますので、これは二、三分で終わるんですが。身内が多いと何回も同じことをくり返す。

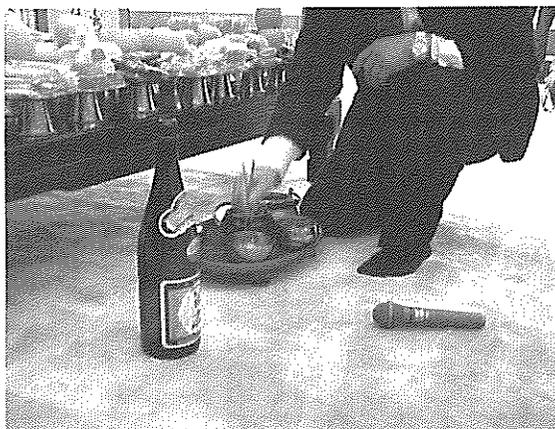
司会 それでは全部終わりましたら、質疑応答の時間をあらためて設けますので、そのときにまた何かありましたら質問していただければと思います。今から実演していただきますが、ずっとすわっていただけるのもしんどいかと思いますので動き回っていただいて、またカメラ等もご自由に撮っていただいで結構です。どうぞ皆さん前の方にお寄りください。

(実演)

趙亨植 これは祭主が、先程仲尾先生が言われましたように直系ですので、私の場合はもし私がいなくなった場合は私の長男が、弟もおりますが祭主として長男が継ぐわけです。もしその長男が亡くなった場合は今度は私の孫が継ぐわけです。従兄弟に上がいるじゃないかといいますが、これは関係ないわけです。極端にいえば、天皇家みたいに。長男しか継げないというのが一つのいわれなんです。まずお酒を注ぐために、必ず目下の者が横



に焼いてくれますので置きにくいんです。そういうことも注意しないとけません。何人かお酒を注いだ後に、途中でご飯とお汁を出します。ご飯とお汁の位置ですが、位牌の貼る向きと同じで、仏さんだからこれも逆に置かないといけないんじゃないかという人もいます。しかし書物でも見たことがないので家の場合には常識的にお汁を右、ご飯を左に置きます。次にご飯をス



頭は東向きです。もう一つお腹を仏の方へ向けると。ですから背を向けて置いたらいかんと。下手に魚屋にそのまま頼みますと、逆

プーンで十字に切り込みを入れ、スプーンを縦に差す。またお酒を注いで、その都度こうして箸を3回鳴らします。そして礼拝を繰り返すわけです。こんなこと言っているのか悪いのか。今やつてもらってる息子の嫁なんです、それから私の甥の嫁、三人とも日本人です。全部作ってくれました。全部日本人ですよ。うちへ来てもう長いので、もう慣れっこになっちゃって。次に、昔はお釜でご飯を炊いていたのでおこげができますね。それを食事の最後にお茶代わりに出します。韓国語ではスンニョンと言いますがね。最近ではお茶や水です。こんなに早く出すと、「まだお汁も飲んでいないのに、もうお茶漬けか」と言われそうですが、実際には何度か礼拝が済んだ後ですよ。こうしてお茶にごはんを3回ほどすくい入れます。そして酒を替えて礼拝をする。それから先祖のお連れさんもここへ連れてきて一緒に食べてくださいという意味でここにこうして料理を置くわけです。全て終了しますと、まず祭主が最初に酒にちよつと口をつけて、次に出席者全員が少しずつ回し飲みます。そして好きな料理をつまんで、孫にも好きなお菓子を取らせませす。そしてお膳を片付けて皆で会食してお開きとなります。昔はあくる日の朝、近所の知り合いや身内をワーツと呼んでご飯を一緒に食べ、故人の話をしたりしましたが、この頃では身内も離れた所に住んでいたり、近所付き合いの仕方も変わったりで、そういう事はなくなりましたね。以上で実演を終了したいと思います。ご静聴ありがとうございました。



質問者 A

一番最後、私の家ではお水の中に入らなものを少しづつ入れて川に流すのですが。

趙

本来ならナムルや魚を入れて川に流し、鳥につついてもらうのですが、この頃は公衆衛生上やりにくい状況です。昔は必ず川に流したり、近くの公園に持って行くとハトが食べたりしてね。今はそういうのがなくなりました。これは仏と一緒に、自然のものにも食べて欲しいということですよ。また、全部終わりましたらこの位牌を燃やして昇天してもらおうと。これは絶対残さないんですね。私は筆ペンで書いたのですが、昔は筆でちゃんと書きました。最近の若い人なんかはこれを参考にワープロで打って、そのまま置いておいたりします。なんで燃やさないんだと言いましたら「燃やしたらわからんようになってしまふ」とかで。

質問者 A

家の場合、親と何代か上までの祖先の分のご飯を一緒に並べてするのですが、いいのですか？あくまでも私のところの場合ですが、先祖・おじいさんおばあさん・両親と、いちいち替えます。最低お汁・ご飯・ナムルは。よその家庭はどうか知りませんが。

趙

質問者 A

家も全部替えてしていたのですが、子供達がどこで聞いてきたのか、「お母さん、盆と正月はみんな一緒に並べていいんやって」と言うもので。

趙

さつき言い忘れていましたが、盆と正月は朝に行います。命日のチエサは夜にしますがね。札をするのは2回と決まっていますのですか？

趙

はい。これは決まっています。

質問者 C

女の人は全然加わらないのですか？

趙

家の場合は参加しません。下ごしらえはしてもらいますが。先程の写真のように地方によっては女性も入るようです。恐らく済州島あたりだと思うのですが。

質問者 D

家は慶尚道で、障子から中は男性のみですが、外からですが女性も一礼します。

趙

ですから一概にこう言い切れない。地方や村によって様々ですから。必ずこうしなくちゃならないというのではなく、ただ基本はこうであると、ここを違わなければいいと、こういうわけです。韓国では本来男性も土間の下から礼をしないとイケない。だから今でも襪から下がってした方がいい。でも人数が多いと区切つてられないですから、入れる範囲内でやっています。

質問者E

屏風は、最近の若い者は持っていませんが、絶対必要なんですか？

司会

途中でお邪魔します。先ほどからの繰り返しになりますが、これがなくちゃいけないというものではないんですね。それを一つ一つ突き詰めますと切りがありません。今回は、タイトルにもあります様にあくまでも趙さんちの風習をお見せするというのが趣旨です。これは何分家庭行事ですからそれぞれ違うということをご了承ください。

質問者F

趙さんの自宅ではチエサをするときの服装はどうされていますか？

趙

ネクタイを締めなくても派手な服装でなければ良しとしています。特に制限はしていません。ただし、金ボタンであるとか、派手なネクタイは禁止しています。韓国では祭主は先程の写真であった様に白っぽい衣装に帽子をかぶるようです。全員があいっただ服装をするのは少ないと思います。屏風なんか、つて言ったらアレですが、無くつたって法事はできる。家はたまたまあるということを立てていますが、無ければ無いでいいと思いますよ。

質問者G

長男さんだけに受け継がれるということですが、その家に男の子がいなければどうするのですか？

趙

普通四親等内であればその人に、いなければ女の人が礼拝は無しで準備だけして冥福を祈ると聞いておりますので恐らくそうではないかと。

質問者H 日本の仏壇や法事の場合、位牌の形は決まっていますが、その紙榜（チバン）は決まった形があるのですか？

趙 写真では家の形になっているのも見たことがあります。これも決まっているわけではないですが、家の場合は幅六センチ×縦二十二センチ以内を基本としています。

質問者I 次男・三男の家はどうするんですか？

趙 長男の家に参加して一緒にやります。そして次男が亡くなれば、独立してその家の長男がチエサをやるんです。近くに住んでおれば六・八親等、遠くにいて来れない場合は四親等が加するんです。

質問者J スイカや梨の上の部分が切つてあるのは何故ですか？

趙 これは私も聞いてみたかったです。昔から色んな人に聞いてもわからんし、書物にも書いてない。私の考えでは、仏が食べやすいようにむいてやつてるんじゃないかと思うんですが、ちよつとこれは分からないですね。

質問者K バナナは皮がめくつてありますね。

趙 果物は最初のものが食べやすいようにという意味があると思うんですがね。

司会 こちらで「なんでメロンだけはヘタが取つてないのか」という声がありますが。

趙 これはなんででしょうねえ。もつたないのかなあ。

司会 チエサの日だけは仏さんも生きた人のように扱って食べやすいように、ということもあるでしょう。上をむく理由はわからないけれど、口伝えでいつの間にか風習になつていったということでした。では、試食が待ち遠しいところですが、その前にまずビデオを見ていただきたいと思います。趙さんのお宅でチエサが実際に行われた時の模様を撮ってきたものです。

家の中ではどういう様子なのかご覧ください。

(ビデオ上映)

司会

ありがとうございます。年長者から順番にああいうふうには礼拝して、最後は女の子はされないということだったんですが、特別ゲストということで美理ちゃん、女の子が最後で終わりました。これは法事ということで厳肅な中でされるのかなと思いましたが、「京阪は高い」だとかそういう話があったり、「これはおいしい」だとか、子どもがカメラ撮影のためにふざけてたところもあるんですけど、こういうふうが続けていく中で次の世代へ次の世代へと受け継がれていってるといふ様子をご覧いただきました。それでは簡単に料理の説明をさせていただきますと思います。先程始まる前にカメラで撮っていたらっしゃった方が多数いらつしゃいましたが、試食でグチャグチャになってしまう前に撮りたいとおっしゃる方、どうぞ撮ってください。料理の材料は何かとか、簡単に奥さまから説明をいただきますと思います。

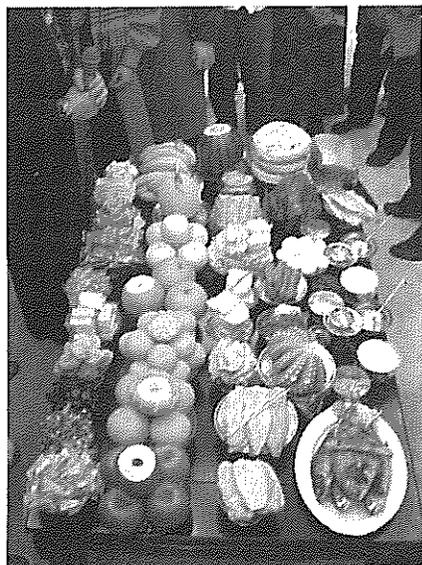
奥さん

そちらはお魚ね。鯛とチヨグとニシンです。そちらに



はチヂミね、焼いてあるの。カレイなんです。一番向こうは白身で、それを卵を巻いて焼いてあるんです。その次はカレイ。カレイを焼いてあります。そのお隣はエビ。こちらはチヂミです。そのお隣は肉かな。これはイカ。これは豆腐を焼いてお醤油につけました。これは天ぷらなんです。レンコンとおイモと竹輪、かまぼこ、ゴホウと。これはスルメなんです。一つに盛って。こちらは何かいわれがあるんですけど、五種類入ってるんです。ネギとワラビ、カンピョウ、お肉ともう一品。偶数にはしないんです。こちらは牛肉、お肉のチヂミ。あとは見たとおり。これも牛肉をお醤油で炊いたんです、串さして、醤油だけです。また味みてください。これは豚肉なんです。蒸しブタ。これは朝鮮のお餅なんです。これはカシワで、全部いわれがあるんですけど、私はうまく説明ができません。すみません。これはおつゆのサムタン（三湯）といって、三種類の具を入れてあるんです。それはテグといって鱈。

趙 先程言い忘れましたけど、三湯（サムタン）という普通の汁、肉の汁、魚の汁とこれというんです。五湯（オタン）というのもあるんですけどね。五つあるんです。それからサムジョクというのがあるんです。三炙（サムジョク）というのはチヂミなんです。中に野菜と魚と肉を入れます。五炙（オジョク）というのもあるんです。経済的にちよつと余裕のある人といったらおかしいんですが、中にエビを入れるとか五種類入る。こうやって並べてますが、普通は三列とか五列とか奇数で並べると



というのが原則なんです。

司会 ありがとうございます。そうしましたら、もう写真撮られる方いらっしゃらないですね。もうグチャグチャにしても構わないですね。そちらにお箸とお皿とナムルとかも置いてありますし、このもご自由に食べてしまってください。お鍋におつゆが入っています。飲んでみてください。

始めにアンケート用紙配らせていただきました。どうぞご協力お願いいたします。ご意見とご感想をご自由にお書きいただいて、外のテーブルの上にご置きますアンケート回収箱に入れてください。よろしく願いいたします。



第四回 実演 『トルヂヤンチ——一歳を迎えた祝宴』

講 師

趙^{チョウ}

亨植^{ヒョウシキ}氏

コーディネーター

仲尾

宏氏

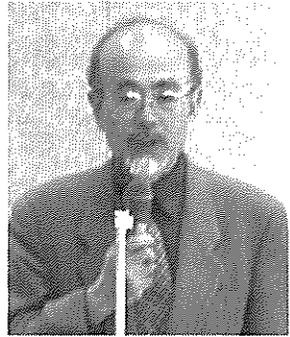
(京都造形芸術大学客員教授)

二〇〇三年三月八日実施

●実演 「トルヂヤンチー一歳を迎えた祝宴」

司会 それでは「チエサとチャンチ」二回目になりますが、今日は「トルヂヤンチー一歳を迎えた祝宴」ということで一歳の誕生日のイベントを始めさせていただきますと思います。先回もご説明したんですけれど、このイベントはこれで十回目になります。「チョコグリときもの」という「在日」の諸問題についてあらゆる角度からお話をしていただくフォーラムの形です。と取り組んでまいりました。その十回目を迎えまして、今回このようなイベントをやり、また多くの方々にご覧いただきたいという趣旨でございます。その「チョコグリときもの」のコーディネーターをずっとお願いしております京都造形芸術大学の仲尾宏教授にまずお手元の資料の「韓国・朝鮮と日本の通過儀礼」ということでお話をさせていただきます。仲尾先生、よろしくお願いたします。





仲尾 宏氏

仲尾 皆さん、こんにちば。今日はまだ春とはいえ寒い日ですが、前回と違ってお祝いの行事でございます。人生にはいろんな節目節目がありまして、どの民族でもどの国でもいろんな行事をやっております。今日は前回に引き続き「在日」の趙さんのお宅でのトルチャンチ——一歳を超えた誕生日の儀礼をやっていただきます。そこで私が、ここには日本の方も「在日」の方もおられるわけですが、この二つの民族の通過儀礼、節目節目の行事の比較ということを表のような形にしてまいりましたので、先だつてそれを少し説明させていただきます。どちらも共通してるのは、子どもが生まれます。百日過ぎるとちよつと目鼻立ちがはっきりしてきて、すくすく成長するんだということが親としても実感される頃です。その百日の祝い、韓国・朝鮮では百日（ベギル）というお祝いがあるようであります。餅やきび団子を出して、その子の長寿と病気にかからないように清潔であること、命の尊さ、新生を祝う。こういうことが行われているようです。日本の場合も調べてみますと、宮参りというものを百日目に行っているとところがかなりあります。古くは百の古い言葉である「もも」をとりまして「ももか」と呼んでおりました。万葉集にも「ももかしもいかぬまつらじ」と「百日も経つてないのでまだお祝いしてない」と、こんな意味を込めた歌も出てきております。その次は初誕生日です。一歳の誕生日であります。これは両方とも共通しているようですが、韓国・朝鮮では今日具体的に行事をしますので中身は省略いたしますが、日本も民俗学関係の事典を見てみますと、「選び取り」という行事をしている地方もあつたといえます。「選び取り」というのはまさにトルチャンチの中の主な行事になるわけですが、子どもの将来この子は何に向いてるか、どんなことを希望してるのかということを親なりに気になることですから、それを判断する。お祝いを兼ねて判断する。そういうことが共通してあつ

たようであります。京都では嵐山に渡月橋を西へ渡ったところに嵐山の虚空蔵菩薩を祀ったお寺があります。あそこへ「十三参り」といつてお詣りする習慣があります。私も子どもの頃連れて行かれた記憶がありますが、虚空蔵菩薩というのは智慧の神さまでです。非常に記憶力が良いわけで。弘法大師空海が自分の念持佛と指定されていたのもこの虚空蔵菩薩であって、その結果弘法大師空海はあのような優れた学者にもなられたわけであります。そういうことで「十三参り」という習慣がありますが、虚空蔵菩薩のある京都あるいは虚空蔵菩薩を祀ってお寺の行事としてあるのであります。その次の共通行事は「元服」です。日本では「元服」と申しておりました。これは主として武士身分であります。町人でも苗字帯刀を許された人々が子どもが十二歳から十五歳の間、これもまちまちで必ずしも一定はしてないんですが、お祝いの行事を男子にいたします。武家とか苗字帯刀を許された町人の場合は、帯刀、刀を授ける。まげを結う。ちよんまげです。名前が新たに付けられます。それまでは幼名、子どもの名前でした。例えば徳川家康だったら、幼名は竹千代あるいは竹千代丸と言ったんです。元服を過ぎますと、家康という名を付けてもらいます。その名付け親は烏帽子親ともいいます。烏帽子を初めて被せるといふ所もあります。そこから烏帽子親が名前を付けます。往々にして烏帽子親の一字の名前をもらうということがあつたようです。こういうことが日本の武士を中心とした元服でありましたが、これは当然近代になってから廃止されます。身分制度がなくなると同時に元服がなくなります。韓国・朝鮮の場合は男子が二十歳、女子が十五歳ぐらいのときに冠礼(カンレイ)といまして、男子は冠を被る。女子はかんざしを付ける。こういう行事があつたようです。ただしこれも両班階層といまして、いわゆるお金持ち、両班階層というのは日本でいうと貴族にあたるわけですが、そういつた人が中心で町人の場合はあまりそれは現実ではありませんでした。ちなみに朝鮮王朝時代の身分制度を申しておきますと、このように四つに分かれております。両班というのは必ずしも世襲ではないんです。大変難しい公

務員試験を受ける。受けて合格した者が両班になっているんですから、必ずしも代々、途中でお父さんから子どもに受け継がれるものではないんですけど、そういうった難しい試験を受けるために子どもを教育するというのはどうしてもお金が必要です。そういう階層は限られていくんです。今でも国立大学のトップクラスの大学に難しい試験を受けて入るといって大体限られますね、日本でも。そういうことであつたようです。それから中人という階層がいます。これは両班の一部とも言われるんですが、両班の中で正夫人から生まれなかつた子どもたちです。それは中人という扱いになつて、将来の出世もある程度限定されるということになります。それから常民、これは町人や農民です。日本でいう町民や農民は一括して常民と言われてました。日本でも農民と町人とは身分は違いますが、そんなに厳しい差はなかつたんです。例えば村の鍛冶屋という歌があります。あの鍛冶屋さんは何か。農村にいるけれど職人さんであつたわけです。町人が大変お金を儲けて、学者になつたり、武士の株を買つて旗本になるとか、あるいは農民でもそういうことをやつてゐる人がおります。それほど日本でも身分制度は言われるほど土農工商といいますが厳密ではなかつたので、同じように朝鮮王朝でも常民という人たちは農民・町人の区別はありませんでした。それから賤民ですね。日本にも賤民身分の人は厳然としてありましたし、朝鮮王朝のもとでも七種類の賤民ががぞえられていました。これもいづれも韓国・朝鮮の場合も近代になると自然に廃止されていきます。今韓国では成人の日は五月十八日と定められておりますが、これはなんで五月十八日になつたかちよつとわかりません。しかもこれはお休みじゃないです。日本の場合は成人の日は一月十五日でしたが、確か一昨年から一月の第二月曜日になりました。一月十五日が成人の日となつたのは戦後のことでありまして、戦前は成人の日は元々ありませんでした。結局元服や冠服がなくなるので、それに代えてなんらかの成人のお祝いをしようじゃないかという気運でもつてこういう成人の日が定められたので、それほど古い伝統ではありません。日本の場合一月十五日と定められていた

のは、戦前はその日は天皇の周辺でお客を招いた宮中での宴会の日、新年宴会の日でした。それが民間にも祝ってもらおうということで、一月十五日を成人の日と言い換えるようになったんです。日本の場合には他でもそうですが、ほとんどの祝日が皆天皇制に結びつけられておりました。今もその残滓はあります。次に結婚です。結婚についてはもちろん人生の中で最も喜ばしい華やかな行事として、どの民族でも祝っておりますが、韓国・朝鮮の場合は結婚についての制限はかなり昔も今も厳しいようです。もとは同本同姓の結婚は禁止されておりました。同本というのは：お父さんの先祖が同じ出身地であつて、しかも同じ姓、趙とか金とかであれば結婚はできないということになっておりました。現在韓国の法律上は八親等内は禁止です。これは日本とくらべるとまだかなり厳しいですね。日本は民法上は直系血族または三親等内の傍系血族の間は禁止ですが、ただし養子と養子の傍系血族との間はこの限りではないということ、基本的には三親等内ですからかなりゆるいんです。このように血統の近い間で結婚するということ、あるいは日本の場合だつたらかつてお兄さん夫婦がいて、お兄さんが早く亡くなつたとするとお兄さんのお嫁さんとお兄さんの弟が再婚するということもあつたんです。そういうことは禽獣の類であると言つて、韓国・朝鮮の文化から見れば非常に野蛮だと見られていたようです。その次は還暦です。還暦は十干十二支で、子牛寅卯で始まる……この暦が一巡することになります。例えば子歳のときに生まれた人は六十歳のときもういっぺん子歳がやってきましたから、それでお祝いをする。暦が一巡で還暦です。還と甲をくつつけて、韓国・朝鮮では還甲日という呼び名で呼んでおります。日本の場合は今満年齢ですから満六十歳でやります。日本の場合は昔は赤いちゃんちゃんこを着せるという習慣があつたんですが、私は幸いにしてそれを着せられませんでした。お祝いだけでした。書物で調べますと、韓国・朝鮮では還暦のときは本人の両親が健在の場合は本人が色とりどりの幼児のような服を着る。こういうような習慣があつたようです。両親が生きておられたら、両親にまず献杯をする。いろんなお

飾りがあつて祝宴をするということになつております。それ以降の儀礼ですが、日本では最近非常に長命になつたということもあつてお祝いをたくさんします。七十になつたら古稀。七十七になつたら喜寿。八十になつたら傘寿、八十八になつたら米寿、九十になつたら卒寿、百になつたら白寿と、こんなお祝いをやるようになってきました。これはいづれも字の語呂合わせなんです。例えば喜寿は七十七、傘寿は八十、米寿は八十八。字合わせで特別の意味はありません。私が非常に今気がかりなのは、七十歳の古稀ですが、これは古来稀という意味で古稀の祝いとなつておりました。七十まで生きるのは大変珍しい人である、長命であると。昔はそうでした。これは中国の杜甫という詩人が「人生七十、古来稀なり」という有名な詩を詠んでるんです。ところが最近ワープロとか辞書で見ると、その古稀の稀を希望の希に変えています。これは実態として、七十歳を超えられる人はもう珍しくなくなつたということもあるのに変えてるんですが、そうすると元々中国の詩人が詩に詠んだその意味が消えてしまつてるんです。だからご自分の還暦でも、心ならずも古来稀じゃなくて、これからまだ希望を持つてるといふ意味でこの古希に変えられてる方があるようです。またホテルなんかでも古来稀の稀という字ではパーティーをさせてくれないという所もあります。そういう訳で、せつかくの中国の詩人の意味が消されるということとは残念であります。韓国朝鮮でも古稀その他はあるようですが、まだ日本のようにこの字合わせでこういうことをやってるところまでは聞いておりません。こういうことが人生の通過儀礼としてありますので、今日は最初の記念すべきお祝いの一つであるトルチャンチを趙さんのご説明を聞いた上で体験させていただくことにします。それでは趙さんにバトンタッチいたします。よろしくお願いいたします。

韓国・朝鮮と日本の通過儀礼

韓国・朝鮮

- 百日祝い (ペギル)
餅 きび団子 (長寿・清潔・神聖)
- 初誕生祝 (トルチャンチ)
 - ① 長寿福祿祈願
 - ② 晴れ着
 - ③ 将来占い
 - ④ 祝い料理と贈り物
- 冠礼 (男子20歳 女子15歳くらい)
男子 冠 女子 簪
(ただし両班など富裕階層が中心)
(成人の日-5.18)
- 婚礼
もとは同本同姓の結婚は禁止。
現在、法律上は8親等内は禁止。
- 還曆 (華甲) (ホワンカブ)
本人の両親が健在の場合は本人が色とりどりの幼児のような服を着る。
飾り物、献杯 (両親に)、祝宴
- それ以降～
古希

日本

- ももか→宮詣り
「ももかしも行かぬまつらじ..」(万葉集)
- 初誕生日
「えらびとり」のある地方もあった。
- 七・五・三
- 十三詣り。(嵐山虚空蔵菩薩)
- 元服 (十二～十五歳)
男子 帯刀 結髪 (鬘)
(武士身分など)
烏帽子親が名をつける。
(成人の日=1月第二月曜日)
- 結婚
民法上は直系血族または三親等内の傍系血族の間では禁止。ただし養子と養子の傍系血族との間はこの限りではない。
- 還曆 (満六十歳)
赤い「ちゃんちゃんこ」を着る風習があった。
祝宴
- それ以降～
古稀 (希) 喜寿 傘寿 米寿 卒寿
白寿



趙 亨植氏

趙亨植(チヨウ・ヒョンシク) 皆さん、こんにちは。実は前もってお断りしなければいかんですが、先だって行いましたチエサに関しては、毎年命日になりますとくり返してしますので、ある程度身についておりましたが、このトルヂヤンチーというのは一生に一度切りの、それも赤ちゃんの祝い事ですので子どもが五人おったら五回経験するということなんですが。なかなかこういった準備はほとんど母親や身内の女の人が準備をする。男の我々はそれが済んで、一杯飲んだり食べたりするのはいつでも手伝うというのが習慣になっておりますので、なかなか記憶がよみがえりませんので、今日はある程度虎の巻を準備しまして、それにしながら説明させていただきます。いわゆるトルヂヤンチというのは生まれてちょうど一年目の宴。先程仲尾先生がおっしゃいましたように、百日の宴、ペギルヂヤンチもありますけど、やはりこのトルヂヤンチというのは赤ちゃんに対しては最大のイベントじゃないかと韓国では位置づけております。まずご覧になってわかるように、普通は丸いお膳で並べるようになってるんです。果物なんかはその季節の果物。この頃温室ものとかいろいろあつて季節感がないんですが。昔の場合は五月生まれでしたら五月中旬の果物。十月生まれでしたら十月の季節の果物。そういった四季の果物と必要なものは種の多い果物、ナツメ、栗、柿、梨。このあいだ法事のときに申し上げましたような、そういったものは必要です。なぜか種は子孫繁栄の元であるということでも好まれるように聞いております。法事と共になぜか桃はこういう膳には置かないとされています。これが伝統になつてるんですが、いろいろ読んでみると、どっかに載っていた。これは神とか仏とかいうのかわらないが、疫病というのか、子どもに取り憑くのを嫌うらしいです。ですからそういったものは置かないようにということらしいです。その意味はよくわからないんですが。私もなぜ桃は置かない

いんだらうと昔から思つてたんですが、そういうふう書いておりました。赤ちゃんを座らせる席に今日は座布団を置いてありますが、本当はサラシ二反を積み重ねて、座布団の代わりにしたのか、それが伝統なのか、サラシ二反置きます。その上にすわつてもらうというのが伝統の行事の順番です。赤ちゃんには、事前に韓国では三、四日前にこういうふうにして記念撮影を終えてしまう。そうしないと、当日になるとお客さんが来たりなんかして、赤ちゃんが非常に疲れて写真が撮れないというので、伝統的に三、四日前に写真を撮つてしまふんだというふうに聞いております。最近韓国では結婚式場のような宴会場を借りて、偽物をおいて写真を撮つて終える場合があります。こういうものは偽物でよくありますね食堂なんか。実際に並べると大変な金額がかかります。そういうものは偽物でよくあります。うふうに聞いております。ご覧になつてわかるように、服装は男子は濃い藍色、紫に近い服装です。女の赤ちゃんはできるだけ赤に近い桃色というようなセットンチョゴリというように。このような形でおきまして、行事の最大のポイントと申しますと、赤ちゃんの前に男の子ですと、昔でしたら弓矢とか筆、硯、さしずめ算盤、今でいうと電卓になるんですか、そういうものをいろいろ並べて、少し席を離れて、「さあ、欲しいものを取りなさい」と、赤ちゃんが這つていつてつかむんです。二回までそれを取らせる。トルチャビというんです。二回までつかんだものは、あるいは弓矢を取ると男の子は将来武官になるとか、筆や硯を取るとこの人は将来学者になるんじゃないかと。親はその方向づけで教育をしていった。女の子でしたら、はさみとか物差しとか糸とか置いて。男の子も糸も置きますが。糸なんかをつかむと、長いものですから長生きをするんじゃないかと。はさみを女の子が取ると、手芸に秀でるんじゃないか、将来家庭的な人になるんじゃないかと。このように大人の方が勝手な理由を付けて将来を占うわけです。人によっては、そういう意味において教育をしていったというふうにも聞いております。特にお膳の上で大切なものは、先程申しましたように季節の果物とお餅です。このお餅が非常に意味が

あるということ、今日は種類が少ないんですが。かなりのお餅の種類があるわけです。きな粉でまぶしたキビ団子のような、スズギョンドンというんですか。ムジゲ、虹のような餅です。ペクソルギ、粳米で作った切り餅のような餅と、中に餡を入れないやつです。そういったお餅は何十種類とあるので、私も自分自身食べたこともないようなお餅の種類が出てるんでちよつと自信がないんですが。インジョルミとか、きな粉をまぶした餡なしの切り餅のような餅がある。そういったものを必ず並べておく。これはどういうものを意味するかというと、すべて子どもの将来あるいは長生き、無病息災、そういった意味があるように聞いております。餅もただのべつまくなし置くんじゃないで、意味のある餅を並べるというのが一つの伝統でございます。これは宴を開いたときに、親戚はもちろんなんですが、隣近所の知り合いの人に少しずつでも器に詰めて、食べ物であろうが何だろうが皆配って召し上がってもらうわけです。それをいただいた人はその器を洗わずに、そこへ糸とかお金を少しでもお米を少しでも入れてそのまま返すのが礼儀となっております。きれいに洗って「ありがとうございました」では失礼になるらしいです。洗わずにそのままお金の多少なりお米を多少、糸であろうが縁起物を入れてお返しする。これが一つの習慣になっていきます。ちよつと実験してみましようか。少し席を離して、欲しいものを取りなさいと。一歳ですので普通は這って行くんです。

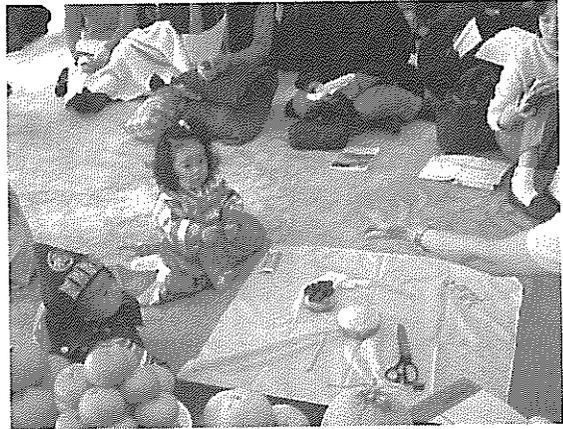


司会 もう一度整理して説明しますと、男の子と女の子で置くものが少し違ってくるんですが、今日は元々女の子の方でしようと思っておりましたので女の子用で揃えました。男の子のジン君は実は飛び入り参加です。女の子の場合に並べるものは、こういつたノートですね。あるいは千字文（チョンヂヤムン）と違って中身は漢字のよみを覚えるための本なんですけど。たとえば「曲」という字がありますね。曲がる「曲」という韓国語、朝鮮語よみで覚えていく、一つ一つの漢字の覚え方の本になっています。鉛筆ですね。現代風なので鉛筆にしたんですが、昔は筆あるいは硯のようなものを置いていたということですよ。こういったノート、本をつかむと文筆家になるだろうと。そういうふうな占いの結果になるわけです。あるいはこれをご覧になったことあるでしょうか。ナツメという果物を干したものです。あるいはなまの栗を置いたりもします。これをつかむと子沢山になるだろうと。子孫繁栄の意味があるということです。ハサミや定規、木綿の糸、こういったものをつかむと手芸が達者になる手先が器用になる、そういうふうな意味があるということです。お金も置いてあるんですけど、お金を取つたらすぐ直接的ですがお金持ちになるだろう。お米もそういう意味があるというふうに聞いています。男の子の場合、先程講師の趙さんがおっしゃいましたが、弓のおもちゃを置いて、それをつかんだら武道家になるだろうというふうなお話があると聞いております。それではジン君からお願いしたいと思います。うまいこと二つつかんでくれたら、ありがたいんですけども。



趙 ナツメの場合は子孫
繁栄ですね。お米の場合は長
生きするとか。

司会 意味を兼ねてるも
のがあって、手芸と申し上げ
ましたが、うどん、麺類、糸
のような長いものをつかむと
長寿の意味があります。ジン
君こっちこっち。お母さん、
こっちに促してください。一
歳になつたばかりというこ
とで、なかなか親の思う通り
に動いてくれないものです。です
ので皆子ども手の届きやすい所
に親の願いを込めて、お金をそば
に置いてお金持ちになるだろうと
結果を誘導したりしたということ
です。咲良（さら）ちゃんも一緒
に来て、どっちが先につかむかや
ってみましょうか。どっちも来
ないですね。はい、本をつかみ
ましたね。彼は文筆家。咲良ちゃん
はお金をつかんだのでお金持ち
になるでしょう。もう一個つか
んでみようか。ナツメを手に取り
ました。子沢山に恵まれるでし
ょう。食べてますね。ジン君、
もう一個。ジン君、これ何？



趨 こういった遊びといいますが、こういったのをトルヂャビと申します。

司会 ジン君は一つだけしか取ってくれないみたいで、必ず文章家、小説家、学者になるだろうということだと思えます。料理の方なんですけれども補足として説明いたしますと、先程講師の方からいくつかお餅の種類についてご説明いただきました。順番に申し上げます。重たいですが、これは餅米で作ったお餅でインジョルミというんですけど、日本語に訳すと切り餅とすることにになります。今日はここに三種類用意してありまして、下は白いお餅、すべて甘いんですけど、白いお餅にきな粉をまぶしてあって、二段目のところはよもぎのお餅にきな粉がまぶしてある。その次は白いのにあずきが混ざってます。これはモチモチした感触の餅米のお餅なので、日本でよく食べるお餅に似たようなものです。これを置く理由というのは、これは粘っこいからです。粘り強く根性のある子どもに育ってほしいというふうな意味が込められるということなんです。これは松餅（ソンピョン）といって、「松」に「餅」と書くんですけど、今回用意したのは三種類。中の餡が違っております。中が小豆餡と芋餡と胡麻餡のものを用意しました。書物を見ておりますと二種類あるということです。中に餡があるソンピョンと、中をわざと空っぽにしたソンピョンがあると、中を詰まったものは身がぎっしりして、この形はちよつと楕円形なんですけれども、元々は半月形でブクツとふくれたような形をしているものもあるんです。



その形から中に詰まっている方はぎっしりと智慧が詰まって頭が良くなるようにと。あとお金持ち、お金に困らないようにという意味があつて、餡が詰まってない空っぽの方のソンピョンは心の広い子どもになるようにと。そういうふうな祈りが込められているということです。

趙 ソンピョン、いわゆる日本の柏餅と理解していただいたら結構です。

司会 一番大きいものは持ち上げられないんですけど、今日は七段あります。ムジゲトクとって「虹のお餅」というんです。そのままで虹色のお餅なんですけれど、一つ一つ中身が違ふと思います。後で試食していただきますのでお楽しみにしてください。こちらもご飯のように見えるんですが、これも餅米で作つてあるんです。「菓」に「飯」と書いてヤクパブというんですけど、これも餅の一種です。あとで試食していただけますけれど、中にシナモンとか入つてまして、栗、レーズン、ナツメなどの葉味が入つている、そういうふうな餅米になります。それから果物は、種の多いものを置くようにしているということです。それは他の料理にも関わってくるんですけど、子孫繁栄という願いが込められているということです。これが基本的な料理で、家族によってケーキを置いたりだとか、お子さんの好きなものを置いたりだとか、そういうふうなところは家庭、家庭で違つてくると思うんですけど。基本的にこういうふうな親の願いが込められた料理というのが基本になつていふことなんです。補足させていただきます。

趙 最近では韓国では誕生日のケーキを置くような家庭も多いらしいんですが、古来我々が日本でやつてるのはケーキを置いた記憶はないですね。ほとんどお餅でした。こういった文章を見ても、お餅

と果物が主流になっております。出産のときも一緒なんです、お母さん、姑さんがおられれば姑さんがご飯とわかめの汁を作つて、まず最初にお母さんと姑さんが食べる。それから皆さんに配るといのが伝統と書いてあります。産婦はわかめ汁をたくさん飲んだ方がいいとは聞いておりますが。その姑さんはわかりませんね。どんな場合でもまず先祖から、先祖に感謝するという意味でまず先祖の霊を慰めて、それからこういう行事を始める。もし質問が何かありましたら、経験上、またここに書いてある範囲内でお答えさせていただきますが。

司会 どうぞ。

質問者 果物の数は奇数、偶数、関係ありますか？

趙 これは奇数です。

質問者 これも地方によって違いがありますか？

趙 これも法事と一緒に、大体こういうものを置くんだということは一緒なんです。地方や何かによって若干料理が変わるんじゃないかと。お餅の種類とかはほとんど一緒らしいです。ただ作る方法が若干違う場合があります。

司会 他ございませんでしょうか。

質問者 トルヂヤビをする時、下に布を敷かないといけないのですか？

趙 普通は畳とかそういったところでやりますので、あまり敷きません。今敷かしてもらいましたが、特に意味があるんじゃないです。

質問者 果物とか物の並べ方とか置く場所とかはありますか。

趙 本来は法事の場合は決まってるんですが、トルヂヤンチとかおめでたい席の場合は私も自信がないんですが。元々丸いお膳が主流なんです。だからそこに適当に並べるといっているので、それが前とか後ろとかいうのはちよつと定かじゃないです。写真も二、三あるんですがバラバラなんで特にこれはないんじゃないかと思うんです。儀式的なことは今のトルヂヤビですね。これを前に並べて、赤ちゃんに取ってもらうと。それが一大のイベントですね。あとはその赤ちゃんがよじ登ってつまもうが取ろうがこれは関係ないですから。

質問者 屏風の絵には意味があるのですか？

趙 韓国では法事の場合はこの裏にあたる文字を書いた屏風を必ず並べて、おめでたい席には表になるのか裏になるのかこういうものをつるといのが伝統で。なぜするかはわかりませんが、必ず付いてまわります、どんな場合でも。特にこの絵には意味はないです。

質問者 お膳の前で儀式的なことはしないのですか？

趙 ないですね。トルヂャビが大イベントです。

司会 他ありますか。私が今手に持っているのは女の子の衣装の一部なんですけど、咲良ちゃんが帽子が嫌いだということとかぶせたらすぐ脱ぎ捨ててしまっただけなんです。これが女の子の帽子、さつきかぶつてるとご覧いただけたかもしれないんですけど。もう一度だけかぶってみましょうか。いやだということですよ。これはとても可愛いんですけど、足袋ですね。つま先に刺繍が入っています。これもさつきはいてもらってたんですが、嫌やと言ってすぐ脱いでしまうので、今は裸足になっています。これです。ここにわかめのおつゆ置いてあるんですけれども、先程お母さんと姑さんが口にするものだというふうに説明がありました。トルヂャランチの誕生日の日には儀式的なものというのには確かにないんですけれども、その前にはあるんです。まず生まれてから三日、そして七日、そういうときにわかめのおつゆと白いご飯をお供えて、生まれたことに対して感謝をするということです。その感謝する相手というのが産神(サンシン)ハルモニといって、妊婦さんと胎児を守ってくれる神さまということです。赤ちゃんで生まれたときに蒙古斑みたいにお尻に青いあざが付きます。それは産神ハルモニが「早くこの世に出ておいで」ということでお尻を叩いてくれた、そのあとだという話もあります。またこのわかめのおつゆですが、ダシはいろんなもので取るんです。今日召し上がっていただけるのはカキなんですけど、豚肉でダシを取ったりとか、白身の魚、鯛で取ってもおいしいですね。このわかめのおつゆはトルヂャランチの一歳の誕生日だけじゃなくて、お祝い事、誕生日には欠かせないものの一つです。誕生以後毎年毎年朝鮮半島をルーツに持つ家庭ではよくわかめのおつゆが出てきます。これをお母さんが

飲むといいというのは、母乳がよく出るといふこともありますし、母体の早い回復が望まれるということで、産んですぐのお母さんはわかめのおつゆをたくさん飲まれるということですね。

趙 赤ちゃんの腰に巾着がぶら下がってるんですけど、これに銅銭とか糸とか入れてやるとお金持ちになるとか長生きするとか、そういういわれもあるそうです。

司会 特にお餅を招待客の皆さまにふるまうということなんですけれど、お返しでお餅を盛った器を洗わないで何かを返すというお話があったと思いますが、お金を入れたり、木綿の糸を入れたり、最近の韓国の話なんですけど、皆でお金を持ち寄って金の指輪をあげるといふことですね。その金の指輪というのは赤ちゃんにはめるためのものじゃなくて、その金の価値でお子さんのためになるようなものに使ってほしいと。そういうふうな意味で金の指輪が贈られるということなんです。また韓国の話になってしまいうんですけど、最近はどういうふうな感じで家でやる場所も少なくなってきた、特に裕福な家庭は宴会場を借りて盛大にされるということなんです。このような屏風を使う所もあるそうですが、風船のバルーンアートというんでしょうか、風船で門を作ったりしてとても西洋化されてるところも多いと聞いております。招待客は親戚はもちろんですけど、近所の人、宴会場で



やったりすると会社関係の人まで何百人という規模でやるというふう聞いてます。今回はなかなかお餅を揃えることが日本なので難しい中、鶴橋まで走ってもらって一生懸命揃えました。この他にいろいろお餅というのは朝鮮半島の伝統風習にとっても密接した関係を持っているんです。そういうふうな内容をご覧いただくのと、トルヂャンチに欠かせないお餅の作り方も少々出てまいります。そういったビデオを、少し古いので見にくいところもあると思うんですが、少しご覧いただこうと思います。

趙 このトルヂャンチは一般的なんですが、一部地方では特にこういうのをあえてやらないというところもあります。本当に家系の中に男の子が一人だけできた場合。非常に貴重な子どもであるから、他人様の手に掛かって汚れたら具合が悪いということであえて古い服を着せて、こういうものは無視して、人様から離すという風習の所も一部あるそうです。これは少ないんですが。逆説ですね。

トルヂャンチのご馳走

餅の種類(ソンピョン・団子・インチョルミ)

赤いスス団子(ススパタンジ)……疫病なしに丈夫に育つよう。

厄よけ(赤い色を悪鬼が嫌う)

ベッソルギ……………長寿、純粹で神聖で清潔な精神

ソンピョン(松餅)

中身のない松餅 : 子が心の広い人となるように。

中身の詰まった松餅 : 頭の中に知識を詰める。利口に育つように。また、半月形をして中がぎっしり詰まっている形状から、一生食べ物に困らないようにという願いも込められている。

インチョルミ……………餅の粘り気のように、根性ある強い人間に育つよう

七彩餅(ムジゲトツ)……………祈願成就

なつめと果物(種の多いもの)……………子孫繁栄

トルチャビ

1つ目と2つ目につかんだ物で性格・才能・寿命・財福など、将来を占う。

木綿糸・赤と青の絹糸・茹で麵……………長寿

ナツメ・栗……………子孫繁栄

米・お金……………財福(商人)、金持ち

定規・はさみなど裁縫道具……………手芸(女の子のみ)

包丁……………コック

鉛筆・ノート・千字文・本・筆・すずり・紙……………文章家、学者

弓矢……………武士(男の子のみ)

(ビデオ)

司会 ありがとうございます。これは私の感想ですが、ビデオの中に還暦祝いのシーンがありましたね。お祝いの料理が高さをもたせて並べられていました。これを見て思い出したのが、昔昭和天皇が崩御して大喪の礼が行われたとき、テレビで観た映像でお供物が同じようにうずたかく盛りたてたんですね。そういうところで天皇家と朝鮮半島のゆかりというのを感じました。次にいよいよ食べていただきたいんですが、準備を兼ねまして少し休憩を取りたいと思います。十分程度休憩を取らせていただきます。試食の準備ができましたら、またご案内申し上げます。全体的なプログラムは四時には終わる予定でありますので、どうぞ最後までお付き合いください。

(休憩)

仲尾 皆さん、おいしいお祝いの料理ですから、食べながら、聞いて下さい。前回のチェサ、そして今回とお越しになった方もおられると思いますが、いろいろと司会の方が言っておられますが、実演・試食が入ったのは、この2回だけです。

10年前から、「チヨゴリときもの」と言うフォーラムを国際交流会館を舞台に、京都市の外郭団体である京都市国際交流協会が進めてこられました。この催しが、なぜ出来るようになったかと申しますと、京都市は、少し前から「在日」の問題を考えなければならぬという機運が少しずつありました。

大阪・川崎のように「在日」の方の人権をめぐる運動あるいは、教育をめぐる運動が、率直に言って盛んでは有りませんでした。けれども、京都市内をとりましても外国籍市民の方が、約4万人居られた

わけですが、その80%、8割の方が韓国・朝鮮人であるということがはっきりしております。その人たちに對して京都市がどのような行政をしていたか。先程申しましたように、大阪・神奈川に比べますと、はつきり申し上げて立ち遅れています。教育・福祉・生活保証あらゆる面であんな問題がありますが、非常に立ち遅れております。やはり同じ京都市民であり、京都市の住民であると言うことから考えれば放っておくと言うことは、行政の立ち遅れ、これは、許されないということから、いろいろな事業をしなければならぬと言う機運が高まってきた中で、このフォーラムをやるうではないかと言う話がありました。それで私は、そのことを受けて今日に至った訳です。考えてみますと「在日」の方は、顔かたちはほとんど日本人と同じです。それから、2世・3世の方になると生活習慣、言葉もほとんど日本人と同じになってくる。「在日」の方の姿が見えてこないのですね、見えないから、ほったらかしである。見えないから、差別や偏見があっても日本人は気が付かない。なんとか、「在日」の方が見えるようなことをまずしていくことが必要である。それが、京都市民に対する啓発であり、京都市の行政を改めていく一つのポイントではないかと、このように考えまして、主役として「在日」の方が登場していただく、あるいは、本音を語っていただく、それを中心としたフォーラムにすべきではないかと思ひまして、このフォーラムにこぎつけた訳です。

10年前といいますが、今日も年表をお配りしたんですが、今、食べておられますから後から見ただきますといいますが、一九九三年、この年初めて、「在日」の方を初めとして定住外国人の指紋押捺が廃止されました。それまでは、「在日」であろうと、短期滞在者であろうと、全て、指紋を押すことが義務の一つとして法律に書かれていました。これは、ひどい人権侵害があったわけですが、ようやく、裁判闘争を含めましてようやくこの年に、外国人登録法の改正が施行されました定住者の指紋押捺が廃止され、現行の、署名・写真・家族登録に変わりました。それでも、いろいろな問題が含まれております。

れども、ようやく、日本の社会の中で問題になったというのであります。それから、2番目は、「在日」への入居差別に対して、大阪地裁が原告勝訴「在日」勝訴の判決を下しました。入居に対しては、大家さん・不動産屋さんが住民票の提示を求めますね、ところが、外国籍の人の場合、住民票が取れません。そこで、外国人登録の登録済証を提出することになります。それを見たときに顔色が変わって、やっぱりだめです、と、断られる例がありました。実は今も続いているんです。でも、司法の場で、初めて間違っていると判決が出たんです。戦後、憲法が出来て、基本的人権が日本国民に保証されることになってから、45年経っています。しかし、それが始めて、地裁で勝訴と言う判決が出ました。大阪府岸和田市で全国をきって、地方参政権の付与を要請する決議がされました。その後、全国のおよそ千三百の自治体、京都府・京都市を含めて決議されております。そして、国会で審議中ですが、いろんな党利・党略が絡まり、古い考えの人もあって未だに継続審議のままで、行方も定かではありません。けれども、このように請願・司法・行政の場で、政治の場で在日韓国・朝鮮人の方の人権の問題を真剣に考えようと動きがはつきりした時代であったと言えます。それから後、いろんな動きがありました。とりわけ、京都市について言いますと、一九九七年に、国際化推進大綱が作成されました。この国際化というのは、外に向けて国際交流をやるだけでなく、明らかに不足しているものがある、それは何かと言うと、「内なる国際化」京都市の中ではたして国際化が出来ているかどうか、それを点検して間違いを正し、出来るところから取り組もうと、これが国際化推進大綱であります。それまでに、この国際交流会館が出来ておりました。それから、国際交流協会も出来ておりました。様々な姉妹都市との交流もありました。けれども内なる国際化、京都市の中においての国際化。それは取りも直さず「在日」の方々の問題に正面から目を向けることですが、それは非常に遅れておったわけです。それを国際化推進大綱の中ではきちんと見定めなければならないというように規定をして、この大綱が策定されました。このときに私もこ

の大綱の策定に審議会の委員として参画させていただきましたけれども、初めてこのような問題を建物や海外との交流だけではなくて、人の問題として、「在日」の問題として行政が、あるいは市民が考えなければいけないということになったわけであります。そして一九九八年、翌年ですが、京都市外国籍市民懇話会が市長の私的諮問機関として発足いたしました。現在も続いております。これは市長任命の五人の日本人と民族別、地域別、人口別に割り振りしまして、七名の公募による外国籍市民の方が委員として参画していただいております。初めて「在日」の方が行政の場で顔を表し、公の場で発言をするという機会を得たわけです。地方参政権も大事です。投票権、一人一票の原則も大事ですが、同時に行政に対して市長に対して直接意見を言える場ができたわけです。これもすでに大阪府・市、神奈川県・横浜市、川崎市、東京都などで先鞭がありましたけれども、京都市でこれができたことよって、その後他の政令指定都市や町で動きが始まり増えつつあります。それらの諸都市での緩やかなネットワークも始まりつつあります。その中で具体的な成果がいろいろ出てまいりました。例えば九九年には京都市の高齢者外国籍市民福祉給付金が月額一万円ではありますが給付されることになりました。これは聞いたことがないとおっしゃる方も多いと思いますが、実は「在日」の現在七十五歳以上のお年寄りには全くの無年金なんです。無年金で七十五歳を超えるところになるか。生活保護に頼るか、子どもの世話になるか。そのどちらかしか方法がありません。なぜ日本人に無年金者がいなくて、外国籍者、「在日」だけにあるのか。これは国民年金法を作ったときに国籍条項を設けて、国民年金の加入資格は日本国籍を持つ者に限るということにしたために、このような状況になったわけであります。そこで京都市は放っておけないということから、月額一万円の支給を始めました。他の政令指定都市や県でも支給が始まっております。この一万円というのは年間にすると十二万円ですから、孫の小遣いにしかならないような金額なんです。けれどもないよりはいいと言わねばならないでしょう。もっと一万六千円、二万

円という大きい金額を出しておられる都市もあります。ぜひともこの金額は増やしていただきたいと思
います。七十五歳を超えておられる在日一世の方ですから、本当に時間がないですね。これからそうい
う方が増えられるわけではない。二世以下の方はその後は国籍条項が撤廃されて、部分的にも年金
が支給されるという世代になっております。一世だけの特有の問題ということができましよう。あるい
は二世でも七十五歳を超えておられる方がいればもちろんあるわけですけど。そういった人々の問題に
ようやく手が着いたというわけです。国籍条項と申しますと、二〇〇一年京都市で一般職、技術職の公
務員について外国籍者の受験を認めるということになりました。元々地方公務員法には国籍条項とい
うのはないんです。国籍如何に関わらず採用試験を受けて、きちんとした試験の点数を取れば採用とい
うことになるわけです。ところが自治省が横槍を入れて、「当然の法理として、公務員たるものは日本国籍
を有するものとする。」という通達を出したんです。法律で何も制限がないのに通達で制限する。こうい
う逆さまの行政を自治省はやったわけです。後に白川さんという人が自治大臣のときにそのことにつ
いては地方自治体で個々に判断してくれたらいいと声明してまして、京都市も遅ればせながらですが二
〇〇一年に一般職、技術職について受験を認めました。これは全体の職種の中の五十%に当たるとされ
ています。まだダメなところもあるんです。例えば、消防団員、消防署員。両方ともダメなんです。な
ぜダメなのか、それはちよつと皆さんお考えください。まだおかしなところはいっぱい残っております。
けれどもこの年に撤廃されて採用されました。そういうことも起こってまいりました。この会館につ
いでも、一人が無事合格されて採用されました。そういうことも起こってまいりました。この会館につ
いても、連続フォーラム「チョゴリときもの」の全体司会をされている鄭（チョン）さんは韓国から来ら
れた方です。「在日」の方ではないですが、国籍をこえて立派に仕事をされております。このフォーラム
「チョゴリときもの」はすべてと言つていいほど、鄭昌根（チョン・チャンゲン）さんの力によるもの

です。今日また特別の司会をさせていただいた金さん、この方もこの協会の職員ですが、大変な難関なんです。この協会の職員になろうと思うと、日本語は別にそれ以外に二外国語はちゃんとできなきゃいけない。三十数倍というすごい競争率ですが、その難関を突破して合格された。この団体は京都市の職員ではありません。外郭団体の職員ではありませんけれど、そういう所で韓国から来られた方、「在日」の方が活躍しておられます。そんなこともあってこのようなフォーラムや今日のような催しが成功しているわけですけど。今までむしろ国籍条項を楯にとつて、外国籍の職員は受験できない、採用しないというようなことがいかに間違っていたかということは、このお二人の活躍を見てもよくわかるのではないかと思います。このように見てくると、少しずつ十年間のあいだ日本も京都市も変わってきたという思いは確かにあります。いろいろできなかったことができるようになってきたことでもあります。ここでこうしてトルヂヤンチやチヨゴリの実演ができるなんてことは、十年前だったらまず考えられなかったことでしょうね。そういう点でまだまだいたらないところがある日本の政治や行政ですけども、少しは良くなってきているのだというようにこれははっきり評価をすべきだと思います。しかしながらまだ時にはいろいろな逆風もあります。例えばこれは京都府内のことですが、宇治のウトロ地区での土地の問題。あの土地は皆さんも存じのように、戦争中京都軍用飛行場をあの近くで建設しておりました。その飯場で働いていた在日朝鮮人の方が軍用飛行場の仕事はなくなっただけで、その飯場から出て他に住む所がないのでそのまま住んでおられた。そして代を重ねて、そこで建て替え建て替えて今に至っております、約三百人近い方が住まれているわけです。その土地に自分たちの物だという所有権はありません。それはわかっていることなんです。けれどもそこに飯場に住んで仕事しろと言われたから住んでたということですから、そのことをほったらかしにして日本の自治体が何もしてこなかった。京都府や宇治市が手をこまねいたままでほったらかしにしていた。そのために水道の敷設も非常に遅れたということもあ

ります。そういうことが実は問われねばならないのに、そういった日本の戦後補償、戦後責任を抜きに
したまま、今や宅地開発会社によって追い出されようとしている。そのことについてウトロの住民なら
びに協力者は裁判でもって戦いましたけれども、最高裁ですべて退けられるということになってしま
いました。土地取り上げの恐怖にまだおののかねばならない日が続いているわけです。あるいは数日前の
新聞をご覧いただいたらわかりますように、民族学校、朝鮮学校や韓国学校、京都には韓国学校が一つ、
民族学校が三つありますが、その高校にあたる高等部の卒業生が国立大学に対して受験をするとい
う問題があります。かつては一旦、日本の定時制高校などに席を置いて大検を受けて、大検の資格を取
た上で受験する。こういうことだったんですが、今は高校在籍資格はゆるめられて、大検の試験を受け
て、それに通れば良いということになっておりました。それとて二重の回り道なんです。大学受験とい
うのは、自分の志望に応じて、大学と学部、専攻を選んでいくわけですから、その大学の入学試験に
合格すれば、それで何も問題ないわけです。ところが文部科学省はこのほど欧米系の国際学校の卒業生
という枠をいまだに持ち続けているわけです。ところが外国籍の者に限って大検の受験が必要であると、こ
ろが大検資格を免除する。いきなり大学、つまり国立大学を受けても良いということを認めました。こ
ろがアジア系の学校、韓国学校、朝鮮学校、あるいは中華学校、これは神戸にあります、そういうと
ころの学校は引き続き検討するが今の段階では認めないという決定をいたしました。これは大変なアジ
アの人々に対する民族差別であり、まして「在日」の歴史というものを頭から排除する、そういうた
めであります。そういうた逆風が時折ふいておることも事実です。これをはね返していかねばなりませ
んが、当事者である「在日」の方々だけではなくて、広い日本人がやはりその運動に協力する立ち上が
つていかなければはね返せない類のものであります。そういうことを考えるとまだまだ私たちはやるこ
とがいっぱいある。「在日」の方々を巡って日本社会で、あるいは京都市でやることがいっぱいあるとい

うことに思いを致さざるを得ません。ということとは、今日のような催しあるいは「チヨゴリときもの」のようなフォーラムがまだまだ必要であると言えましょう。この場でこそ初めて普段はわからないけれども、実は「在日」であったという人と日本人とが向き合える。直接の声を聞く、意見を聞く、あるいは今日のように試食させていただくと、こういう試みを通じて分かり合えるということになるわけです。分かり合うというのは同じような立場にあるもの、同じような資格にあるもの、同じような年齢・階層にあるもの、つまり似た者同士だったらすぐわかるんです。ところが違いがあるものについてはわかりにくいということがあって当然です。日本人と韓国・朝鮮人の方あるいは「在日」の方は本当に顔かたちはよく似ております。けれども違いがある。その違いは何かという文化です。文化といえれば当然言葉が違ふ。文字も違ふ。食べ物も違ふ。名前も違ふ。習慣が違ふ。そのような習慣、文化、言葉、文字の違いなどをこの二回の特別フォーラムで私たちは実感することができました。「在日」の方々は遠い異郷でこうして定住して暮らしておられます。おそらくこのまま四世、五世も定住を重ねられるでしょう。その中でも自分たちの文化をなんとか子孫に伝えたいという思いでこのような催しといますか習慣を家庭の中で続けていらつしやる。そのことを日本人はもつと知らねばいけないです。似てるようなことだけれど、しかしながら違ふんだ。名前が違ふ、文化、風俗、習慣が違ふ。違つたところを違ひとして認めつつ共存し合つていく。共に生きていくということがこれからますます問われる時代だと思ひます。違いを認めないで、皆一緒になつたらいいんではないかということだけではすみません。それは今日のおいしいお餅の味を一つ見てもわかります。日本のお餅とは似てはくれますね。どちらがおいしいかおいしいくないか、これはそれぞれの民族の違いによって変わつてきましょう。日本人にとつて日本人のお餅や食べ物、お酒がおいしいと思へば、韓国・朝鮮の方や「在日」の方はそうではない。自分たちの方がおいしいと思われるのは当然ですね。そういう違いを認めながら、どちらがいいと

か悪いとか、どちらが上でどちらが下であるとか、そういうことを考えないで違いを認めつつ付き合っていく。これが本当の意味での共生だと思います。そういう意味でこれから共生の時代へ向けて、まず「チヨゴリときもの」あるいは国際交流協会の事業、お仕事が市民の皆さんと共に広がっていくことを期待して、この十年目の催しの最後の締めくくりとしたいと思います。どうもありがとうございます。

司会 仲尾先生ありがとうございます。「在日」という立場の人が生まれてから五十年。五十年経ったのにまだ解決されない問題、そして五十年経ったからこそまた新しい問題ができています。そういうことについてこの催し物もそうですけど、いろんな角度から当国際交流協会は取り組んでまいりたいと思います。また来年以降こういうふうな機会がありましたら、また足をお運びください。本日は最後までお付き合いいただきましてありがとうございます。今日の主役も服を着替えられましたけど、ジン君、高木咲良ちゃんは今外に出てらっしゃいますが、どうか皆さん、大きな拍手をお送りください。ありがとうございます。それではこれで終わりたいと思います。アンケートをお配りしておりますので、何でも結構です。一言お書きいただいで、出口にございますアンケート回収箱に入れてくださいますようお願いいたします。本日はありがとうございます。

「チョゴリときものの10年」 在日にとってのこの10年

- 1993 ・外国人登録法改正、施行。永住者の指紋押捺廃止、署名・写真、家族登録にかわる。
・在日への入居差別に対して大阪地裁が原告勝訴の判決。
・大阪府岸和田市で地方参政権付与要請決議。以後1300以上の地方議会が同様趣旨の決議。
- 1995 ・大阪地裁、在日元軍からの国戦後補償提訴について敗訴とするも違憲の疑いあり、との判決。
・最高裁、地方参政権問題は立法府の裁量権の問題との判断提示。
- 1996 ・白川自治相、地方公務員の国籍制限条項は地方自治体の判断に任せると表明。
- 1997 ・浪速国体で外国籍選手が卒業後も参加可能となる。
・京都市国際化推進大綱策定
- 1998 ・北朝鮮の「ミサイル」発射疑惑報道にからんで各地の朝鮮総連本部が襲撃され朝鮮学校生徒も脅迫を受ける。
・国連規約人権委員会が最終見解として民族学校の1条校並取扱、入国許可条件等の撤廃を勧告。
・京都市外国籍市民懇話会が市長の私的諮問機関として発足。
- 1999 ・外国人登録法改正。1年以上滞在の外国人に対する指紋押捺免除。「不法残留罪」など新設。
・京都市高齢外国籍市民福祉給付金実施。
- 2000 ・ウトロ訴訟、最高裁審理ですべて被告・在日側の敗訴が確定。
・金大中韓国大統領が平壤訪問、朝鮮民主主義人民共和国の金正日国防委員長と会談、その成果のひとつとして総連系在日朝鮮人が韓国を初訪問。また各地で民団系と総連系の団体の交流が始まる。
・民族学校生の大学入学検定試験受験について日本の高校在籍要件を撤廃。
・石原東京都知事「三国人」などと民族差別発言をする。抗議にも撤回せず。
- 2001 ・京都市、一般職、技術職について外国籍者の受験要件を緩和。採用試験始まり受験者がでる。
- 2002 ・京都市外国籍職員の任用に関する要綱設置。・在外被爆者救済訴訟、高裁レベルで原告側勝訴。
・小泉首相、平壤を訪問、金正日総書記と会談。平壤宣言を発表。拉致問題報道の影響で各地で朝鮮学校生徒らへの脅迫がでる。
- 2003 ・国立大学受験資格について文部科学省はインターナショナルスクールと民族学校との取り扱いについて差別することを方針化。

あとがき

私が韓国から初めて来日した際、「在日」のことは、社会常識として、「差別がある」という漠然とした知識しか持っていなかった。イメージとしては、「在日」は何不自由なく韓国・朝鮮語が話せ、家のなかには韓国・朝鮮のもので溢れており、世代を問わず、韓国・朝鮮文化に精通していると…。もちろん、在日に本名と通名があるという実態、さらには、「在日」のことを研究し、関心を持っている日本人がいることは知る由もなかった。

「生活上、二つの名前を使い分けていることがある…。」

私の「在日」に対する関心は、まさに彼らの名前から始まったのである。

連続フォーラム「チョゴリときもの」は、恥ずかしいことながら、そのような無知からの出発であった。仲尾宏先生に出会ったのは、このフォーラムを企画する上で、一番の幸いなことであった。そこで受けた先生のアドバイスは、私の「無知」から、知ろうとする「努力」に変えてくれた。「知ろうとする」、そのためには在日一般の日常生活や文化、そして日本社会での思いを聞くことから始めよう…。

これこそが、連続フォーラム「チョゴリときもの」の趣旨となり、形となっていた。
あれから十年。

コーディネーターの仲尾先生、ご出演いただいた「在日」の方々。ありがとうございました。

(財)京都市国際交流協会

事業課 鄭昌根

チヨン

チヤンジン

アジアの風文庫 19

「チョゴリときもの」

～十回目の話から～

2003年10月 第1刷発行

編集・発行 財団法人 京都市国際交流協会

〒600-8536 京都市左京区粟田口鳥居町2の1

TEL. 075-752-3010

印刷 株式会社 アルファ・プリント社

